

竹の焼畑と稲作

～竹林文化論への試み～

鹿児島県歴史資料センター黎明館学芸課長 川野和昭

キーワード：竹、焼畑、竹細工、混合林、再生の森、儀礼、雑草、焼米、稲作神話

I はじめに～現地調査のねらい～

今回の調査は、大学共同機関法人・人間文化機構・総合地球環境学研究所の研究プロジェクト「農業が環境を破壊するとき—ユーラシア農耕史と環境—」（プロジェクトリーダー佐藤洋一郎教授）の一環として行った現地調査の報告である。

調査地域はラオス東北部のヴェトナム国境沿いに位置するフアパン県サムタイ郡及びフアパン県の西部地域に位置するトン郡、さらにその西側のルアンパバーン県カム郡を対象にして、そこに生きる人々と竹との関わり合いを探ることになった。具体的には、竹を重要視する焼畑に焦点を当て、対象とする森と竹、その竹の利用と竹細工の関係、竹の子と食、森の伐採、火入れ、種播き、雑草、焼米、収穫、森の再生過程等に関する伝統的技術や、稲作神話を聞き書きの手法で記述することになった。

それらは、これまで筆者がトカラ列島、大隅半島、九州山地で進めてきた「竹の焼畑」と比較するという意図が含まれているものであり、総合地球環境学研究所の研究プロジェクト「アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史の総合的研究：1945-2005」（プロジェクトリーダー秋道智彌教授）の調査の延長として実施したものである。

特に、竹の再生力を生かした持続可能な焼畑ということを明らかにしようとするところにねらいがあった。そして、それを支えている各民族、さらには集落単位が持つアイデンティティーを探るために、稲作神話と糯米の品種の多様性、さらに稲作神話と竹、稲作神話と稲作儀礼との相互の関係についても聞き取りを深めてみた。中でも、稲作文化における魚と鳥のモチーフの意味を探ることは大きなテーマであった。

また、筆者が従来試みてきた「焼畑その後」と呼ぶ、再生過程にある森の認識と、その利用についても前回の調査を深めることに努めた。そこに見えてくるものは、これまで言われてきたように単に焼畑跡地を休閑させているのではなく、半管理、半自然の状態で森を食べ、森を育てて、再生を遂げた森を再び焼畑に利用するという持続可能な農業としての焼畑である。それは、焼畑跡地と焼畑民の関わり方という問題が、これまでの焼畑の研究で見落とされてきた重要な問題であるという認識に基づいたものである。つまり、焼畑跡地の再生過程に注がれる焼畑民の眼差しまで含めた、新たな焼畑文化論を視野に入れた取り組みである。

さらに、日本列島のなかで南九州や南西諸島という地域のローカルな問題だと思われがちな竹の焼畑が、アジアというグローバルな文化として浮かび上がってくるのが期待されるからである。

また、それはこれからの緑の地球の再生を考える上で、人と森との関わり方のモデルを示すことにつながっていくという見通しも予感されるからである。

II 調査行程

- 2008/02/12(火) 鹿児島自宅発→鹿児島中央駅→博多駅→福岡国際空港→Bangkok International Airport→Vientiane International Airport→Aroon Residence Hotel104号室泊
- 2008/02/13(水) Aroon Residence Hotel104号室発→Vientiane International Airport (荷物受取未到着) →ARC訪問 (MOU締結調印依頼) →NAFRI訪問 (MOU締結調印依頼) →Aroon Residence Hotel104号室→Vientiane International Airport国際空港 (荷物受取終了) →Aroon Residence Hotel104号室泊
- 2008/02/14(木) Aroon Residence Hotel104号室発→Van Vieng郡B・Somsav→Kasi郡B・Tahahuea (昼食) →Luang Prabang県Phu khun郡B・Phu khun→Xiengkhuang県Phonsavan・Phou Kham Guest House209号室泊→Sanga Restaurant (夕食)
- 2008/02/15(金) Phou Kham Guest House209号室発→Sanga Restaurant (朝食) →Muang Kham 通過→B・Nam Nuen (昼食) →Xam Neua・Danxan Guest House101号室泊 →Meuang xan Restaurant (夕食)
- 2008/02/16(土) Danxan Guest house101号室発→Viexai通過→Xai郡B・Duandou (昼食) →Xam Tai・Sonesavanh Guest House203号室投宿→Nang Bing Restaurant (夕食)
- 2008/02/17(日) Sonesavanh Guest house203号室発→Nang Bing Restaurant (朝食) →Nam Xam 渡河→B・Phat Tai (Tai Deng族) →Nam Xam渡河→Sonesavanh Guest house203号室泊→Nang Bing Restaurant (夕食)
- 2008/02/18(月) Sonesavanh Guest House203号室発→Nang Bing Restaurant (朝食) →Nam Xam 渡河→B・Phat Tai (Tai Deng族) →B・Tao (Tai Deng族) →Nam Xam渡河→Sonesavanh Guest House203号室泊→Nang Bing Restaurant (夕食)
- 2008/02/19(火) Sonesavanh Guest House発→Nang Bing Restaurant (朝食) →B・Nara (Tai Deng族) 通過→B・Muang Kuwang (Thai Deng族) 着→B・Pung Siang (Khamu族) 着・村長宅民泊
- 2008/02/20(水) B・Pung Siang (Khamu族) 村長宅発→B・Muang Kuwang (Tai Deng族) 着・発→B・Nam Khuang (Tai Deng族) 着・Sonnpen村長宅泊
- 2008/02/21(木) B・Nam Khuang村Sonnpen村長宅発→B・Phosy (Hmong族) →B・Shenri(Tai Deng族) →Sonesavanh Guest House203号室泊→Nang Bing Restaurant (夕食)
- 2008/02/22(金) Sonesavanh Guest House203号室発→Nang Bing Restaurant (朝食) →Nam Xam 渡河→Xam Tai郡B・Phao Neuan (Tai Deng族) →Nam Xam渡河→Sonesavanh Guest House203号室泊→Nang Bing Restaurant (夕食)
- 2008/02/23(土) Sonesavanh Guest House203号室発→Nang Bing Restaurant (朝食) →Xam Tai 郡B・Tam Kuwai (Hmong族) →Vieng Xai市場食堂 (昼食) →Xam Neua・

- Danxan Guest House101号室泊→Meuang Xam Restaurant (夕食)
- 2008/02/24(日) Xam Neua・DanxanGuest House101号室発→Meuang Xam Restaurant (朝食) → Houa Muang郡B・Khankao (Hmong族) →Vieng Thong着→Tontavanh Restaurant (昼食) →Dokuchampa Guest House206号室投宿→Tontavanh Restaurant (夕食)
- 2008/02/25(月) Dokuchampa Guest House206号室発→Tontavanh Restaurant (朝食) →Thong郡B・Phueng Done (Khmu族) →Tontavanh Restaurant (昼食) →Thong郡B・Leng (Tai Deng族) 着・村長宅泊
- 2008/02/26(火) Thong郡B・Leng (Thai Deng族)・村長宅発→Tontavanh Restaurant (昼食) → Luang Prabang県Vieng Kham郡B・Sophuang (Lao族) →Vieng Kham通過→ Luang Prabang県Ngoi郡Nongkiau着→Phonoy Guest House 1 号室泊→同宿夕食
- 2008/02/27(水) Phonoy Guest House 1 号室発→Luang Prabang県Nam Bak郡B・Nyanang Tai(Tai Lue族)着・発→Phonoy Guest House 1 号室泊
- 2008/02/28(木) Phonoy Guest House 1 号室発→Luang Prabang県Kham郡農林事務所着・発→ Vieng Thong・Tontavanh Restaurant (昼食) →Houa Phan県 Thong郡B・Tamlar Neua (Tai Phouane族)・Anpon村長宅泊
- 2008/02/29(金) Thong郡B・Tamlar Neua (Thai Phouane族)・Anpon村長宅滞在泊
- 2008/03/01(土) Thong郡B・Tamlar Neua (Thai Phouane族)・Anpon村長宅発→Thong郡B・Narkut (Thai Phouane族) 着・発→Vieng Thong・Tontavanh Restaurant (昼食) →Daku Khounthong Guest House203号室泊→Tontavanh Restaurant (夕食)
- 2008/03/02(日) Daku Khounthong Guest House203号室発→B・Houayd Teun (Yao族) →Daku Khounthong Guest House203号室泊→Tontavanh Restaurant (夕食)
- 2008/03/03(月) Daku Khounthong Guest House203号室発→Luang Prabang県Kham郡B・Sophuang (Lao族) →Vieng Kham→Vansay Guest House 107号室投宿→B・Samtom(Khamu族)→B・Ombring (Hmong族) →B・Samtom (Khamu族)→Vansay Guest House 107号室泊→Saynamng Restaurant (夕食)
- 2008/03/04(火) Vansay Guest House 107号室発→B・Ombring (Hmong族) →B・Phusy(Khamu族) →Vansay Guest House 107号室泊→Saynamng Restaurant (夕食)
- 2008/03/05(水) Vansay Guest House 107号室発→B・Samtom (Khamu族) →Vieng Kham 通過 →Nongkiau着→Phonoy Guest House 2 号室泊
- 2008/03/06(木) Phonoy Guest House 2 号室発→Nam Bak郡 Nyanan Tai (Thai Lue族) →Luang Prabang着・Tyoi氏宅→Mani Phon Guest House210号室投宿
- 2008/03/07(金) Mani Phon Guest House210号室発 →B・Kyukachang通過 →Luang Prabang県 Phukhun郡B・Phukhun通過 →Kasi郡B・Tahahuea (昼食) →Vientiane・Aroon Residence Hotel104号室泊
- 2008/03/08(土) Aroon Residence Hotel104号室発→ARC訪問 (MOU契約書受取・DNA機材点検) →Aroon Residence Hotel104号室・休憩→Vientiane International Airport発

(TG694便) →Bangkok International Airport着・発 (TG695便) →(機中泊) 泊
2008/03/09(日) 福岡国際空港着→博多駅→鹿児島中央駅→自宅

III 竹の焼畑と稲作儀礼

1 焼畑の対象とする森

(1) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phat Tai村・Tai Deng族

N19° 58' 15" E104° 40' 36.1" H307m

2008年2月17日聞き書

竹と木が混じっている森がハイ（焼畑）に適している。竹が混った森は、竹の再生が速いので、竹の作る日陰や竹の根の水分のおかげで、後から木が再生してくるので、木だけの森よりも再生が速い。

それに対し、木だけの森は、燃やして種まきをした後、乾燥して水分がなくなるので稲に良くない。さらに、木だけの森だとパーケー（年取った森）に再生するのが遅くなる。

また、竹だけの森は、根が多いので燃やした後その部分が空洞になって、稲の根が伸びずに枯れやすい。

(2) Houa Pang県 Xam Tai郡 Tao村・Tai Deng族

N19° 53' 40.6" E104° 44' 28.4" H295m

2008年2月18日聞き書

木だけの森は、乾燥して水分がないので、雨が15日も降らないと稲は枯れて死んでしまう。

(3) Houa Pang県 Xam Tai郡 Nam Khuang村・Tai Deng族

N19° 50' 40.7" E104° 32' 35.5" H610m

2008年2月21日聞き書

木だけの森の方が、土地に水分がよく残るので稲によい。

(4) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phao Neuan村・Tai Deng族

N20° 05' 39.4" E104° 43' 50.3" H595m

2008年2月22日聞き書

土にもよるが、竹と木が混じった森の方がよい。土がよければ、木だけの森でも良い。

(5) Houa Pang県 Thong郡 Leng村・Tai Deng族

N20° 24' 58.4" E103° 22' 00.9" H791m

2008年2月26日聞き書

竹と山の木とが混じった森がよい。稲もきれいにできるし、竹の（燃えた）ところに茄子や唐辛子を植えることができる。山の木だけだと伐る作業も大変だし、その上燃やしにくく、稲が枯れてきれいに実らない。

(6) Houa Pang県 Thong郡 Tamlar Neua村・Tai Phouane族

N19° 55′ 36.0″ E103° 26′ 42.9″ H1257m

2008年2月29日聞書

斜面が急でない場所で、土がつもっている場所が適している。竹とマイチン（木）が混じっている森がよいと言うが、竹の混じる森はこの村から7kmも離れたところまで行かないとない。

しかし、マイチンだけの森でも、皮に触ると痒くなるマイミトウという木が混じっている森であれば、土に湿気があるので、竹が混じっているよりも焼畑に適している。マイミトウが混じっていないマイチンだけの森は、焼畑にしたくない。また、実のなる蔓性のマイノツという木は、地面から50cmくらいの高さのところから根が伸びていて、伐っても水がそのまま残っているので、稲を育てるのによい。また、根が蔓みたい地面を這っているので、焼いたとき肥料にもなるので稲によい。

(7) Houa Pang県 Xam Tai郡 Pung Siang村・Khamu族

N19° 46′ 41.95″ E104° 32′ 03.9″ H642m

2008年2月20日聞書

タネック（ラオ語名マイホック）という竹や野性バナナとマイチン（山の木）とが混じっている森が焼畑地に適している。タネックが混じっていると、竹の葉がたくさん落ちて、それが肥料となって土地が肥えている。バナナが混じっていると土地に水分があるのでよい。

逆に、木だけの森だと、日照りが2週間超えたら、稲が枯れるので良くない。

(8) Houa Pang県 Thong郡 Phueng Done村・Khamu族

N20° 06′ 13.7″ E103° 23′ 18.8″ H653m

2008年2月25日聞書

タネック（ラオ語名マイホック）という竹とマイチン（山の木）とが混じっている森で、斜面がの斜度が余りきつすぎず、平らな部分が少しある場所が、焼畑地として最適である。また、午前中に陽が当たって、午後はそれほど当たらなくても良い。タネックが混じると草は多いが、雨が降らなくても長い間土が涼しく、水分があるので、稲の成育に良い。

マイチンだけの森は、草が少なくて良いが、雨が降らないとすぐに稲が枯れてしまうので良くない。

(9) Luang Prabang県 Kham郡 Samtom村・Khamu族

N20° 26′ 27.8″ E102° 56′ 51.9″ H830m

2008年3月5日聞書

ハレッ（焼畑）に適する森としては、黒くて湿った土で、石の入っていない土地の森がよい。サラナン（木）が生えていて、ニャーチロー（ラオ名のニャーワイという草）が混じっているところがよい。ニャーチローの葉っぱが土の色を黒くし、湿気を持たしてくれる。

マイチン（山の木）だけの森は、雑草が少ないので良いが、雨が降らないとすぐに稲が枯れてしまうので良くない。

(10) Houa Pang県 Thong郡 Houayd Teun村・Yao族

N20° 16' 38.3" E103° 22' 13.7" H1136m

2008年3月2日聞き書

デイ（焼畑）の適地は、土の善し悪しを見て決める。土が湿り気を持っていて、柔らかくて、黒い色をしているところがよい。土掘り具で深さ20cmくらいの穴を掘ってみる。そして、掘り出した土をもとの穴に返して、戻した土が穴よりも盛り上がったなら良い土である。穴の口よりも下になったら駄目な土である。

木の根や竹の根が地面の浅いところに出ているの土地は、稲が実らないので焼畑地としては良くない。

(11) Luang Prabang県 Kham郡 Ombring村・Mhong族

N20° 24' 24.6" E102° 59' 24.3" H940m

2008年3月4日聞き書

テイ（焼畑）に適する森としては、軟らかく、湿気の土があるところが良い。硬い土は通水性が悪いので良くない。赤い石の入っていない土が良い。砂の入った土は良くない。また、ニャーカーという草やコッカー（野牡丹）が出る土も良くない。マイチューという棘があり、樹脂を出す大きな木のあるところも良くない。マイボンという竹だけの森でも、マイチン（木）だけの森でも土が良ければ良い。しかし、マイボンは高い山にはあまりない。マイソツという竹の森は、土が乾燥しているので、稲を植えてもあまり実らない。

2 焼畑に適する竹の順位

(1) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phat Tai村・Tai Deng族

N19° 58' 15" E104° 40' 36.1" H307m

2008年2月17日聞き書

① マイライという竹とマイチン（木）の混じっている森

この竹と木の両者が混じっている森が一番よい。土が詰まっていて、とても水分が多いので、雨が一ヶ月降らなくても乾かない。特にマイライは、燃やした後の灰が多すぎずに、雨が降っても降らなくても土が乾燥しないので稲作に適している。稲の穂がとても大きく実る。マイチンは、どんな種類の木でもよい。

② マイクワン、マイヒヤ、マイソツ、マイホックという竹のそれぞれとマイチン（木）の混じった森

この4種類の竹は同程度である。燃やした後の灰が多すぎて、雨が多く降ると稲の茎が伸びすぎて穂が大きくならずに倒れてしまう。雨が少ないと枯れてしまう。

(2) Houa Pang県 Xam Tai郡 Tao村・Tai Deng族

N19° 53' 40.6" E104° 44' 28.4" H295m

2008年2月18日聞き書

① マイライという竹とマイチン（木）の混じっている森

この竹と木の両者が混じっている森が一番よい。この二つが混じると、20日から25日雨が降らなくても大丈夫である。マイライだけの森でも大丈夫である。

② マイホックという竹とマイチン（木）の混じった森

山の木が混じっていないけれども大丈夫であるが、地面が乾きやすい。

③ マイソット・マイヒヤ・マイハーンという竹のそれぞれとマイチン（木）が混じっている森

特に、マイハーンだけの森は、10日～15日ばかりも日照りが続くと、稲が枯れる。

(3) Houa Pang県 Xam Tai郡 Nam Khuang村・Tai Deng族

N19° 50′ 40.7″ E104° 32′ 35.5″ H610m

2008年2月21日聞き書

マイホックの場合は、根が大きいから山の木が混じらない。1年目よりも2年目の方が稲は良くできる。マイホック以外の竹はこのあたりには生えていない。

(4) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phao Neuan村・Tai Deng族

N20° 05′ 39.4″ E104° 43′ 50.3″ H595m

2008年2月22日聞き書

川沿いで、マイホック、マイヒヤ、マイクワン、マイコンなどの竹とマイチン（木）の混じった森が、焼畑には一番適している。これら4種類の竹は水分のあるところに生育している。つまり、これらの竹が生えているところは水分が多いからである。また、竹は燃やしたときに火が多く出てよく燃えて、肥料となる灰が多く出るから焼畑によい。竹の混じった森の方が稲が強くて育つ。

(5) Houa Pang県 Thong郡 Leng村・Tai Deng族

N20° 24′ 58.4″ E103° 22′ 00.9″ H791m

2008年2月26日聞き書

① マイホックという竹とマイチン（木）が混じっている森

この森が稲を栽培する焼畑には一番適している。マイホックは、伐り株の直径が10センチくらいあり、焼いても死なないので水分をいつまでも保っているから稲に良い。

② マイヒヤという竹とマイチン（木）が混じっている森

この森が①の次に良い。マイヒヤは、伐り株が小さく燃えやすく、肥料になる灰の量が多い。マイホックの混じった森に比較して稲の収穫量が少ない。

③ マイチャーという竹とマイチン（木）が混じっている森

この森が三番目に適している。マイチャーは、竹の直径が小さく、地下茎で伸びて広がっている竹で燃えやすい。しかし、マイヒヤよりも水分が少ない。

(6) Houa Pang県 Thong郡 Tamlar Neua村・Tai Phouane族

N19° 55′ 36.0″ E103° 26′ 42.9″ H1257m

2008年2月29日聞き書

① マイチャーという竹とマイチン（木）とが混じっている森

この森が最も焼畑に適している。マイチャーは、根が地下茎で伸びて広がっているので、土に一番湿気があり稲がきれいにできる。

② マイホックという竹とマイチン（木）とが混じっている森

この森が、土に湿気があり二番目焼畑に適している。

③ マイサンという竹とマイチン（木）とが混じっている森

この森は、土に湿気がない。

(7) Houa Pang県 Xam Tai郡 Pung Siang村 Khamu族

N19° 46′ 41.95″ E104° 32′ 03.9″ H642m

2008年2月20日聞き書

① タネック（ラオ語名称マイホック）という竹とマイチン（木）が混じっている森

この森が焼畑には一番適している。タネックの葉が落ちて、肥料となって土が肥えている。

② 野性バナナとマイチン（木）が混じっている森

この森が2番目に焼畑に適している。この森は、水分が多く、日照りが1ヶ月続いても稲が枯れないので良い。

(8) Houa Pang県 Thong郡 Phueng Done村・Khamu族

N20° 06′ 13.7″ E103° 23′ 18.8″ H653m

2008年2月25日聞き書

タネック（ラオ語名称マイホック）という竹とマイチン（山の木）とが混じっている森が、焼畑地として最適である。タネックが混じると草は多いが、雨が降らなくても長い間土が涼しく、水分があるので、稲の成育に良い。

(9) Luang Prabang県 Kham郡 Samtom村・Khamu族

N20° 26′ 27.8″ E102° 56′ 51.9″ H830m

2008年3月5日聞き書

① タネック（ラオ語名マイホック）やプラハーン（ラオ語名称マイサン）という竹とサラナン（木）が混じっている森

この森は稲がきれいに実る。1年稲を作った後5年から6年で再びハレツに伐り拓くことができる。それでも、ニャーチロー（ラオ語名称ニャーワイ）という草が混じった方が良く、1年稲を作った後3年置くと再びハレツに伐り拓くことができる。

② タラー（ラオ語名称マイヒヤ）やチョーイ（ラオ語名称マイソツ）がある森

この森は、稲がきれいに穫れない。この地域はタラーやチョーイが多いので稲が良く穫れない。

(10) Houa Pang県 Thong郡 Houayd Teun村・Yao族

N20° 16′ 38.3″ E103° 22′ 13.7″ H1136m

2008年3月2日聞き書

① ハオパン（ラオ語名称マイボン）という竹とタビャンコーという椎の木と紅葉するリヤ

ンホン（ラオ語名称マイサロー）という木が混じっている森

ハオパンは、地下茎で延びて1本ずつ立つ竹で、直径が親指大の竹である。直径の大きな竹が生えている森は、土が良く稲がたくさん穫れるので、デイ（焼畑）に適している。

また、タビャンコーには、タビャンヒヤツ、タビャンターオ、タビャンジャン、タビャンツウワイの4種類があるが、タビャンヒヤツが多く混じっている森が良い。

- ② ハオカーン（ラオ語名称マイワン）とハオインム（ラオ語名称マイコンム）という竹だけが生えている森

(1) Luang Prabang県 Kham郡 Ombring村・Hmong族

N20° 24' 24.6" E102° 59' 24.3" H940m

2008年3月4日聞き書

- ① マイポンという竹だけの森

この森でも、マイチン（木）だけの森でも土が良ければ良い。しかし、マイポンは高い山にはあまりない。

- ② マイソツという竹の森

この森は、土が乾燥しているので稲を植えてもあまり実らない。

3 竹細工に適する順位

(1) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phat Thai村・Tai Deng族

N19° 58' 15" E104° 40' 36.1" H307m

2008年2月17日聞き書

- ① マイクワン

トック（竹紐）、テーツ（菜園畑の竹壁）、ドンファット（脱穀調整用円形浅底箕）、ドンブン（穀物乾燥、もろみ製造、糠入れ用大型円形浅底箕）、ファット（糯米ご飯蒸し器）、ホー（蚕飼育籠）カティップ（蒸し糯米ご飯入れ）、ブン（天秤掛け用運搬籠）、モーン（魚籠）

- ② マイヒヤ

クーン（米篩）、ファーパイ（堰用竹壁、家の竹壁）

- ③ マイホック

タートファー（家の床板）、カティップ（蒸し糯米ご飯入れ）

- ④ マイソット

ファンファー（焼畑の柵の横木）、コーンパツ（揚水水車の梁）、コーンファン（垂木材）

(2) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phao Neuan村・Tai Deng族

N20° 05' 39.4" E104° 43' 50.3" H595m

2008年2月22日聞き書

- ① マイクワン

この竹の特徴は、節が長く折れにくく強い。さらに、虫に食われない。

サーブト (竹マット), ドーン (脱穀調整用円形浅底箕), クーン (脱穀調整用円形浅底
篩), トークマツ (竹紐), ティツプカオ (ご飯入れ籠)

② **マイホック**

この竹の特徴は、直径が大きいのので割って開いたとき広くなる。

ターット (床板), サート (竹マット), トークマツ (竹紐)

③ **マイヒヤ**

この竹の特徴は、節が長く、肉が薄く割れにくい。

フアーファン (家の編み壁), コーンファン (垂木), ドーン (脱穀調整用円形浅底箕),
クーン (脱穀調整用円形浅底篩)

④ **マイハーン**

この竹は、山の頂上の土が枯れているところに生えている。その特徴は、節は短いが強
くて (粘りがあって) 折れない。

トークマツ (屋根葺き茅を編む竹紐)

(3) Houa Pang県 Thong郡 Phueng Done村・Khamu族

N20° 06' 13.7" E103° 23' 18.8" H653m

2008年2月25日聞き書

① **タネック** (ラオ語名称マイホック)

ピヤルー (浅底箕円形箕), トリエール (浅底箕円形篩), サロー (稲粃扱き腹籠),
エーupp (虫ご飯入れ円筒籠), プルーン (蓋付き衣装入れ籠), ベンローツ (魚籠)

② **チョーイ** (ラオ語名称マイソツ)

プルーン (蓋付き衣装入れ籠), ラーイ (屋根葺き板), グルーン (板壁), ベンローツ
(魚籠)

③ **タラー** (ラオ語名称マイヒヤ)

プルーン (蓋付き衣装入れ籠), ラーイ (屋根葺き板), グルーン (板壁), ベンローツ
(魚籠)

④ **プラハーン** (ラオ語名称マイサン)

サローオツ (垂木)

4 竹の子の美味しさの順番と匂と調理法

(1) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phat Tai村・Tai Deng族

N19° 58' 15" E104° 40' 36.1" H307m

2008年2月17日聞き書

① **ノーライ**……8月~10月

ケーン……薄く削ってスープにして食べる。

ノーソン……スライスして揉んで、塩を入れずに竹筒に入れて発酵させる。

ノーソンヘン…ノーソンが酸っぱくなってから天日に干して食べる。

ノーケン……………スライスして塩で揉んで、瓶に入れて発酵させる。

スップ……………茹でて水切りして、香辛料を入れてサラダみたいにして食べる。

トシム……………茹でて、辛子味噌を付けて食べる。

② ノーホック…………… 8月～10月

ケーン……………薄く削ってスープにして食べる。

ノーソン……………スライスして揉んで、塩を入れずに竹筒に入れて発酵させる。

ノーソンヘン…ノーソンが酸っぱくなってから天日に干して食べる。

ノーケン……………スライスして塩で揉んで、瓶に入れて発酵させる。

スップ……………茹でて水切りして、香辛料を入れてサラダみたいにして食べる。

トシム……………茹でて、辛子味噌を付けて食べる。

ノーヘン……………茹でて、割いて乾燥させた乾し竹の子である。

③ ノーコンム…………… 2月～4月

ケーン……………薄く削ってスープにして食べる。

スップ……………茹でて水切りして、香辛料を入れてサラダみたいにして食べる。

トシム……………茹でて、辛子味噌を付けて食べる。

パオ……………皮を付けたまま火の中で焼いた焼き竹の子で、焼けたら皮を剥いて割いて辛子味噌を付けて食べる。

モック……………囲炉裏の熱い灰の中に突っ込んで蒸し焼きにして、蒸し上がったら皮を剥いて割いて辛子味噌を付けて食べる。しかし、出来上がるのに時間が掛かるのであまり食べない。

④ ノーヒヤ…………… 8月～10月

ノーソン……………スライスして揉んで、塩を入れずに竹筒に入れて発酵させる。

ノーソンヘン…ノーソンが酸っぱくなってから天日に干して食べる。

ノーケン……………スライスして塩で揉んで、瓶に入れて発酵させる。

トシム……………茹でて、辛子味噌を付けて食べる。

ノーヘン……………茹でて、割いて乾燥させた乾し竹の子である。

(2) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phao Neuan村・Thai Deng族

N20° 05′ 39.4″ E104° 43′ 50.3″ H595m

2008年2月22日聞き書

① ノーホック…………… 6月～8、9月

トシム……………茹でて、辛子味噌を付けて食べる。

ケーン……………薄く削ってスープにして食べる。

ノーソン……………スライスして塩を混ぜて、竹筒や壺に入れて発酵させる。5日間で食べられるようになる。塩を入れなくて作る方法もある。

ノーヘン……………茹でて、割いて乾燥させた乾し竹の子である。

② ノーヒヤ……………6月～8, 9月

トナム……………茹でて、辛子味噌を付けて食べる。

ケーン……………薄く削ってスープにして食べる。

ノーソン……………スライスして塩を混ぜて、竹筒や壺に入れて発酵させる。5日間で食べられるようになる。塩を入れないで作る方法もある。

ノーヘン……………茹でて、割いて乾燥させた乾し竹の子である。

③ ノーコンム……………2月～3月

トナム……………茹でて、辛子味噌を付けて食べる。

ケーン……………薄く削ってスープにして食べる。

ノーソン, ノーヘンにはしない。

(3) Houa Pang県 Thong郡 Phueng Done村・Khamu族

N20° 06' 13.7" E103° 23' 18.8" H653m

2008年2月25日聞き書

① タバンプライ (ラオ語名称ノーライ) ……7月～10月

タバントム……………茹でて、辛子味噌を付けて食べる。

ゴン……………スライスしてスープにして食べる。

② タバンタネック (ラオ語名称ノーホック)

タバントム……………茹でて、辛子味噌を付けて食べる。

ゴン……………スライスしてスープにして食べる。

タバンチャック

皮を剥いてスライスして、壺に入れて発酵させる。5日経ったら食べられ、20日間くらい保存できる。

皮を剥いて大きく割いて、壺に入れて発酵させる。5日経ったら食べられ、一年間くらい保存できる。

タバンスローン

皮を剥いて割いて天日に干して乾燥させる。

皮を剥いて割いてパンブラー^ツ (囲炉裏) の火で乾燥させる。

皮を剥いて割いてパンドルー^ツ (囲炉裏の上の火棚) で、薫製して乾燥させる。

タバancamニャック

皮を剥いて竹筒に詰めて、その筒を地面に立てた杭に逆さに入れ込んで、その上に重しの石を乗せて、発酵と乾燥をさせる。1年間くらい保存ができる。

さらに、一度筒から取り出してパンドルー^ツ (囲炉裏の上の火棚) で、薫製させると、2年間くらいは保存できる。

③ タバンタラー (ラオ語名称ノーヒヤ)

タバントム……………茹でて、辛子味噌を付けて食べる。

- ④ タバンチョイ (ラオ語名称ノーツ)
- タバントム……茹でて、辛子味噌を付けて食べる。
- ⑤ タバンヤクチョン (ラオ語名称ノークンム)
- 遠くにしかないので採りに行かない。

5 伐採に関わる儀礼(畑地の選び方)と信仰

(1) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phat Tai村・Thai Deng族

N19° 58' 15" E104° 40' 36.1" H307m

2008年2月17日聞き

① 占有標示 マイ・ハイ (標示・焼畑)

2月初め頃、畑に伐ろう思った森に行き、その範囲の各所にマイタクナイという標示を立てる。これは、1本の竹を立て、それを割ってそのうち1本の先端を円く輪に結んで残し、その他の先端を土に差し込んだものである。また、山刀で立木に三筋の切り傷を付けたりすることもある。他の人にここは自分が畑に予定しているということを標示するためのものである。

② 竹紐による占い シエントック

マイタクナイを立てた後、引き続きシエントックという占いを行う。18本の竹紐をぐるぐる振って両端が繋がっているかどうか分からないようにして、左端は左端同士、右端は右端同士をそれぞれの2本ずつ結び合わせる。それを土に埋めて土の精霊とか神様に、「これから畑を拓きます。この竹紐を結びますので、畑にして稲がよく収穫できるようだったら円く一つの輪になるように繋げてください。もしそうでなければ、繋げずに、欠けたり、めちゃくちゃにしてください」とお願いをする。そして土の中から取りだして、竹紐を広げてみる。竹の紐の結び目が繋がって一つの輪になっていなかったら、その森は畑に伐り開いてはならないという精霊の知らせである。それを無視して伐ると家の人間が病気になったり、死んだりするので、現在でも伐ることはしない。

③ 夢による占い シエンランファン

マイタクナイを立てる時に、伐って良いか悪いか夢を見させてくださいというお願いをする。それをシエンランファンと言い、その夜夢を見る。

ア、伐採許可の夢

高い山や崖をのぼる夢を見たら伐採してよい。これは、収穫した粃が米倉の中でうず高く盛り上がる予兆だからだという。

イ、伐採禁止の夢

人が近づいてくる夢を見たら、伐採してはいけない。夢で近づいてくるのは畑にいるピー(霊)で、伐ってはならないことを告げにきているのだという。

また、虎や猿、鹿などの野生動物の夢を見たら伐採してはならない。これらの野生動物も畑にいるピー(霊)で、伐ってはならないことを告げにきているのだという。

さらに、他人に後手を掴まれる夢を見ても伐採してはならない。これも、ピー（霊）の知らせであるという。

④ 伐採始め

森の伐り始めは、急ぐ場合はマイタクナイを立てた1日後にでも伐るが、通常は半月後から1ヶ月期間をおいて伐る。儀礼的なことは特別しないが、伐り始めた最初の1日の間で、伐っている最中に竹や木の枝が口に当たったら、たちまちのうちに伐るのを止める。ピーが伐るのを止めろと言っているのだという。それでも伐り続けたら、人が病気になったり、稲が病気になったりするので、直ちに伐るのを中止する。

また、伐っている途中に、蜂の巣を見つけたら、同じように伐るのを中止する。これも、ピーが伐るのを止めろと言っているのだという。

(2) Houa Pang県 Xam Tai郡 Pung Siang村・Khamu族

N19° 46′ 41.95″ E104° 32′ 03.9″ H642m

2008年2月20日聞き書

① 占有標示 リヤップ・ハレツ（始める・焼畑）

2月初め頃、畑に伐ろう思った森に行き、その範囲の各所にタレオを立てる。これは、他の人にここは自分が畑に予定しているということを標示するためのものである。

② 夢による占い

タレオを立てる時に、伐って良いか悪いか夢を見させてくださいという願いをする。家に帰ってその夜夢を見る。

ア、伐採許可の夢

高い山や崖をのぼる夢を見たら伐採してよい。これは、収穫した籾が米倉の中でうず高く盛り上がる予兆だからだという。

また、砂の夢、澄み切った色の川の水の夢を見たら伐採して良い。これは収穫し、脱穀した稲の姿であり、たくさん収穫があることの予兆だからだという。

さらに、ネギやニンニクを採りに行く夢を見たら伐採して良い。これは、稲がよく実ることの予兆だからだという。

イ、伐採禁止の夢

鹿を狩る夢を見たら家の人死ぬか病気になるという予兆だから伐採してはいけない。

また、歌を歌ったり、ラジオを聞いている夢を見たら伐採してはならない。これは、人が泣くということを意味し、家の人死ぬか病気になるという予兆だから伐採してはいけない。

さらに、ケーン（竹の笛）を吹いたり、その音色を聞いたりする夢を見たら伐採してはならない。これは、籾が空になるという予兆だから伐採してはいけない。他人に後手を掴まれる夢を見ても伐採してはならない。

③ 伐採始め

良い夢を見たら特に儀礼もせずにそのまま伐り始める。しかし、伐り始めた最初の日に

プルン（昼働く蜂）の巣を見たら、伐るのを取りやめる。

(3) Houa Pang県 Xam Tai郡 Nam khuang村・Tai Deng族

N19° 50' 40.7" E 104° 32' 35.5" H610m

2008年2月21日聞書

① 占有標示

この森がよいということを決めたら、他人に知らせるため、境目の木の幹に切り欠きを入れ、木の枝を挟み込んでおく。

② 夢による占い

夢によって伐採の許可や禁止を占うようなことはしない。特別に儀礼的なことは何もせずに3月初め頃から伐り始める。

(4) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phao Neuan村・Tai Deng族

N20° 05' 39.4" E 104° 43' 50.3" H595m

2008年2月22日聞書

① 占有標示 ペオ・ハイ（選びに行く・焼畑）

2月初め頃、畑に伐ろう思った森に行き、その範囲の各所にタレオを立てる。これは、他の人にここは自分が畑に予定しているということを標示して、他人から奪われないようにするためのものである。また、同じ目的で境目の木の幹に切り欠きを入れ、木の枝を挟み込んでおくこともする。

② 夢による占い

タレオを立てるとき、これからここを畑にします。もし良かったら良い夢を、だめだったら悪い夢を見させてくださいというお願いをする。家に帰ってその夜夢を見る。

ア、伐採許可の夢

高い山や崖をのぼる夢を見たら伐採してよい。これは、収穫した粉が米倉の中でうず高く盛り上がる予兆だからだという。

イ、伐採禁止の夢

川の広い淵や水浴びをしている夢を見たら伐採してはいけない。そこは草が多いという知らせである。

水牛や牛の夢を見たら伐採してはいけない。そこは焼いてもよく焼けずに再度焼かなくてはならないという予兆であるからだという。

③ 伐採始め

伐採作業のことはケオハイといい、良い夢を見ても見なくても、すぐに特別な儀礼もせずにそのまま伐り始める。唱えごともない。直径が15呎以下の小さい木は、2呎～3呎くらいの低い高さのところから伐る。これは、草取りのとき邪魔にならないようにするためである。直径が20呎以上の大きい木は、70呎くらいの高さのところから伐る。さらに大きくなると台を作って高いところから伐る。

(5) Houa Pang県 Thong郡 Leng村・Tai Deng族

N20° 24' 58.4" E103° 22' 00.9" H791m

2008年2月26日聞書

① 占有標示 儀礼名 シアン・ハイ (占い・焼畑)

1月初めころ、畑に伐ろう思った森に行き、シアンハイという儀礼を行う。予定地の一部を少し伐り開いて、そこにマイタン・ナイ (割竹の作りの名前・印) を立てる。これは、その土地が焼畑予定として占有地であることを示し、他人が取らないようにするためのもので、竹の上部を四つ割にして地面に立てて、割竹を四方に広げて先端を土に挿し、広げた割竹の中心部に竹編みのタレーを付ける。そして、「これからたくさん収穫させてください。たくさん収穫できるようだったら良い夢を見させてください。収穫できないようだったら悪い夢を見させてください」と言って、家に帰ってその夜夢を見る。

② 夢による占い

ア、伐採許可の夢

川で魚の漁をしたり、川で遊ぶ夢を見たら伐採してよい。また、木に登ったり、高い山や崖をのぼる夢を見たら伐採してよい。これは、収穫した籾が米倉の中でうず高く盛り上がる予兆だからだという。

イ、伐採禁止の夢

水牛や牛を殺したり、野生動物を殺したりする夢を見たら伐採してはいけない。これは、本人が病気になったり、死んだりすることの予兆であるから、焼畑に伐採することは止める。

③ 伐採始め 作業名 ケオ・ハイ (伐る・焼畑)

伐採作業のことはケオハイといい、1月初めころシアンハイが終わったら特別な儀礼もせずにそのまま伐り始める。唱えごともない。ただ、伐採の途中でクワカオという蔓が輪状に巻いていたら、ただちに伐採を取りやめる。これは、人間が動物を捕獲するために仕掛ける罠と同じ形で、霊がこの場所に仕掛けた罠だから、ここを畑にすると死ぬからである。ただし、その輪が締まっていたら大丈夫である。

(6) Houa Pang県 Thong郡 Tamlar Neua村・Tai Phuang族

N19° 55' 36.0" E103° 26' 42.9" H1257m

2008年2月29日聞書

① 占有標示 儀礼名 レオタ・モン (タレオ・立てる)

12月末ころ、畑に伐ろう思った森に行き、レオタモンという儀礼を行う。予定地の一部を少し伐り拓いて、伐り株の頭に割れ目を入れて、そこにレオタを作る。簡単な方法として割木をX状に交差させたマイ・ブアツ (木・印) を付けたりもする。これは、その土地が焼畑予定として占有地であることを示し、他人が取らないようにするためのものである。そして、家に帰ってその夜夢を見る。

② 夢による占い

ア、伐採許可の夢

水に関する夢や洪水の夢を見たら伐採してよい。また、砂のある夢を見たら伐採してよい。これらの夢は、稲が水の流れに乗ってひとりでに流れてくるということの予兆である。

イ、伐採禁止の夢

殺されたり、殴られたりする夢を見たら伐採してはいけない。これは、人が病気になったり死ぬという予兆である。また、水牛の夢を見たら伐採してはいけない。これは、畑を焼いても水牛が集まっているように、焼け残りの塊りが残り焼けにくいことの予兆である。

③ 野生動物による禁止

レオタモンやマイブア^ウをした後に、蜂が巣を作ったら伐採を取りやめる。

④ 伐採始め 儀礼名 コー・ピー・プー（お願いする・霊・森、山）

伐採許可の夢を見たら、コーピープーという儀礼をして伐り始める。蠟燭を5本持っていき、2本ずつ2組をバナナの葉に花と一緒に包み、木の棒の両端に付ける。残りの1本はその真ん中に付けて地面に立てて、「ここを畑に伐ります。ここにいる霊は伐らない場所に移ってください。そして、無事に伐らせてください」と唱えて、ピープーをお願いをする。ただ、伐採の最中に人が倒木の下敷きになったら、その周囲で10ヶ所伐ろうとしていたら、全部伐採を取りやめる。これは、ピープーがこの森を伐ってはならない、伐らないでくれと言っているのだという。ただし、川や山で隔てられている場所は伐採してかまわない。

(7) Houa Pang県 Thong郡 Phueng Done村・Khamu族

N20° 06' 13.7" E103° 23' 18.8" H653m

2008年2月25日聞き書

① 占有標示 儀礼名 パーン・ハレッ（印・焼畑）

1月初め頃、畑に伐ろう思った森に行き、一部を少し伐り拓いて、竹の上部を四つ割にして地面に立てて、割竹を四方に広げて先端を土に挿し、広げた割竹の中心部に竹編みのタレーを付ける。また、火を起こしてプリック（唐辛子）とラレーン（香辛料にする野菜）を燃やしてそこにいる霊に立ち退いてもらう。そして、「今年からここで畑をします。霊も人間もこの場所を取らないようにしてください。伐り拓いて良かったら良い夢を、悪かったら悪い夢を見させてください」と言って、家に帰ってその夜夢を見る。

② 夢による占い

ア、伐採許可の夢

水の中を泳ぐ夢や砂で遊んだり、砂を見たりする夢を見たら、伐採してよい。これは、稲の魂が集まってくるという予兆であるからだという。また、高い山や崖をのぼる夢を見たら伐採してよい。これは、収穫した粃が米倉の中でうず高く盛り上がる予兆だから

だという。さらに、滝を見たりする夢を見たら伐採してよい。これは、脱穀した粉を風選している姿を示す夢だから良いという。

イ、伐採禁止の夢

人が動物を殺したり、肉を料理したり、ご飯を食べたりしている夢を見たら伐採してはいけない。これは、本人が病気になったり、死んだりすることの予兆であるという。

③ 伐採始め

伐採作業のことはルアンハレットといい、1月初めから2月末までの間にいい日を選んで、特別な儀礼もせずにそのまま伐り始める。唱えごともない。ただ、伐採の途中で蜂の巣を見かけたり、猪、鹿、野鳥など野生動物の死体や骨を見かけたら直ちに止める。これは、霊がこの場所を畑にしてはいけないと言っているという印である。

(8) Luang Prabang県 Kham郡 Samtom村・Khamu族

N20° 26' 27.8" E102° 56' 51.9" H830m

2008年3月5日聞き書

① 占有標示 儀礼名 グツ・ザウオン・プラカーupp・サラナン（伐る・木・挟む・境目）

カム暦の2月上旬（西暦の1月上旬）、この範囲をハレットに切り拓こうと決めたら、他人にそのことを宣言するために、グツザウオンプラカーuppサラナンということを行う。立木の側面に切り欠きを入れ、そこに他の木の枝を挟んで範囲を標示する。

② 伐採始め 儀礼名 ボン・コン・ハレット（場所・儀礼・焼畑）

カム暦の2月上旬（西暦の1月上旬）伐採を始める。そのとき伐る前にボンコンハレットという儀礼を行う。

朝家から、ブリツ（唐辛子）、ラータレン（砥石）、スークルー（レモングラス）、ハラウエツ（生姜）、マール（塩）を持って、夫婦で伐る予定の森に行く。予定地の真ん中を2m四方くらいの広さを伐る。女主人が火を起こし、男主人は砥石の台を作りタランウエック（山刀）を研ぐ。

次に、男主人はタラー（ラオ語名称マイヒヤ）やチョーイ（ラオ語名称マイソツ）の竹串に、ブリツ（唐辛子）、スークルー（レモングラス）、ハラウエツ（生姜）を刺して火で焼きながら、「ここが良い土で、良い畑になりますように、山の霊や森の霊に遭わないように」と唱える。これは伐採予定地内にいるローイ（霊）をその臭いで追い払い、来なくするために行う儀礼で、そうしないと家の人が病気になったり、死んだりする。これを済ませて一服してから、本格的に伐り始める。

③ 夢による占い

その夜、伐って良いか、悪いかを知らせる夢を見る。

ア、伐採許可の夢

どこを見渡しても、畑全体に水が張っているような夢を見たら伐採を続けて良い。これは、稲の魂が水だからである。

高い岩の崖の夢を見たら伐採を続けて良い。この夢は、収穫したとき稲倉の物がうず高く積み上がるように、たくさんの収穫があるということの予兆である。

イ、伐採禁止の夢

ご飯を食べて寝たのに、また美味しいご飯を食べる夢を見たら、一部伐った畑を伐採し続けてはならない。これは、夢でご飯を食べるのを見るということが、現実にはご飯を食べられないということの意味し、きれいな稲が穫れないことの予兆を示している。

木を担ぐ夢を見たら、一部伐った畑を伐採し続けてはならない。これは、人の死体を担ぐということの意味し、人が死ぬことの予兆を示している。

ナガ（龍）の夢を見たら、一部伐った畑を伐採し続けてはならない。これは、ナガの紋様がお棺に描かれているので、人が死ぬことの予兆を示している。

豚を食べる夢は本当に悪い夢である。この夢を見たら、絶対に一部伐った畑を伐採し続けてはならない。家族が亡くなるか、稲が穫れなくなることの予兆を示しており、畑のところにいる霊が「やるな」ということを知らせているのである。

(9) Houa Pang県 Thong郡 Houayd Teun村・Yao族

N20° 16' 38.3" E103° 22' 13.7" H1136m

2008年3月2日聞き書

① 占有標示 標示名 マガッ

12月上旬（西暦1月上旬）に伐採作業を行う。伐採作業のことを、ザ・デイ（伐る・焼畑）と言う。

まず、ここを焼畑に伐り拓こうと決めたら、木の柱の頭を割って、30cmくらいの枝を挟んだマガッという印を外側との境界に立てる。ロツパン（ラオ語名称タレオ）を立てても良い。その夜夢を見る。

② 夢による占い

ア、伐採禁止の夢

赤い布を身につけている夢や女性の性器の夢を見たら、翌日は伐採には行かない。

③ 伐採始め

伐り始めるときには特別の儀礼は行わない。それは、既に12月30日の新月のチャーヒヤンの祭のときに、先祖に「焼畑を伐るときには、安全にしてください」とお願いしてあるからである。

しかし、伐採作業の途中に、チュン（鹿）が泣いたときやロー（土竜）が昼間に歩いているのを見たときは、伐採するのをただちに止める。それは、ピャオミエン（家神右主）が、伐採すると何事が起こるか分からない、人が病気になる、人が死ぬ、お米が穫れなくなるなど、悪いことが起こるということを、事前に教えてくれているのである。

(10) Luang Prabang県 Kham郡 Ombring村・Hmong族

N20° 24' 24.6" E102° 59' 24.3" H940m

2008年3月4日聞き書

① 占有標示 儀礼名 ムー・プア・ホー (印・十字・予約)

1月上旬、この範囲をテイ(焼畑)に伐り拓こうと決めたら、その森に行ってここは自分が焼畑にするということを他人に告知するために、ムープアホーを行う。木の幹を割って、そこに木の枝を十字に挟んで、焼畑の上側と下側に立てる。特に儀礼はない。

② 伐採始め

2月上旬～3月にかけて伐採作業を行う。特に、儀礼などは行わない。

6 火入れの儀礼と焼き方

(1) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phat Tai村・Tai Deng族

N19° 58' 15" E104° 40' 36.1" H307m

2008年2月17日聞き書

① 儀礼 儀礼名 パイピー・パイテバダ (話をするピーと・話をするテバダと)

伐って1ヶ月ほど乾燥させて焼く。昔は森が深いときはパイピーパイテバダという儀礼を行っていた。テバダというのは、ピーよりも位の高い地位にいて、人を守ってくれる良い霊である。家からラオハイの壺を2個を畑に持ってゆき、1壺に4本の竹のストローを挿して水を汲む物やカオラオ(角杯)を置いて、「これから畑を焼きます。ここにいるピーやテバダたち、このラオハイを飲んで、立ち去ってください」と唱えて、その後人がラオハイを飲んで、燃やし始める。現在は、森が若いのでピーやテバダがいないのでしていない。

② 火入れ

火は、昔からティーン・ハイ(足・焼畑)と呼ばれる斜面の下側で風上から着ける。焼く前に上側と周囲を掃除するようなことはしなかった。しかし、17年ぐらい前から、火が飛び延焼するというので、政府の指導でファ・ハイ(頭・焼畑)の上側だけを掃除し、ファハイから火を着けて焼く。

③ 残り木焼き 作業名 ハーハイ

焼いて2日～3日して、ハーハイと称して焼け残りの竹や木を集めて燃やす作業を行う。この作業は女性たちがする。ハーハイの跡地には、稲の種に胡瓜の種を混ぜて播くことが多い。

④ 作小屋作り 作小屋名 ティエン・ハイ

男たちは、ティエンハイ(作小屋)作りを行う。畑の中央部で、少し平らな所を選んで建てる。

⑤ 柵作り 柵名 ファハイ

さらに、焼畑の周囲に水牛がいそうであつたら、ファハイを廻らす。

(2) Houa Pang県 Xam Tai郡 Nam Khuang村・Tai Deng族

N19° 50' 40.7" E104° 32' 35.5" H610m

2008年2月21日聞き書

① 火入れ

大きな森は伐ってから1ヶ月乾燥させて焼く。小さい森は15日くらい乾燥させて焼く。

火を着けるときの唱え詞はない。ティン・ハイ（足・焼畑：焼畑の下側の縁）の風上から火を着け、ファ・ハイ（頭・焼畑：焼畑の上側の縁）に向けて焼いて上がる。

② 防火帯作り 作業名 カン・ハイ（掃除する・焼畑）

15年くらい前から政府の指導で、火が飛んで火事にならないように、ファハイの上側をきれいに掃除するカンハイを行ってから焼くようになった。また、最近は焼畑に伐る森が若いので、火が飛んで焼けてしまうと、翌年、翌々年焼畑に出来なくなるので、カンハイを行ってから焼くようになった。

③ 作小屋り 作小屋名 ティアン・ハイ（作小屋・焼畑）

焼いた後、高床のティアンハイを、畑の真ん中に建てる。その後、焼け残っている残り木を数カ所に集めて燃やすハーハイという作業を行う。

(3) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phao Neuan村・Tai Deng族

N20° 05' 39.4" E104° 43' 50.3" H595m

2008年2月22日聞き

① 火入れ 作業名 チュー・ハイ（焼く・焼畑）

伐採して1ヶ月くらい枯らしてから焼く。3月から5月頃になる。焼く作業はチューハイと呼び、ティン・ハイ（足・焼畑：焼畑の下側の縁）からファ・ハイ（頭・焼畑：焼畑の上側の縁）に向けて、また風上から風下に向けて焼いて上がる。周囲を掃除して、ファハイからティンハイに向けて焼いて下るのは、郡の農林事務所からの指導で10年くらい前から行うようになった。それ以前は、周囲の掃除はせずに焼いていた。

② 作小屋作り 作小屋名 ティアン・ハイ（作小屋・焼畑）

焼いた後、高床のティアンハイを、畑の真ん中に建てる。

③ 残り木焼き 作業名 ハーハイ

その後、焼け残っている残り木を数カ所に集めて燃やすハーハイという作業を行う。

(4) Houa Pang県 Thong郡 Leng村・Tai Deng族

N20° 24' 58.4" E103° 22' 00.9" H791m

2008年2月26日聞き

① 火入れ 作業名 チュット・ハイ（焼く・焼畑）

焼く作業はチュットハイといい、伐採して乾燥させて3月の半ば以降に焼く。特別な儀礼も何もしないで、ティン・ハイ（足・焼畑：下側の縁）から火を付け、カン・ハイ（横・焼畑：左右両脇の縁）沿いにファ・ハイ（頭・焼畑：上側の縁）に向けて焼き上げていく。以前は、延焼防止のために畑の周囲を掃除するようなことはしなかった。

② 防火帯作り 作業名 ケーット・ハイ（掃除する・焼畑）

しかし、20年くらい前からケーットハイといってファハイの上側を5mくらいきれいに掃除をして、ファイハイから下側に向け少し燃やしてから、ティンハイに火を付けてファイ

ハイに向けて焼き上げていく。

焼き終わったら、その日にタレオを畑の真ん中に立てる。これは、精霊たちが畑に種播きをしないようにするためである。

③ 作小屋作り 作小屋名 (作小屋・焼畑)

翌日、ティアンハイを建てる。ティアンハイは、タレオを立ててあるところに建てる。

④ 残り木焼き 作業名 ハー・ハイ (焼く・焼畑)

ティアンハイ建てが終わったら、次にハー・ハイと称して燃え残りを集めて燃やす。

(5) Houa Pang県 Thong郡 Tamlar Neua村・Tai Phouane族

N19° 55' 36.0" E103° 26' 42.9" H1257m

2008年2月29日聞き

① 火入れ

伐採した後、25日から30日後に焼く。特に儀礼や唱えごとをすることはしない。ティン・ハイ(足・焼畑：下側の縁)の風上から火を付け、カーン・ハイ(横・焼畑：左右両脇の縁)沿いにフア・ハイ(頭・焼畑：上側の縁)に向けて焼き上げていく。フアハイの上側に来年焼畑に予定しているような森がある場合は、フアハイの下側を少し焼いておいて、ティンハイ側から焼き上げていく。

焼いた後、まだ煙がくすぶっていて、家に帰ろうとするときに、レオタ・モン(タレオ・立てる)を畑の真ん中に立てる。これは、ピー(霊)やテバダー(神)とかが畑を取らないように立てるのである。

② 作小屋作り 作小屋名 ティアン・ハイ(作小屋・焼畑)

その後、男はティアンハイ(作小屋)を、レオタモンを立てた畑の真ん中、あるいは平坦な場所を選んで建てる。

③ 残り木焼き 作業名 コンハー

女の人は、畑の中の焼け残りの木を数カ所に集めて燃やすコンハーという作業や、焼いた畑の中をきれいに掃除するペオという作業を行う。

(6) Houa Pang県 Xam Tai郡 Pung Siang村 Khamu族

N19° 46' 41.95" E104° 32' 03.9" H642m

2008年2月20日聞き

① 火入れ 作業名 グーツ・ハレッ (焼く・焼畑)

森の深さや天気具合によって、15日～30日間乾燥させる。焼く前に特に言葉を唱えることはしない。火はユアン・ハレッ(足・焼畑)で風上から付ける。カボン・ハレッ(頭・焼畑)の上側に保護林や他人の村があるときは、カーン・ハレッ(掃除する・焼畑)をしてから、火を着ける。

焼いた後は、焼畑の中央にタレーを立てる。このとき、ローイ(山の精霊)が自分の種を播くと、畑を草が覆って稲に良くなるので、ローイに向かって「この土地は我々家族の畑です。他の人は胡麻やカオファン(稗)などの種を播いてはいけません」と唱える。

② 作小屋作り 作業名 トウツプ・ハレット (作小屋・焼畑)

焼いた翌日、畑に行つてトウツプ・ハレットを、川(水場)に近い平らになっているところに建てる。

③ 残り木焼き 作業名 プールハレット

トウツプハレットを建てると同時にプールハレットと称して、焼け残っている木を数ヶ所に集めて燃やす。畑の周辺に水牛や豚が居そうであつたら、柵を張り巡らす。

(7) Houa Pang県 Thong郡 Phueng Done村・Khamu族

N20° 06' 13.7" E103° 23' 18.8" H653m

2008年2月25日聞き書

① 火入れ 作業名 パヌール・ハレット (焼く・焼畑)

焼く作業はパヌールハレットと言ひ、伐採して1ヶ月ぐらいおいて4月の初めころに焼く。

特別な儀礼はしないが、ロイ・カン(霊・家)、ロイヨン(霊・男)、ロイマー(霊・女)など家の先祖に「今日はこれから畑を燃やします。きれいに燃やせるように、ここにいる霊たちを立ち退かせてください」とお願いする。

ティートロット(小さく割つた枯れた竹を束にした松明)に火を付け、ユアン・ハレット(足・焼畑:下側の縁)から火を付け、カンドローン・ハレット(横・焼畑:左右両脇の縁)沿ひにカンボン・ハレット(頭・焼畑:上側の縁)に向けて焼き上げていく。延焼防止のために畑の周囲を掃除するようなことはしない。

② 悪霊・動物被害防除 儀礼名 パーン・ハレット・パヌール(印・焼畑・焼く)

焼き終わつたら、パーンハレットパヌールを行う。畑の真ん中の直径10cmほどの伐り株の頭にバナナの葉を被せ、ティートロットの燃え残り と タレー と を 一 緒 に 伐り株の幹に巻き付ける。これを行うと、霊が鼠や栗鼠、野鳥、白蟻たちが畑に悪さをしないように、彼らに畑が見えなくしてその害を防いでくれるのだという。

③ 作小屋作り トウツプ・ハレット (作小屋・焼畑)

翌日、トウツプ・ハレット(作小屋)を建てる。疲れの残っている人は、翌々日であっても良い。トウツプ・ハレットは、多くはパーンハレットパヌールを行つたところの少し下側に建てるが、平らになっている場所や水場に近いところにも建てたりする。

④ 残り木焼き 作業名 プールハレット

次に、トウツプハレットを建てが終わつたら、プールハレットといつて燃え残りを燃やす。

⑤ 芋植え

それが終わつたら、畑の縁沿ひにサリー(玉蜀黍)、サローツ(里芋)、サバイーホー(落花生)、クワイヒヤン(蔓性で野性の黒紫色の芋)などを植える。

(8) Luang Prabang県 Kham郡 Samtom村・Khamu族

N20° 26' 27.8" E102° 56' 51.9" H830m

2008年3月5日聞き書

① 火入れ

カム暦5月上旬に焼く。特に儀礼はしない。火は、枯竹を割って束にしものの頭に、家で使っている箒の先の部分を2本～3本、鍛冶屋の鞆の空気留めの綿毛を少し付けたローツ（松明）で付け回す。箒の先を用いるのはきれいに焼けるからである。また、鞆の綿毛を用いるのは、風が起きやすくするためである。

焼き方は、ユアン・ハレッ（足・焼畑：焼畑の斜面下側の縁）の風上から、ポン・ハレッ（頭・焼畑：焼畑の斜面上側の縁）に向けて焼き上げていく。

② 防火帯作り

1980年からは、農林事務所の指導で火が他の場所に飛ばないように、周囲をきれいに掃除して、朝7時ころにポンハレッを少し焼いて、昼にユアンハレッから焼き上げていくようにしている。

③ 作小屋作り 作小屋名 トウツプ・ハレッ（作小屋・焼畑）

焼いた後、柵作りの木を伐る。その後、トウツプ・ハレッを焼畑の真ん中に建てる。

④ 残り木焼き 作業名 プール・ハレッ

それが済んだら、プールハレッと言って、焼け残りを何方所かに集めて燃やす。

畑の周りに柵を立て廻らす。

(9) Houa Pang県 Thong郡 Houayd Teun村・Yao族

N20° 16' 38.3" E103° 22' 13.7" H1136m

2008年3月2日聞き書

① 火入れ 作業名 プア・デイ（焼く・焼畑）

伐採して2ヶ月間くらい乾燥させて焼く。焼く作業のことをプアデイと言う。特に儀礼はしない。デイ・チュア（焼畑・足）の風上に当たるデイ・チュア・コーデイ（焼畑・足・角）のところから火を着け、デイ・ヘン（焼畑・脇）沿いにデイ・タオ（焼畑・頭）に向けて焼き上げていく。デイタオから風が吹いているときは、デイチュアから風が吹くのを待って火を着ける。太陽の日差しが一番強い午後1時ころに火を着ける。燃え残りがないようにするためには、火を着けるときに息を止めて、上着の袖で3回扇いでやる。また、火を着ける松明の中に水牛の角を少し削って入れると良く燃える。

② 作小屋作り 作小屋名 デイ・リュウ（焼畑・作小屋）

焼き終わったら、畑の真ん中にデイ・リュウを建てる。

③残り木焼き ピュー・デイ

さらに、ピューデイと言って焼け残りを集めて燃やす作業を行う。

(10) Luang Prabang県 Kham郡 Ombring村・Mhong族

N20° 24' 24.6" E102° 59' 24.3" H940m

2008年3月4日聞き書

① 火入れ

伐採して後、1ヶ月間乾燥させて焼く。5月に入ると雨が降り出すので、4月下旬までに

は必ず焼かなければならない。特に儀礼などはしないで焼く。

② 作小屋作り 作小屋名 オチェ・テイ（作小屋・焼畑）

焼いた後、オチェテイを畑の真ん中に建てる。

③ 残り木焼き 作業名 テー・テイ

さらに、テーテイと言って燃え残りを集めて燃やす。その後、水牛や牛が入らないように畑の周りに柵を立て廻らす。

7 種播儀礼と播種の技術

(1) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phat Tai村・Tai Deng族

N19° 58' 15" E104° 40' 36.1" H307m

2008年2月17日聞き書

① 播種儀礼 儀礼名 サン・カオ・ヘック（柱・稲・始める）

畑を焼いて10日くらい経った6月（西暦）の20日～30日ころに種播きをする。畑に種を播く前にサンカオヘックと称する儀礼的な種播きを行う。まず、ティエン・ハイ（小屋・焼畑）の上側に、サンカオヘック（儀礼的な施設：聖なる畑）を作る。中央に150cmの高さの竹か木のサン（柱）を立てて、その上にフアン（家）と呼ぶ半円筒形に編んだ小さな籠を取り付け、きれいな花を飾る。

さらに、フォン・カオ（穂・稲）と呼ぶ長さ30cmくらいの割竹の先を削り出して、実った稲穂に似せた削り掛けを4本作り、サンに切り欠きを入れて差し込む。サンは実った穂が垂れた稲株のようになる。

次に、サンの根元をフウアと呼ぶ割り竹4本を半円形に曲げて、100cm四方に取り囲み、正面の片方だけは開けておく。

その中に、男主人と女主人と二人で10株くらいの稲の種を播く。この稲種は、前年のサンカオヘックで収穫し米倉に保管していた籾を、今年畑に播く種に混ぜたものの一部である。さらに、レモングラスを2株植えて、正面のフウアの片方を閉じる。

② 播種作業

これが終わったら全員で畑に種を播く。播く種の種類は、何品種かある中から家族が必要なものを選ぶ。もし、食べる米が足りないようであれば早稲種の稲を多くしたりとかする。

(2) Houa Pang県 Xam Tai郡 Nam Khuang村・Tai Deng族

N19° 50' 40.7" E104° 32' 35.5" H610m

2008年2月21日聞き書

① 播種儀礼 儀礼名 サン・ヘック（柱・始める）

5月初旬から20日頃までの間に、家族の命日などの日を除いた縁起の良い日を選んで種播きを行う。畑に播く前に、ティアン・ハイ（小屋・焼畑）の5mくらい上側の切株の所で、サン・ヘック（柱・始める）という種播き始めの儀礼を行う。

まず、1本の伐株を選びその上に畑の中から拾ってきた小石を1個乗せる。これは、畑

に種播きした後、稲の芽が出る前に太陽の周囲に雲の輪が懸かると、芽がでなくなったり、芽が出て稲が病気になったりするが、そうしたときにこの小石がそれを防除してくれるという。

さらに、伐り株にタレオを取り付け、伐り株の周りをマイカツサローンと呼ぶ割竹で四方に囲む。ただし、正面の1辺は開けておく。その正面にファンカオ（穂・稲）と呼ぶ稲の穂に似せた竹の削り搔けを、4本～6本立てる。チョクナムと呼ぶ両節を取り除いた竹を半割にした形の杯と、竹筒を一節を挟んで木口切りにし、上側は筒のままコップ状に残し、下側は地面に立てるための足を削りだした形の杯を、それぞれファンカオの数と同本数作る。半割のチョクナムの片方の口はファンカオに付け、片方の口は地面に立てたチョクナムの筒口に差し掛ける。

それが終わったら、皆でサンヘックの中に10株以上の稲の種を播く。この時に親戚や友人もピー・チャオ・リン（精霊・主人・土）とピー・ファン（精霊・家：ピープー、ピーバオとも呼ぶ）に対して、播いた稲の種がびっくりしないように、成長して収穫があるように守ってくださいと次のようなお願いを唱える。

ル〜ツク	ル〜ツク	タオ	チマー	プツ	カオ
我々の		子孫	やってくる	植える	稲
	ハイ	マー	トンム	マー	コン
	さしてください	やってくる	守る		守る
トツク	サイ	リン	ヤー		ナオ
落ちる	〜に	土	〜させないでください		腐る
トツク	サイ	タオ	ヤー	コン	
		灰		びっくりして怖がる	
トツク	ケー	コーン	ヤー		ワン
	隙間に	(2本の)倒木			(種を播いていない)隙間
トツク	ケー	パーン	ヤー	シア	
		横		(鼠や鳥に食われ種が)なくなる	
ハイ	リー	チュー	チャオ	ニャオ	チュー
	良い	それぞれの	粒	長く伸びる	出たばかりの芽

② 播種作業

その後、早稲種、中稲、晩稲の品種を、一塊りずつ区画を決めて播いていく。ただし、黒米 (Khao Kahanm) だけは、右か左かのパーン・ハイ（横・焼畑：横の縁）かファ・ハイ（頭・焼畑：上側の縁）に播く。人間が稲に失礼なことをすると稲の魂は逃げてしまう。その時、稲の長老である黒米が稲の魂に逃げないように、「あなたたちは、色も白いきれいなのにどうして逃げるのか。僕は色が黒くても逃げないのにどうして逃げるのか。人間たちは、草取りなどもしてくれるのにどうして逃げるのか。逃げないで一緒にいよう」と呼び掛

けてくれると、稲の魂が逃げなくなるからだという。

また、粳種はティン・ハイ（足・焼畑：焼畑の下側の縁）のところに播く。これは、フアハイに播くと、雨が降ったとき種が下側に流れて、糯種と混ざってしまい、蒸して食べるときご飯が硬くて食べにくくなるからである。

(3) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phao Neuan村・Tai Deng族

N20° 05' 39.4" E104° 43' 50.3" H595m

2008年2月22日聞き

① 播種儀礼 儀礼名 サン・ヘック（柱・始める）

4月から5月、6月までの間に、家族の命日などの日を除いた縁起の良い日を選んで種播きを行う。畑に播く前に、ティアン・ハイ（小屋・焼畑）の5mくらい上側の切株の所で、サン・ヘック（柱・始める）という種播き始めの儀礼を行う。

まず、1本の伐り株を選び、その伐り株の幹にタレオを取り付け、伐り株の周りをカッサローンヘックと呼ぶ割竹で四方に囲む。ただし、正面の1辺は開けておく。その正面にファン・カオ（穂・稲）と呼ぶ稲の穂に似せた竹の削り搔けを、時期が4月だったら4本、5月だったら5本、6月だったら6本立てる。チョクナムと呼ぶ両節を取り除いた竹を半割にした形の容器と、竹筒を一節を挟んで木口切りにし、上側は筒のままコップ状に残し、下側は地面に立てるための足を削りだした形の杯を、それぞれファンカオの数と同本数作る。半割のチョクナムの片方の口はファンカオに付け、片方の口は地面に立てたチョクナムの筒口に差し掛ける。

それが終わったら、家の男主人か女主人がピー・チャオ・リン（精霊・主人・土）とピー・ファン（精霊・家：ピーパー、ピーパオとも呼ぶ）に対して、「今日は縁起のいい日です。種播きをします。全ての種が芽を出して育って、収穫が良くなりますようにしてください」とお願いを唱える。その後、サンヘックの前に数株の稲の種を播く。この時には、稲の魂が喜ぶと言ってレモングラスも植える。

② 播種作業

それが終わったら、畑全体に種を播く。黒米（Ngo Hian）の種だけは、外から畑にやってくる霊が怖がるので、昔からティアンハイの周りに播く。また、黒米は畑に連れて行く子どもや赤ちゃんから霊を除けてくれる。その日種播きが終わらなかつたら翌日にかけて播く。全ての種を播き終わったら、開けておいたカッサローンヘックの1辺を閉じて帰る。

(4) Houa Pang県 Thong郡 Leng村・Tai Deng族

N20° 24' 58.4" E103° 22' 00.9" H791m

2008年2月26日聞き

① 播種儀礼 儀礼名 サン・ヘック（柱・始める）

縁起の良い日を選んで種播きを行う。畑に播く前に、ティアン・ハイ（小屋・焼畑）の5mくらい上側の切株の所で、家の男主人がサンヘックという種播き始めの儀礼を行う。

先ず、ラクサンヘックと称する1本の竹か木の柱を立てる。その柱にタレオを3個～4個取り付ける。

さらに、ラクサンヘックの周りをマイカッタパートと呼ぶ割竹で四方に囲む。ただし、正面の1辺は開けておく。その正面にフアンカオ（穂・稲）と呼ぶ稲の穂に似せた竹の割り掛けを4本立てる。両節を取り除いた竹を半割にした形の杯と、竹筒を一節を挟んで木口切りにし、上側は筒のままコップ状に残し、下側は地面に立てるための足を削りだした形の杯を、それぞれフアンカオと同じく4本数作る。半割の杯の片方の口はフアンカオに付け、片方の口は地面に立てた杯の筒口に差し掛ける。

それが終わったら、家の男主人かピー・チャオ・リン（精霊・主人・土）に対して、「今日は縁起のいい日です。種播きを始めます。稲が良く成長し、きれいに実り、たくさん収穫がありますようにしてください」とお願いをする。その後、サンヘックの中に少し稲の種を播く。この時には、レモングラスも植える。レモングラスは、すぐに成長し、株も大きく育つので、稲も同じように育つように植える。

② 播種作業

それが終わったら、畑全体に種を播く。早稲も中稲、晩稲と同じように播く。カオカンペン（黒米）の種だけは、外から畑にやってくるピーワンカップという霊が食べると毒になるので、これを植えると霊が嫌がって畑にやってくる稲を取らない。だから、昔からティアンハイの周りに播く。全ての種を播き終わったら、開けておいた正面のマイカッタパートの1辺を閉じて家に帰る。

(5) Houa Pang県 Thong郡 Tamlar Neua村・Tai Phouane族

N19° 55' 36.0" E103° 26' 42.9" H1257m

2008年2月29日聞き

① 播種儀礼 儀礼名 ヘック・カオ（始める・稲）

畑全体の種播きに先駆けて、その家の男主人がヘックカオという儀礼を行う。木曜日に行うのが一番良い。次に日曜日を選んで行う。新月（14日）と満月（15日）、仏教の日の7日、8日、村の誰かが死んだ日は行ってはならない。

先ず、ティアン・ハイ（作小屋・焼畑）の上側にヘックカオを作る。マイチャーという竹の柱を真ん中に立て、その柱に皮を7枚に剥いで広げたレオ・カオ・ヘック（印・始める・稲）を施す。これは種播きを済ませるまで広げたままにしておく。柱の頭頂部にタレオを1枚取り付ける。その前に、家から持ってきた蠟燭5本を2本ずつ2組に分け、バナナの葉に花と一緒に包み、木の棒の両端に付ける。残りの1本はその真ん中に付けて地面に立てて、ヘックカオの周りに儀礼的な種播き始めをする。播く種は1種類の品種でよいが、早稲でも中稲でも晩稲でもどれでもよい。

男主人は、片手にルン（穴開け突き棒）を持ち、地面に突き刺して穴を開け、そこに種を播く。播く株数は普通7株播くが、9株でもよい。1株目には「子供を産めるような牝の象をもらえるように」、2株目は「水牛の牝で2回目の子供を産む水牛をもらえるように」、3

株目は「直径が9握り拳あるような大きな太鼓をもらえるように」、4株目は「12kgの金塊をもらえるように」、5株目は「お米を12×12×12kgもらえるように」、6株目は「添い寝のできる女の子がもらえるように」、7株目は「新しい小屋に象がやってくるように」、8株目は「トンハーツ（肩掛け袋）に入れた粃を米倉に積み置けるように」、9株目は、「他の人より立派な長老になれますように」と唱えながら播く。播き終わったらレオカオヘック7枚の先端を地面に差し込む。稲の種以外には何も播いたりしない。

② 播種作業

これが終わったら畑全体に種を播く。一番最初に、khao kham（黒米）を2kg～3kgの量ティアンハイの周りに播く。これは、ピー・パッカーブ（霊・口）という霊が黒い米を食べると毒になるので、これを植えて畑全体の稲を食べさせないようにするのである。

(6) Houa Pang県 Xam Tai郡 Pung Siang村・Khamu族

N19° 46' 41.95" E104° 32' 03.9" H642m

2008年2月20日聞き

① 播種儀礼1 儀礼名 チャモン（穴を開ける）

プールハレットを終えて1日～2日間置いて種播きをする。その朝早く家でチャモンという儀礼を行う。白い色でない雌の鶏を1羽取る。その家に余裕があれば白い色でない雌豚1頭を屠る。白い色の動物は儀礼には使わない。

今年畑に播く全品種の種粃を少しずつ取り出して、鶏の口を割いて血を注ぎながら「これから種播きをします。雌の鶏が卵をたくさん産み、たくさん雛を孵すように、鼠に食われずたくさんの収穫がありますように」と唱え、その後血を注いだ種粃を全部一緒に混ぜる。これで全部の稲の種粃に鶏を食べさせたことになる。

② 播種儀礼2 儀礼名 マットハレット

次に、種粃を持って畑に行く。トゥップ・ハレット（作小屋・焼畑）の上側にマットハレットを作る。まず、中央に人間の背丈ほどの高さの木の柱を立てる。その柱に切り欠きを3ヶ所を入れて、そこに竹で編んだタレーを1枚ずつ挟み込む。その柱の根元の100cm四方を、チンプランタレーと呼ぶタネック（竹の品種名：ラオ語名称マイホック）の割竹4本を半円形に曲げて、その端を地面にさし込み、柱の周囲を取り囲み、正面の片方だけは開けておく。

その内側に、早朝家で鶏の血を食べさせて混ぜ合わせた種粃を、10株ほど種播きをする。そのとき、ラングロン（鶏頭）の花も植える。この花はきれいになり、稲の魂が喜んで集まってくるので収穫が増える。種を播くのは男主人でも女主人でもどちらでも良い。

③ 播種作業

これが終わると、全員で畑の種播きを始める。最初に種播きするのはゴッ・ヒヤン（米・黒い）という黒米で、トゥップハレットの周囲に播く。ゴッヒヤンは、稲の長老だと言われる。その次にそれぞれ他の品種を播く。最後に、開けておいた正面のチンプランタレーの片方を閉じる。

また、早稲種は別に小さな畑を拓いて播く。畑が広い場合は、その片隅に播く。早稲が実ると野鳥が食べにきて、その慣れで晩稲が実ったときもやってくるようになるので、畑と一緒に播くことを嫌う。

(7) Houa Pang県 Thong郡 Phueng Done村・Khamu族

N20° 06′ 13.7″ E103° 23′ 18.8″ H653m

2008年2月25日聞き

① 播種儀礼 レック・ハレット (始める・焼畑)

遅くても焼いてから10日の間には種播きを行う。畑の種播きに先立って、**レックハレット**という種播き始めの儀礼を、悪霊や動物被害防除のためのパーン・ハレット・パヌール (印・焼畑・焼く) という儀礼を行った伐り株のところで行う。その家の男主人か、その家の長老が行う。

家で準備して焼畑に持ってきた、畑に播く全種類の稲の種を少しずつ混ぜたもの、白色以外で生きたままの鶏 (性は雄雌を問わない) を1羽、ラオハイ2壺、プラネットと呼ばれるお金や石、木の根っこなど家の宝物を皿に入れ、カラントレンウエック (砥石)、チキイヤル (鬱金) の根、ラングロンの花の種、ランサンピーの花の種ともに畑のパーンハレット パヌールの前に持っていってお供えする。プラネットがなければ、カラントレンウエックと外の物だけでも良い。チキイヤルは、昔から各家で代々ずっと引き継いで、パーンハレット パヌールのときに植えて、収穫後に米倉の内壁に掛けておいたもので、これを植えるときれいに花が咲いたり根がたくさん増え、あちこちから稲の魂を呼び集めてくれるので、稲もたくさん実るといふ。また、ラングロンの花、ランサンピーの花は、収穫したときに畑の米倉を飾ったり、新年を祝うときに使う花である。

タレーはそのままですくする必要はない。リン (両節を取り除いた竹を半割にした形の容器) を四個1組のものを2組作り、お供え物に向けて置く。鶏の口を割いて「これから種播きをしますので、稲の成長も良く、収穫もたくさんありますように、虫などが稲を食べないように、去年よりたくさん収穫がありますようにお願いします」と唱えながら、鶏の生血を全種類の稲の種を少しずつ混ぜたものに垂らす。また、プラネットやカラントレンウエック、チキイヤルの根、ラングロンやランサンピーの花の種にも、鶏の生血を塗りつける。これらの行為は、それぞれに生血 (鶏) を食べさせるという意味を持つ。

その後、鶏を料理して、それとご飯を少しずつ混ぜてラオハイとともに、生血と同じように食べさせる。

次に、鶏の生血を垂らした全種類の稲の種を全て、パーンハレットパヌールの伐り株の周りに播く。さらに、チキイヤルも伐り株のところに植える。また、ラングロン、ランサンピーの種は、チャルゲッチャルワンという臭いの強い草の種とともに、パーンハレットパヌールの伐り株の周りトウップ・ハレット (小屋・焼畑) の周りに播く。

② 播種作業

その後、畑全体に種を播く。特に、早稲種は、**リック** (ラオ語名称**ノラピー**) という野鳥

が食べに来るので、追い払うために見張り易い畑の下側、トゥップハレットの下などに植える。

それが終わったら、ゴッ・ヒヤン（米・黒い）の種に早稲、中稲、晩稲など畑に播いた種を混ぜて、パヌールの伐り株の周り^りとトゥップハレットの周りに播く。さらに、ゴッヒヤンの種だけをパヌールの伐り株とトゥップハレットの間に播く。ゴッヒヤンは、稲の先祖、稲の母と言われおり、これを播くことでその外の品種の稲の魂を呼び集めてくれる。

(8) Luang Prabang県 Kham郡 Samtom村・Khamu族

N20° 26' 27.8" E102° 56' 51.9" H830m

2008年3月5日聞書

① 早稲の播種

焼いた後、カム暦5月下旬に早稲の種を播き、カム暦6月上旬に中稲と晩稲を播く。早稲は、中稲と晩稲とは区別して播く。畑が広い場合は、早稲は、畑に野鳥が来ないようにその畑のユアン・ハレット（足・焼畑：焼畑の斜面下側の縁）の方に播く。畑が狭い場合は、別に小さな畑を拓いて播く。そのときは、トゥップ（作小屋）も別に作る。分けて播くと、中稲と晩稲の除草が3回なのに対して、早稲は除草が2回で済むので分けて播くのが良い。

② 播種儀礼 儀礼名 バーツ・ハレット（注ぐ・焼畑）あるいはバツホ・サムラー（供える・稲の種子）

カム暦6月上旬に中稲と晩稲を播くときに、バーツハレットあるいはバツホサムラーという種蒔き始めの儀礼を行う。この儀礼は中稲や晩稲を播くときに行う。早稲を播くときは儀礼はしなくて播いて良い。儀礼を行う場所は、トゥップ（作小屋）の上側で行う。

先ず朝7時ころに、お供え物として鶏か豚を生きたまま家から畑に連れていく。鶏も豚も性別にはとらわれないが、白い色のものは禁じられている。畑に着いたらチャラッコイ（鬱金）を植える。このチャラッコイの根は、霊が畑にやってきて稲に悪さをしないように稲を守ってくれる力を持っているもので、毎年の種蒔き始めの儀礼で植えたものを引き継いできているものである。

さらに、その周りにラングロン シンチル イヤルと呼ぶ鶏頭の花をはじめとして、ランバンジャン、ランサンピー、チンキヤルカマン、ランルンという花の種を播く。これらの花は、稲の魂へのお供え物で、その種は毎年の種蒔き始めの儀礼で植えたものを引き継いできているものである。ガルイ（カム暦の12月満月：新しい年を迎える日）には、この花と稲の種とを畑から持ってきて、長い棒の先に取り付けて家の中央に立てて、その周りに芋類や南瓜など畑で取れたものを置いて、先祖にお供えをする。

続いて、チャラッコイや花を植えたり播いたりした前方に茶碗を2個置いて、その中にその年畑に播く全ての稲の種を少しずつ入れる。ゲンマと呼ぶ代々家に伝わる宝物の銀貨も入れる。鶏の場合は、首を切ってその生血を茶碗の中の種粉に少し垂らす。豚の場合は、別のところで殺して取った生血を茶碗の中の種粉に少し垂らす。これは、稲粉の魂とそこにいる霊に食べさせることを意味し、播いた全ての種が芽を出し、腐らないようにするためである。

② 種播き作業

それと同時に、家族の中で種播きのスピードの一番速い人（ほとんど子ども）が、先ず種播きをする。その後、鶏や豚を料理している間に、小屋の上側にゴッ・ハンドロツ（稲・黒い）の種を播いて上がる。ゴッハンドロツは、一番上の位の稲であるので、ポンハレツの方に播く。ポンハレツのところまで播いて上がったら、左上、左下、右下、右上という具合に、左回りに中稲、晩稲の順に播く。お昼になったら、鳥や豚の料理とご飯を食べて、昼からまた引き続いて播く。

畑全体が播き終わったら、最初に種を播いた子どもが、茶碗の中の生血を注いだ種粉を手にとって、ドクマイ（花）とゴッハンドロツとの間に種まきをする。

種播き作業は、一つの畑につき20～30人で作業する。お互いの家の収穫を手伝う。時間がなくお金のある場合は一日一人10000kipで雇うこともある。

(9) Houa Pang県 Thong郡 Houayd Teun村・Yao族

N20° 16' 38.3" E103° 22' 13.7" H1136m

2008年3月2日聞き

① 播種作業 作業名 ゼム・ゾツ・ピョウ（突き棒・刺す・稲）

種播き作業はゼム・ゾツ・ピョウと呼び、5月上旬に行う。特に儀礼は行わない。暦を読むことのできる男の巫師であるローホイミエンに頼んで、いつやったらいいかを占ってもらう。最初の日が一番大事であるので、金と火の日は種播き作業をしてはならない。木、土、水の日行って良い。木の日が一番良い。次に土の日が良い。水の日、潤水の日が良いが、大洪水の日は良くない。他の家族の人に知らせて、20人くらいで播く。男はデイ・チュア（焼畑・足）の側からゼムゾツピョウで、上腕、下腕の長さの間隔で穴を開けながら、デイ・タオ（焼畑・頭）の方に上がっていく。女は、一つの穴に10粒～15粒くらいの種を播く。デイタオ側から播くと種を穴に入れるのに下向きの作業になるからできなくなる。稈の稲は、分蘖が多いので播く米粒を少なくする。畑を半分ずつに分けて、稈と糯を別々に播く。糯種より稈種の方が好きなので、稈種をたくさん植える。黒米のBiwaon Kuは、稲の長老なので新年の儀式などで、カオトン（バナナの葉に包んで蒸したお菓子）やカオピアン（米粉を水で捏ねて平たくして焼いたもの）に用いなければならないので、デイ・リュウ（焼畑・作小屋）の上側に播く。

② 早稲の播種

早稲の稲は、別に狭い畑を作って、種の重さにして15kg～16kgを播く。畑を別にするのは、野鳥が早くできる早稲を食べて味をしめて、中稲や晩稲が実ったときにもやってきて食べるから、それを防ぐためである。

(10) Luang Prabang県 Kham郡 Ombring村・Mhong族

N20° 24' 24.6" E102° 59' 24.3" H940m

2008年3月4日聞き書

① 早稲の播種

種播きに際して特に儀礼はしない。早稲は4月下旬に種を播き、3ヶ月で収穫できるので、7月下旬～8月上旬に収穫する。早稲はあまり収穫がないので作りたくない。

② 播種作業

中稲は、早稲と同じぐらいの時期に播く。9月が収穫期であるが、雨の降る時期で米が腐ってしまい、量があまり穫れないのでほとんど作らない。

晩稲は、5月下旬に播き、5ヶ月くらいで収穫できるので、10月下旬～11月下旬に収穫する。

ベンチャー（黒米）は、子どもが好きなので、1区画にまとめて播く。特に、儀礼に用いたり、餅に入れたりすることはない。

8 多様な稲の種子

ラオス北部の焼畑民の間には、一つの集落に幾種類もの稲種子が保持されている。それは、早稲、中稲、晩稲の各種に等しくみられる。ここでは、採訪した集落で収集したその多様な有り様を記してみたい。以下のデータは、武藤千秋（当時岐阜大学大学院連合農学研究科生）とViengphone Bounphanousay（NAFRI, Lao P.D.R）の調査成果に、川野の調査成果を加えて川野がまとめたものである。

(1) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phat Tai村・Tai Deng族

N19° 58' 15" E104° 40' 36.1" H307m

2008年2月17日聞き書

この村では、2008年2月現在、水田面積が37畝、焼畑面積が8畝～12畝である。村の戸数は46軒あり、水田だけ耕作している家は6軒、焼畑だけ耕作している家は1軒である。水田と焼畑をやっている家では、水田の方が面積が広い。焼畑だけ耕作している家は5人家族で、生活に余裕がなく貧乏であるので、水田が購入できなくて、焼畑を0.7畝耕作している。この家は、多収量を得なければならないために梗を多く栽培している。次に示す種子は、2008年2月18日に収集できた稲の全部の種子である。

《Khao Hai》 焼畑の稲

① Khao Doau（早稲種）

ア、Khao Deng

糯種の稲で、種を播いて3ヶ月で収穫できる。9月終わりに収穫する。40kgの種子から籾4,000kgの収穫がある。1haあたり40kgの種子を播くので、1haあたり4,000kgの収穫があることになる。桿の背丈は80cmくらいである。

イ、Khao Keng Makuut (稲・種・南瓜)

この稲の名称は、粃が形が南瓜の種に似ているところから名付けられたものである。

糯種の稲で、種を播いて3ヶ月で収穫できる。9月終わりに収穫する。収量は不明である。桿の背丈は80cmくらいである。1haあたり4,000kgの収穫があることになる。桿の背丈は80cmくらいである。この稲は、B・Tao (Xam川の12km下流のTai Deng族の村) からもらってきた。背丈は100cmくらいである。

② Khao Khang (中稲種)

ア、Khao Deng

糯種の稲で、種を播いて3ヶ月半で収穫できる。収量は1haあたり4,000kgくらいである。

桿の背丈は100cmくらいである。

③ Khao Pii (晩稲種)

ア、Khao Wan

糯種の稲で、種を播いて4ヶ月以上で収穫できる。11月の終わり頃収穫する。収量は10kgの種を播いて1200kgくらいである。1haあたり40kgの種子を播くので、1haあたり4,800kgの収穫があることになる。桿の背丈は150cm~160cmくらいである。

イ、Khao Kham

糯種の稲で、黒米である。種を播いて4ヶ月以上で収穫できる。11月の終わり頃収穫する。収量は10kgの種を播いて700kgくらいである。1haあたり40kgの種子を播くので、1haあたり2,800kgの収穫があることになる。桿の背丈は150cm~160cmくらいである。

この黒米は作小屋の周囲に植える品種である。それは、他の白い稲の魂が嫌がってその畑から逃げようとするとき、「自分は、雨が降っても枯れず、色が黒くても逃げずに畑にいるのに、白くてきれいなあなた達がどうして逃げるのか、一緒に畑にいよう」と呼びかけて、逃げるのを思いとどまらせてくれるからであるという。

また、山の精霊が畑に入ってきて、稲を取ろうとするとき、この黒米を見たら汚いと思っ、畑全体の稲を取らないようになるからであるともいう。

ウ、Khao Hanguwa Konmu (稲・牛の尻尾・丸い)

この稲の名称は、芒が牛の尻尾のように長く、粃が形が丸いところから名付けられたものである。

糯種の稲で、種を播いて4ヶ月以上で収穫できる。11月の終わり頃収穫する。収量は10kgの種を播いて1000kgくらいである。1haあたり40kgの種子を播くので、1haあたり4,000kgの収穫があることになる。桿の背丈は150cm~160cmくらいである。

エ、Khao Phonm (稲・丸い)

この稲の名称は、粃が形が丸いところから名付けられたものである。

糯種の稲で、種を播いて4ヶ月以上で収穫できる。11月の終わり頃収穫する。収量は10kgの種を播いて1200kgくらいである。1haあたり40kgの種子を播くので、1haあた

り4,800kgの収穫があることになる。桿の背丈は150cm～160cmくらいである。

オ、Khao Nyaan

糯種の稲で、種を播いて4ヶ月以上で収穫できる。11月の終わり頃収穫する。収量は10kgの種を播いて1200kgくらいである。1haあたり40kgの種子を播くので、1haあたり4,800kgの収穫があることになる。桿の背丈は150cm～160cmくらいである。

カ、Khao Hanguwa Nyao (稲・牛の尻尾・長い)

この稲の名称は、芒が牛の尻尾のように長く、籾が形が丸いところから名付けられたものである。

糯種の稲で、種を播いて4ヶ月以上で収穫できる。11月の終わり頃収穫する。収量は10kgの種を播いて1200kgくらいである。1haあたり40kgの種子を播くので、1haあたり4,000kgの収穫があることになる。桿の背丈は150cm～160cmくらいである。

キ、Khao Chao (稲・粳)

この稲は粳種の稲で、10年くらい前にモン族からもらってきた稲である。それまでは、村の中では糯種だけを栽培していた。もらってきた理由は、食べたかったからで、森の中で炊いて食べたりする。畑の30%くらいの面積植える。収量が多いので村の中では、米の足りない家10軒くらいが栽培している。

《Khao Naa》 水田の稲

水田栽培の稲は、Khao Doau (早稲種)とKhao Pii (晩稲種)のみで、Khao Khang (中稲種)はない。また、粳種はなく、全てが糯種である。

① Khao Doau (稲・早稲種)

ア、N97号

収量が多いので3年前に導入した。収量は、10kgの種を播いて1,400kg～1,500kgくらいである。1haあたり40kgの種子を播くので、1haあたり5,500kgの～6,000kgの収穫があることになる。桿の背丈は70cmくらいである。

乾期に作る稲で、去年は2～3軒作っていた。おそらく、今年から導入する家が増加するかもしれない。乾期に強い稲なので焼畑での栽培も可能かもしれない。

この品種は、籾が落ちやすいのでこの品種の導入と共に、キヨ (稲刈り鎌)で刈り取るようになり、足踏み脱穀機が導入された。それにつれて在来品種もキヨで刈り取り、足踏み脱穀機を使用するようになった。ハイブリッドの品種の導入が、ヘップによる穂摘みがキヨによる刈り取りに、ロン (横臼)から足踏み脱穀機による脱穀へ、さらに踏み臼から動力精米機による精米へという道具と技術の変化を引き起こしている。

7年くらい前までは、Khao Doau Naa (稲・早稲種・水田)という品種があったが、収量が少なかったのを捨てた。

② Khao Pii (晩稲種)

種播きは6月終わり頃、田植えが7月終わり頃、収穫は11月から行う。背丈は、全品種150cmから160cmくらいで、水牛が稲の中に入っても見えないくらいである。

ア、Khao Wan Yeng (稲・?・鰻)

この稲の名称は、粃が形が鰻のように細長いところから名付けられたものである。収量は、10kgの種を播いて1,000kgくらいである。1 haあたり40kgの種子を播くので、1 haあたり4,000kgの収穫があることになる。

イ、Khao Luang (稲・黄色)

この稲の名称は、粃の色が黄色であるところから名付けられたものである。

この稲は、とても古い品種で、収量は、10kgの種を播いて1,000kgくらいである。1 haあたり40kgの種子を播くので、1 haあたり4,000kgの収穫があることになる。多収量である上に、粃粒自体が充実していて重みがあり、食べても粃の量がなかなか減らない。他の品種が1.5 t あっても先に食べ尽くしてしまうが、この稲は1.0 t の収穫であっても食べても減ることがない。

ウ、Khao Deng (稲・赤い)

この稲の名称は、粃の色が赤い色であるところから名付けられたものである。

収量は、10kgの種を播いて875kg くらいである。1 haあたり40kgの種子を播くので、1 haあたり3,500kgの収穫があることになる。

エ、Khao Daky An (稲・尻・毛がない)

この稲の名称は、粃のお尻の皮の部分(粃の付け根の部分)に、毛がないところから名付けられたものである。

収量は、10kgの種を播いて1,000kg くらいである。1 haあたり40kgの種子を播くので、1 haあたり4,000kgの収穫があることになる。

昔は、Khao Daky Kon (稲・尻・毛がある) という品種があった。Khao Luang (稲・黄色) と同じく、食べても減らなかったが、脱穀や精米作業のときに、稲の毛が飛んで体についてかゆかったので捨てた。

オ、Khao Phon

収量は、10kgの種を播いて1,250kg くらいである。1 haあたり40kgの種子を播くので、1 haあたり5,000kgの収穫があることになる。

米が柔らかく甘いので、食べる量が増えて米の減る率が高い。

(2) Houa Pang県 Xam Tai郡 Tao村・Tai Deng族

N19° 53' 40.6" E104° 44' 28.4" H295m

2008年2月18日聞き

個数60軒、人口1070人(男500人くらい)で、500年くらい前から住んでいる。焼畑耕作面積は40ha~50haくらい、水田耕作面積が6 haである。

《Khao hai》 焼畑の稲

次の稲を各戸で栽培しており、背丈もいろいろで粃も落ちにくいので、脱穀は横臼を使ってサーク(竪杵)で搗いて脱穀し、踏み臼で精米しなければならない。従って、長い稲桿が付いていると脱穀の障害になるので、収穫作業は全てヘップで穂摘みをしている。

① Khao Doau (早稲種)

ア, Khao Toat

糯種の稲で、10kgの種子から粳200kgの収穫がある。村の近くの場所を2年耕作して3年休ませて、6年目には再び焼畑にしているので、奥の山や川の近くを伐るとB・Pat Thaiと同じくらいの収量がある。1975年から保護林が設定され、焼畑地が少なくなり、年取った森(パーケー)を焼畑にすることが出来なくなり、休閑期間が短くなり若い森を伐るようになった。

イ, Khao Set

糯種の稲で、収量は10kgの種子から粳200kgの収穫がある。

② Khao Khang (中稲種)

ア, Khao Ueang

糯種の稲で、収量は10kgあたり350kgくらいである。

イ, Khao Daky An (稲・尻・毛がない)

糯種の稲で、収量は10kgあたり350kgくらいである。

③ Khao Pii (晩稲種)

ア, Khao Luang

糯種の稲で、収量は10kgの種を播いて600kgくらいである。

イ, Khao Nyaan

糯種の稲で、収量は10kgの種を播いて600kgくらいである。

ウ, Khao Luang Phon

糯種の稲で、収量は10kgの種を播いて600kgくらいである。

《Khao Naa》 水田の稲

水田栽培の稲は、Khao Pii (晩稲種)のみで、Khao Doau (早稲種)とKhao Khang (中稲種)はない。また、粳種はなく、全てが糯種である。

5年～6年前から多収量であるからという農林事務所の勧めで、改良品種を2～3品種導入している。改良品種は、背丈が一緒で刈り易く、脱穀し易いので、キヨ(稲刈り鎌)で刈り取っている。

④ Khao Pii (晩稲種)

ア, Khao Luang

この稲は、古い品種はこの1種類だけである。5月に種播きをし、6月末に田植えをし、11月に収穫をする。収穫はヘップで穂摘みをする。

(3) Houa Pang県 Xam Tai郡 Nam Khuang村・Tai Deng族

N19° 50' 40.7" E104° 32' 35.5" H610m

2008年2月21日聞書

この村では、2008年2月現在、水田面積が6ha、焼畑面積が9.8haである。村の戸数は21軒、水田を耕作している家は9軒、焼畑は全戸が耕作している。1家族当たりの水田耕作面

積は0.6ha、焼き畑耕作面積は1.6haである。水田は、焼き畑よりも作りやすく、多収量であるということを知って、1973年から作り始めた。1家族が植える品種の数は、6～7品種が普通である。次に示す種子は、2008年2月21日に収集できた稲の全部の種子である。

《Khao Hai》 焼畑の稲

① Khao Do (早稲種)

ア、Khao Do Dong (稲・早稲・白い)

糯種の稲で、5月上旬に種を播いて9月上旬に収穫できる。収量は10kgの種子から粃500kgの収穫がある。脱粒性が低いのでヘップ(穂摘み具)で穂摘みする。昔はロン(脱穀用横臼)に入れ堅杵で搗いて脱穀していたが、現在はマットを敷いてその上に穂摘みした穂を置いて、棒で叩いて脱穀する。背丈は140cmくらいである。

この稲は、収量はそこそこであるが、他の品種が土地によって収量にばらつきがあるのに比べて、どんな土地でも良くできるので、好んで選択されて栽培される。

イ、Khao Nang Mao (稲・女・酔う)

糯種の稲で、5月上旬に種を播いて9月上旬に収穫できる。収量は10kgの種子から粃600kgくらいである。とても香りが強く、女の人が食べると酔っぱらったようなところから名付けられた。背丈は160cmくらいである。この稲は、Khao Ngam San(中稲種の糯)、Khao Meuang Lon(晩稲種の糯)とともに、中心的に栽培されている品種の一つである。これらの3品種は、穂が出てから後が強く、多収量で美味しい。Khao Ngam Sanに次いで2番目に乾燥に強い。

② Khao Khang (中稲種)

ア、Khao Mong (稲・灰色)

糯種の稲で、5月上旬に種を播いて10月上旬に収穫できる。収量は10kgの種子から粃700kgくらいである。精米した後の米の色が灰色であるところから名付けられた名称である。背丈は150cmくらいである。

イ、Khao Xan Neua (稲・サムヌア)

糯種の稲で、5月上旬に種を播いて10月上旬に収穫できる。収量は10kgの種を播いて600kgくらいである。1972年にXan Neuaから持ってきた品種である。背丈は160cmくらいである。

ウ、Khao Leuat Het (稲・血・サイ)

糯種の稲で、5月上旬に種を播いて10月上旬に収穫できる。収量は10kgの種を播いて600kgくらいである。粃が動物のサイの血のように赤い所から名付けられた名称である。背丈は160cmくらいである。

エ、Khao Ngam San (稲・美しい・階層)

糯種の稲で、5月上旬に種を播いて10月上旬に収穫できる。収量は10kgの種を播いて700kgくらいである。稲の中で一番美しい階層であるところから名付けられた名称である。多収量であるところから、1986年にMeuang Naから持ってきた品種である。

Meuang Naは、以前はこの地域の中心地で大きな学校があり、子どもや人々が行く機会が多く、ものが集まりやすく、良くできる稲も持ち込まれてきた。現在では中心地が Meuang Konに移ってしまった。背丈は140cmくらいである。

この稲は、Khao Nang Mao（早稲種の糯）、Khao Meuang Lon（晩稲種の糯）とともに、中心的に栽培されている品種の一つである。これらの3品種は、穂が出てから後が強く、多収量で美味しい。現在の品種の中で乾燥に一番強い。

オ、Khao Chao Hang（稲・粳・尻尾）

糯種の稲で、5月上旬に種を播いて10月上旬に収穫できる。収量は10kgの種を播いて500kgくらいである。粉の尻尾（芒）が10cmと長いところから名付けられた名称である。背丈は140cm～150cmくらいである。

③ Khao Pii（晩稲種）

ア、Khao Meuang Long

糯種の稲で、種播き時期は5月中旬、収穫時期は11月上旬である。収量は10kgの種を播いて400kgくらいである。この稲は、Khao Nang Mao（早稲種の糯）、Khao Ngam San（中稲種の糯）とともに、中心的に栽培されている品種の一つである。これらの3品種は、穂が出てから強く、多収量で美味しい。背丈は160cm～170cmくらいである。

イ、Khao Mai Hiya

糯種の稲で、種播き時期は5月中旬、収穫時期は11月上旬である。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。桿が長く太くて、肉部が薄いという特徴が、Mai Hiyaという竹の特徴に煮ているところから名付けられた名称である。背丈は160cm～170cmくらいである。

ウ、Khao Kam（稲・黒い）

糯種の稲で、種播き時期は5月中旬、収穫時期は11月上旬である。収量は10kgの種を播いて400kgくらいである。精米したときの米が黒い色をしているところから名付けられた名称である。この黒米だけは、畑の右か左かのパーンハイ（横・焼畑：横の縁）かフアハイ（頭・焼畑：上側の縁）に播く。人間が稲に失礼なことをすると稲の魂は逃げてしまう。その時、黒米が稲の魂に逃げないように、「あなたたちは、色も白いきれいなのにどうして逃げるのか。僕は色が黒くても逃げないのにどうして逃げるのか。人間たちは、草取りなどもしてくれるのにどうして逃げるのか。逃げないで一緒にいよう」と呼び掛けてくれる。そうすると稲の魂が逃げなくなるからだという。背丈は150cmくらいである。

エ、Khao Mak Ko（稲・椎の実）

糯種の稲で、種播き時期は5月中旬、収穫時期は11月上旬である。収量は10kgの種を播いて700kgくらいである。粉粒が椎の実ににているところから名付けられた。背丈は150cmくらいである。

オ、Khao Kambojia (稲・カンボジア)

粳種の稲で、種播き時期は5月中旬、収穫時期は11月上旬である。収量は10kgの種を播いて500kgくらいである。1993年にこの地域の中心地であるMeuang Konから購入してきた品種である。どうして名称がカンボジアなのかは分からない。背丈は160cmくらいである。

カ、Khao Chao Leuang (稲・粳・黄色)

粳種の稲で、種播き時期は5月中旬、収穫時期は11月上旬である。収量は10kgの種を播いて600kgくらいである。背丈は150cmくらいである。

《Khao Naa》 水田の稲

水田栽培の稲は、Khao Pii (晩稲種)のみである。また、粳種と糯種とがある。

ア、Khao Nong

糯種の稲で、種播き時期は5月中旬、収穫時期は11月上旬である。収量は、10kgの種を播いて800kgくらいである。名称の由来はよく分からないが、持ち込んできた人の名前かもしれない。背丈は150cm～160cmくらいである。

イ、Khao Kai Noi Deng (稲・鶏・小さい・赤い)

糯種の稲で、種播き時期は5月中旬、収穫時期は11月上旬である。収量は、10kgの種を播いて600kgくらいである。4年前にMeuang Naから持ち込んだ品種である。脱粒性が低い稲である。背丈は120cm～130cmくらいである。

ウ、Khao Cham Naa (稲・粳・水田)

粳種の稲で、種播き時期は5月中旬、収穫時期は11月上旬である。収量は、10kgの種を播いて500kgくらいである。背丈は150cmくらいである。

(4) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phao Neuan村・Tai Deng族

N20° 05' 39.4" E104° 43' 50.3" H595m

2008年2月22日聞き

この村では、2008年2月現在、水田面積が6ha、焼畑面積が9.8haである。村の戸数は21軒、水田を耕作している家は9軒、焼畑は全戸が耕作している。1家族当たりの水田耕作面積は0.6ha、焼き畑耕作面積は1.1haである。水田は、焼畑よりも作りやすく、多収量であるということを知って、1973年から作り始めた。1家族が植える品種の数は、5～6品種が普通で、早稲、中稲、晩稲をそれぞれ2品種くらいずつ植える。焼畑にはKhao None (稲・晩稲・糯)、Khao Kam (黒米・晩稲・糯)、Khao Mak Ko (晩稲・糯)、Khao Cham Kham (晩稲・粳)が栽培される。特に、Khao NoneとKhao Cham Khamが中心的に栽培される。畑の半分くらいをKhao NoneとKhao Kamで占める。水田には、Khao LekとKhao Dakuを中心的に栽培する。米はほとんど自家消費で、必要なときだけ販売する。次に示す種子は、2008年2月21日に収集できた稲の全部の種子で、断りのない限り昔から村にあった品種である。他の村から良い稲種子を貰ってくるときは、民族に関わりなく貰ってくる。

《Khao Hai》 焼畑の稲

① Khao Do (早稲種)

無し

② Khao Khang (中稲種)

ア, Khao Nang Mao (稲・女・酔う)

糯種の稲で、5月下旬に種を播いて10月中旬～下旬に収穫できる。収量は10kgの種子から粳600kgくらいである。背丈は140cmくらいである。

イ, Khao Mak Heng

中稲から晩稲に掛かる糯種の稲で、5月下旬に種を播いて10月下旬～11月上旬に収穫できる。収量は10kgの種を播いて650kgくらいである。背丈は140cmくらいである。

③ Khao Pii (晩稲種)

ア, Khao Kam (稲・黒い)

糯種の稲で、5月下旬に種を播いて11月上旬以降に収穫する。収量は10kgの種を播いて500kgくらいである。この稲は、精米した米が黒い色をしているところから名付けられた。背丈は150cmくらいである。外から畑にやってくる霊が怖がるので、昔からティアンハイの周りに播く。また、黒米は畑に連れて行く子どもや赤ちゃんから霊を除けてくれる。

イ, Khao Nam Man (稲・油)

糯種の稲で、5月下旬に種を播いて11月上旬以降に収穫する。収量は10kgの種を播いて550kgくらいである。名称の由来は不明である。背丈は150cmくらいである。

ウ, Khao None (稲・小さな蛆の名前)

糯種の稲で、5月下旬に種を播いて11月上旬以降に収穫する。収量は10kgの種を播いて500kgくらいである。粳が白くて長いNoneという小さな蛆の姿に煮ているところから名付けられた名称である。背丈は160cmくらいである。

エ, Khao Hai Na (稲・畑・水田)

糯種の稲で、5月下旬に種を播いて11月上旬以降に収穫する。収量は10kgの種を播いて600kgくらいである。水田の稲種に似ているが畑で出来る。元々は畑の品種であるが、水田でも水の少ない状態でも作れる。8年前に、40km先のMeuang Keungから移入してきたので、水田ではあまり試してはいないが栽培できる。一穂の粒数は少ないが、穂がたくさん出る。この稲は、脱粒性が高いのでキヨ(稲刈り鎌)で収穫する。背丈は140cmくらいである。

オ, Khao Mak Ho (稲・ホという木の実)

粳種の稲で、5月下旬に種を播いて11月上旬以降に収穫する。収量は10kgの種を播いて550kgくらいである。背丈は160cmくらいである。

カ, Khao Ngam San (稲・美しい・階層)

糯種の稲で、5月下旬に種を播いて11月上旬以降に収穫する。収量は10kgの種を播い

て600kgくらいである。背丈は140cmくらいである。

キ, Khao Mak Ko (稲・椎の実)

糯種の稲で、5月下旬に種を播いて11月上旬以降に収穫する。収量は10kgの種を播いて550kgくらいである。この稲は、脱粒性が高いのでキヨ(稲刈り鎌)で収穫する。背丈は130cmくらいである。

ク, Khao Cham Kham (稲・粳・黄金)

粳種の稲で、5月下旬に種を播いて11月上旬以降に収穫する。収量は10kgの種を播いて500kgくらいである。粳の色が黄金色であるところから名付けられた名称である。他の糯種の稲に比べて、食べても嵩が減らずに、長くもつ。背丈は、130cmくらいである。

キ, Khao Cham Lao Soon (稲・粳・モン族)

粳種の稲で、5月下旬に種を播いて11月上旬以降に収穫する。収量は10kgの種を播いて500kgくらいである。7年～8年前にどこからか分からないが持ち込まれてきた。粳であるのでLao Soon(モン族)の稲であるところから名付けられた名称である。粳は糯に比べて多収穫で美味しいから作る。また、昼間は畑で作業をするので、夕方帰宅して時間がないので粳を食べる。しかし、本当は糯の方が好きである。背丈は140cmくらいである。

《Khao Naa》 水田の稲

① Khao Do (早稲種)

無し

② Khao Khang (中稲種)

ア, Khao Pa Pan (稲・パーパンという魚)

糯種の稲で、5月下旬に種を播いて10月下旬に収穫できる。収量は10kgの種子から粳600kgくらいである。粳の模様がパーパンという魚の縞模様に似ているところから名付けられた名称である。背丈は140cmくらいである。

③ Khao Pii (晩稲種)

ア, Khao Lek (稲・鉄)

糯種の稲で、5月下旬に種を播いて11月上旬に収穫できる。収量は10kgの種を播いて800kgくらいである。名称の由来は不詳である。この稲は、柔らかく、多収量である。しかも、他の改良品種よりも食べても嵩が減らずに、長くもつ。背丈は150cmくらいである。

(5) Houa Pang県 Thong郡 Leng村・Thai Deng族

N20° 24' 58.4" E103° 22' 00.9" H791m

2008年2月26日聞き

戸数30軒、人口227人(女126人)の村である。村全体で焼畑5haと水田22.98haを耕作している。そのうち水田の16.98haは古い村にある。古い村は4km奥に入ったNam Et保護林の中心地にあり、1996年に現在の村に移動してきた。水田を作り始めたのは1954年からである。

そのころ気候が不順が続き、雨が降らずに1年おきに旱魃が起きたので水田を作るようになった。それまでは焼畑だけを作っていた。

現在、焼き畑を行っているのは10家族で、その人々は水田はほとんど持っていない。それ以外の家は水田中心で、焼畑は毎年は作っていない。畑の稲の品種の数は以前はもっと多かったが、現在は2種類のみが残っている。

現在化学肥料はほとんど使用していないが、水田の苗代に尿素だけを施肥している。水田を始めた1954年に比較すると20%減少している。

《Khao Hai》 焼畑の稲

① Khao Do (早稲種)

無し

② Khao Khang (中稲種)

無し

③ Khao Pii (晩稲種)

ア、Khao Sanguam (稲・保全、保護)

糯種の稲で、5月下旬から6月上旬に種を播き、11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。1ha当たり55kgの種を播くので、収穫量は1,650kgあることになる。昔からこの村にあった品種で、現在畑に栽培される80%くらいをこの品種が占める。この品種だけを栽培している家もあれば、Khao Dengを加えた2品種を栽培している家もある。背丈は120cmくらいである。収穫は、キヨ(稲刈り鎌)で行い、リヤン(稲束締め棒)で巻き締めて、ランチャン(叩き台)に叩き付けて脱穀する。

イ、Khao Deng (稲・赤い)

糯種の稲で、5月下旬から6月上旬に種を播き、11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。1ha当たり55kgの種を播くので、収穫量は1,650kgあることになる。昔からこの村にあった品種で、籾の色が赤いところから名付けられた名称である。持ち込んできたときから赤い籾以外の籾も混じっていたが、収量や味の良さに関係しないので、そのままにしておいた。現在畑に栽培される20%くらいがこの品種である。背丈は120cmくらいである。収穫は、キヨ(稲刈り鎌)で行い、リヤン(稲束締め棒)で巻き締めて、ランチャン(叩き台)に叩き付けて脱穀する。

《Khao Naa》 水田の稲

① Khao Do (早稲種)

無し

② Khao Khang (中稲種)

無し

③ Khao Pii (晩稲種)

ア、Khao Nam Yen (稲・水・冷たい)

糯種の稲で、4月下旬に種を播き、5月下旬から6月上旬に種を播き、11月上旬に収

穫する。収量は10kgの種を播いて600kgくらいである。冷たい水でも育つところから名付けられた名称である。2003年に73km離れたトン郡タムラーニューアー村というタイプアン族の村から持ってきた品種である。その村とこの村とが、寒いという気候が似ているからである。現在水田に栽培される稲の7%くらいがこの品種である。背丈は150cmくらいである。

イ、Khao Kai Noi (稲・鶏・小さい)

糯種の稲で、4月下旬に種を播き、5月下旬から6月上旬に種を播き、11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて1100kgくらいである。粃が小さい鶏みたいであるところから冷たい水でも育つところから名付けられた名称である。1987年にサムヌアーのタイデン族の村から村長が持ってきた。それ以前は、Khao NgamとKhao Chimを用いていたが、精米したとき米粒が砕けやすかったので、この品種を取り入れた。現在水田に栽培される稲の90%くらいがこの品種である。丈は120cmくらいである。共同研究員のARRC (農業研究センター) のヴィエンポン氏によれば、この品種はサムヌアー地域の品種で、そこでは小さな鶏でも食べることができるところから名付けられた名称であるという。

ウ、Khao Cham Na (稲・粃・水田)

粃種の稲で、4月下旬に種を播き、5月下旬から6月上旬に種を播き、11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて700kgくらいである。2005年に村のソムトンさんが、ヴィエンチャンから持ってきた品種である。この村は水田が少ないため米が足りないのので、糯種より粃の方が食べても量が減らないこの品種を取り入れた。現在水田に栽培される稲の3%くらいがこの品種である。丈は150cmくらいである。

(6) Houa Pang県 Thong郡 Tamlar Neua村・Thai Phuang族

N19° 55' 36.0" E103° 26' 42.9" H1257m

2008年2月29日聞書

戸数58軒、人口434人(女222人)の村である。200年~300年前からこの村に住んでいる。焼畑は全戸が行っている。水田は、全戸数耕作しているわけではなく、村全体で26.87ha、一戸当たり1.5haを耕作している。新しい品種は、シェンクワンは気候が寒く、この村と似ているのでシェンクワンから貰ってくる。相手の民族は特にどの民族でも構わない。収穫は、どの品種もキヨ(稲刈り鎌)で刈り、カップットコンティーカオ(稲束締め棒)で巻き締めて、叩き台に叩き付けて、さらに、脱穀されていない穂をコンティーカオ(稲叩き棒)で叩いて脱穀する。

《Khao Hai》 焼畑の稲

① Khao Do (早稲種)

無し

② Khao Khang (中稲種)

無し

③ Khao Pii (晩稲種)

ア, Khao Deng (稲・赤い)

糯種の稲で、6月上旬から6月上旬に種を播き、11月下旬から12月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。1畝当たり100kgの種を播くので、収穫量は3,000kgあることになる。1998年にヴィエントンから持ってきた品種である。この品種は桿が強いので、土の悪いところに植えても倒れない。背丈は100センチ～130センチくらいである。

イ, Khao Kam Hai (稲・黒い・畑)

糯種の稲で、6月上旬から6月上旬に種を播き、11月下旬から12月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて150kg～200kgくらいである。1ha当たり100kgの種を播くので、収穫量は1500kg～2000kgあることになる。昔からこの村にあった品種で、この品種だけだと美味しくないので、Khao Hom Lepmeuという品種と混ぜて播く。背丈は90cmくらいである。

ウ, Khao Kaloi Dam (稲・意味不詳・黒い)

糯種の稲で、6月上旬から種を播き、11月下旬から12月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。1ha当たり100kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は3000kgあることになる。脱粒性が高いが、土が良いところでも、風が弱いところでも倒れやすい。今から15年前に米粒が大きくて美味しいというので、シェンクワンのKhamu族の村から持ってきた。背丈は160cm～170cmくらいである。

エ, Khao Kaloi Khao (稲・意味不詳・白い)

糯種の稲で、6月上旬から種を播き、11月下旬から12月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。1ha当たり100kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は3000kgあることになる。どんな土にでも良く合い、畑で作られる稲のうち95%をこの品種が占めているが、最も脱粒性が低く脱穀作業が大変である。1983年か1984年に米不足であったので、収量が多くて軟らかいということで、シェンクワンのKhamu族の村から持ってきた。背丈は160cm～170cmくらいである。

オ, Khao Hom Lai (稲・香り・縞模様)

糯種の稲で、6月上旬から種を播き、11月下旬から12月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて500kgくらいである。1ha当たり100kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は5000kgあることになる。脱粒性が高い。30年くらい前に、プールアンというモン族の村からもってきた。香りが良くて多収で、肥沃な土地に植えても稲が倒れない。背丈は120cmくらいである。

カ, Khao Chao Hai (稲・粳・畑)

粳種の稲で、6月上旬から種を播き、11月下旬から12月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて500kgくらいである。1ha当たり100kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は5000kgあることになる。2000年にMuang Sone村からもってきた。白くて美味

しく脂分が多い。背丈は80cm～110cmくらいである。

キ、Khao Chao Khao（稲・粳・意味不明）

粳種の稲で、6月上旬から種を播き、11月下旬から12月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。1ha当たり100kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は3000kgあることになる。Khao kaloi Khaoをもらってきた後に、シェンクワンのThai Phuang族の村から持ってきた。この村では、水田の少ない家の人が植える。背丈は70cmくらいである。

《Khao Naa》 水田の稲

① Khao Do（早稲種）

無し

② Khao Khang（中稲種）

無し

③ Khao Pii（晩稲種）

ア、Khao Khum Naa（稲・カム族・水田）

糯種の稲で、収量は10kgの種を播いて150kgくらいである。1ha当たり100kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は1500kgあることになる。2006年にヘックカオの儀礼をするためにシェンクワンのKhamu族の村からもらってきた。背丈は70cmくらいである。

イ、Khao Lar（稲・さようなら）

糯種の稲で、収量は10kgの種を播いて375kgくらいである。1ha当たり100kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は3750kgあることになる。1986年に発芽がよいということで、シェンクワンから持ってきた。この品種は、毎年だんだん収穫が少なくなるので、Larと名付けられた。背丈は80cm～70cmくらいである。

ウ、Khao Khai（稲・痒い）

糯種の稲で、収量は10kgの種を播いて375kgくらいである。1ha当たり100kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は3750kgあることになる。昔からある品種で、粉の表面に毛があり、脱穀作業や精米作業をすると体が痒くなるのでこの名前がある。

エ、Khao Nam Yen（稲・水・冷たい）

糯種の稲で、収量は10kgの種を播いて375kgくらいである。1ha当たり100kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は3750kgあることになる。昔からある耐冷性の品種で、冷たく寒いところで育つので名付けられた名称である。背丈は80cm～110cmくらいである。

オ、Khao Chao Deng（稲・粳・赤い）

粳種の稲で、収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。1ha当たり100kgの種を播くので、1ha当たり収穫量は3000kgあることになる。最も脱粒性が低い。昔からある品種で、米の赤いとぎ汁では織物の糸の糊付けに使う。女の人は好んで作るが、男の

人はあまり好きでない。背丈は70cm～100cmくらいである。

(7) Houa Pang県 Xam Tai郡 Pung Siang村・Khamu族

N19° 46' 41.95" E104° 32' 03.9" H642m

2008年2月20日聞き

戸数65軒，人口392人（女239人）で，500年くらい前から住んでいる。焼畑耕作面積は村全体で73haくらい，1戸当たり2.3haくらいである。水田耕作はしていない。

《Khao hai》 焼畑の稲

次の稲を各戸で栽培しており，1家族で2～5品種栽培している。現在のところ化学肥料，農薬は使用していない。収穫は，昔は手で扱っていたが，現在ではNgo Be Klock以外は全てキヨ（稲刈り鎌）を使って刈り穫る。稲はほとんどが自家消費であるが，現金が必要なおきだけは販売する。

① Ngo Be（早稲種）

ア， Ngo Be Klock（稲・早稲・白い）

白い糯種の稲で，10kgの種子から粃500kg～600kgの収穫がある。背丈は150cm～160cmくらいである。種播き時期は6月上旬，収穫時期は9月下旬である。

脱粒性が低いので叩いても落ちない（臼と杵で搗かないと落ちない）ので，ヘップ（穂摘み具）で穂摘みしなければならない。

イ， Ngo Ham Lo

名前の由来は不詳である。10kgの種子から粃500kg～600kgの収穫がある。背丈は130cm～140cmくらいである。種播き時期は6月上旬，収穫時期は9月下旬である。

② Khao Khang（中稲種）

ア， Khao Nia

糯種の稲で，収量は10kgあたり200kg～300kgくらいである。収量は少ないが，とても柔らかく，現在栽培している品種の中では一番美味しい。背丈は150cm～160cmくらいである。種播き時期は6月中旬，収穫時期は11月中旬以降である。

イ， Khao Nang Mao（稲・女性・酔う）

糯種の稲で，収量は10kgあたり500kg～600kgくらいである。とても香りが強く，女の人が食べると酔っぱらったようになるところから名付けられた。背丈は150cm～160cmくらいである。種播き時期は6月中旬，収穫時期は11月中旬以降である。

ウ， Khao Hin Noi（稲・石・小さい）

糯種の稲で，収量は10kgあたり800kgくらいである。名前の由来は不詳である。背丈は150cm～160cmくらいである。種播き時期は6月中旬，収穫時期は11月中旬以降である。

エ， Khao Hin Gnyai（稲・石・大きい）

糯種の稲で，収量は10kgの種を播いて1000kgくらいで，現在ある品種で一番収量が多い。Khao Hin Noiと見た目は同じようだが，粒が大きい。背丈は150cm～160cmくらいである。種播き時期は6月中旬，収穫時期は11月中旬以降である。

③ Khao Pii (晩稲種)

ア, Khao Meuang Long

糯種の稲で、収量は10kgの種を播いて800kgくらいで、現在ある品種で二番目に収量が多い。Meuang Longはシェンクアン県の地域名で、そこから貰ってきた稲である。背丈は150cm～160cmくらいである。種播き時期は6月中旬、収穫時期は11月中旬以降である。

イ, Khao Makko (稲・椎の実)

糯種の稲で、収量は10kgの種を播いて500kg～600kgくらいである。籾粒が椎の実に似ているところから名付けられた。背丈は150cm～160cmくらいである。種播き時期は6月中旬、収穫時期は11月中旬以降である。

ウ, Khao Wane Kio

糯種の稲で、収量は10kgの種を播いて500kg～600kgくらいである。Kioは稲刈り鎌の意味である。背丈は150cm～160cmくらいである。種播き時期は6月中旬、収穫時期は11月中旬以降である。

エ, Ngo Blok

糯種の稲で、収量は10kgの種を播いて500kg～600kgくらいである。名称の由来は不明である。背丈は150cm～160cmくらいである。種播き時期は6月中旬、収穫時期は11月中旬以降である。

オ, Ngo Jiim (稲・赤い)

糯種の稲で、収量は10kgの種を播いて500kg～600kgくらいである。籾の外皮が赤い色をしているところから名付けられた名称である。背丈は150cm～160cmくらいである。種播き時期は6月中旬、収穫時期は11月中旬以降である。

カ, Ngo Yon Nong (稲・何かに紐を付けて垂らす・女)

糯種の稲で、収量は10kgの種を播いて500kg～600kgくらいである。名称の由来は不明である。背丈は150cm～160cmくらいである。種播き時期は6月中旬、収穫時期は11月中旬以降である。

キ, Ngo Hian (稲・黒い)

糯種の稲で、収量は10kgの種を播いて500kg～600kgくらいである。米が黒い色をしているところから名付けられた名称である。背丈は150cm～160cmくらいである。種播き時期は6月中旬、収穫時期は11月中旬以降である。

この稲は、稲の長老だと言われ、マツトハレットの儀礼的種播きが終わった後、畑に種播きするときトゥップハレット(作小屋)の周囲に最初に種播きをする。

ク, Khao Cham (稲・梗)

梗種の稲で、収量は10kgの種を播いて800kgくらいである。別名はKhao・Cham^④ Laosoon(稲・梗・モン族)である。この名称から推量すると、モン族の村から持ってきたものであろうが、どこの村からかははっきり分からない。

(8) Houa Pang県 Thong郡 Phueng Done村・Khamu族

N20° 06' 13.7" E103° 23' 18.8" H653m

2008年2月25日聞き

戸数36軒、204人(女102人)の村である。村全体で焼畑25haと水田7haを耕作している。焼畑は1家族平均焼畑0.5ha~0.6ha、水田は14戸で耕作している。収穫方法は全ての品種をキヨ(稲刈り鎌)で刈り穫る。特に、断りがない限り、昔から村にあった品種である。

《Khao Hai》 焼畑の稲

① Khao Do (早稲種)

ア, Hngo Chiim (Hngo Jhiimのことと思われる)

糯種の稲で、5月中旬に種を播き、9月下旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。背丈は130cmくらいである。

イ, Hngo Seet

糯種の稲で、5月中旬に種を播き、9月下旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。背丈は140cmくらいである。

② Khao Khang (中稲種)

ア, Hngo Kang Kone

糯種の稲で、5月中旬に種を播き、10月中旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。村人は名称の由来については分からないと言うが、他の村では実が大きいというところから名付けられたという伝承がある(共同研究員・ARC研究員 ヴィエンボン氏言)。背丈は140cmくらいである。

イ, Hngo Wai

糯種の稲で、5月中旬に種を播き、10月中旬~10月下旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。背丈は140cmくらいである。種子の採集はできなかった。

③ Khao Pii (晩稲種)

ア, Hngo Yim (稲・赤い)

糯種の稲で、5月中旬に種を播き、10月下旬~11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて200kg~450kgくらいである。1997年にルアンパバーンから持ってきた。水分や土壌の違い、鼠の被害によって収量が大きく変わる。背丈は140cmくらいである。

イ, Hngo Mok (稲・妹)

糯種の稲で、5月中旬に種を播き、10月下旬~11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて200kg~450kgくらいである。いつかはわからないがファムアン郡から持ってきた。乾燥に強いので、この村では中心的に栽培されている品種である。背丈は140cmくらいである。

ウ, Hngo Tong (稲・竹の節間)

糯種の稲で、5月中旬に種を播き、10月下旬~11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。背丈は140cmくらいである。

エ, Hngo Tangam (稲・個人名)

糯種の稲で、5月中旬に種を播き、10月下旬～11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。1980年に別のカム族の村のTangamさんからもってきた品種である。背丈は140cmくらいである。

オ, Hngo Tangam Hiyan (稲・黒い)

糯種の稲で、5月中旬に種を播き、10月下旬～11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。この稲は、稲の先祖、稲の母と言われおり、これを播くことでその外の品種の稲の魂を呼び集めてくれる。畑全体の種播きが終わったら最後に、ゴッヒヤン(黒米)の種に早稲、中稲、晩稲など畑に播いた種を混ぜて、パヌールの伐り株の周りとトウツプハレツの周りに播く。さらに、ゴッヒヤンの種だけをパヌールの伐り株とトウツプハレツの間に播く。この米の主な用途は、ラオハイ、ラオサトーというお酒の原料である。

カ, Hngo Tangam Chao (稲・稈)

稈種の稲で、5月中旬に種を播き、10月下旬～11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて400kgくらいである。2000年に52km離れたMungというモン族の村からもってきた品種である。背丈は140cmくらいである。

《Khao Naa》 水田の稲

① Khao Do (早稲種)

無し

② Khao Khang (中稲種)

無し

③ Khao Pii (晩稲種)

ア, Hngo Tangam Iyar Nye (稲・鶏・小さい)

糯種の稲で、6月中旬に種を播き、7月中旬に田植えをし、11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。2000年にサムヌアーから持ってきた品種である。背丈は130cmくらいである。

イ, Hngo La (稲・遅い)

糯種の稲で、5月中旬に種を播き、10月下旬～11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kg～400kgくらいである。2003年にサムヌアーから持ってきた品種である。この村では、水田の水がなくなることが多いので、耐乾性のこの品種を持ってきた。背丈は150cmくらいである。

(9) Luang Prabang県 Kham郡 Samtom村・Khamu族

N20° 26' 27.8" E102° 56' 51.9" H830m

2008年3月5日聞き

戸数70軒、人口:421人(女性232人、男性189人)の村である。1997年にここから南に30km離れたサムカムの近くの山のB. Houeitoneから移住してきた。道路(国道1号線)がある

ということで、政府の政策ではなく自分たちの意思で移住してきた。

現在は、焼畑85.7haを耕作しているのみで、水田は全くない。無農薬・無施肥耕作で、米はすべて自家消費用である。以前は1世帯について2ha以上（全体で100ha以上）あったが、近年になり現金収入を手に入れるために、商品作物を栽培する和紙の原料となるポーサーという木の畑、キャッサバ畑、染料となる液を出す虫を育てるマメ畑などを作るようになったために、稲を栽培する焼畑の面積は減ってきた。畑は1年ごとに移動。2年目では25%減、3年目ではマオホックもマイチンもなくなり元に戻らなくなる。収穫は、ホーット（hort：杵を手でしごく、ラオ語名；hut）という方法で行われ、キヨ（稲刈り鎌）やヘツプ（穂摘み具）は用いていない。他の方法と比べ手順が少なので脱穀作業が楽で、杵の乾燥も畑で行う。

以下は、2008年3月5日に、ケのNgo Meun LaneとサのNgo Chaoと除き、13種類を集めることのできた。新しい品種を持って来る以前は昔からあった11品種のみであったが、良くない品種は既になくなってしまった。現在残っている昔からの品種はそれぞれに良い特徴があり好まれている。1家族で2～4品種を使用している。

《Ngo Hret》 焼畑の稲（陸稲）

① Ngo Be（早稲種）

ア、Ngo Bom Be（ゴボムベー；Bom＝ボール・Be＝早生、ラオ語名：Khao Bom Do）

糯種の稲で、カム暦5月下旬に種を播き、9月中旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて200kgくらいである。1ha当たり60kgの種を播くので、収穫量は1,200kgあることになる。名称は、種子の形が丸く、ボールに似ているところに由来する。早生であり、早く収穫できるからという理由で、1992年にヴィエンカム郡のパクラオ村（Khamu族）の親戚から持ってきた。草丈は約100cmくらいである。

イ、Ngo Hing Be（ゴヒンベー；Hing＝木の実の一種・Be＝早生、ラオ語名称：Khao Mak Hing Do；Mak Hing＝木の実の一種、Do＝早生）

糯種の稲で、カム暦5月下旬に種を播き、9月中旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて210kgくらいである。1ha当たり60kgの種を播くので、収穫量は1,260kgあることになる。名称は、昔からこの名前なので詳しくはわからない。しかし、ラオルムが言うには、振った時の音がMak Hingを振った時の音に似ているから名付けられたという。草丈は約100cmくらいである。昔からある品種である。

② Khao Khang（中稲種）

ア、Ngo Kha（ゴカー；Kha＝カーという木の実の一種、ラオ語名称：Khao Mak Ko；mak ko＝コー（椎の木）の実）

糯種の稲で、カム暦6月下旬に種を播き、9月下旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて210kgくらいである。1ha当たり60kgの種を播くので、収穫量は1,260kgあることになる。名称は、種子の形がKha（Mak Ko）に似ているところに由来する。昔からある品種である。草丈は約100cmくらいである。

イ, Ngo Tala (ゴタラー; Tala=タラーという竹, ラオ語名称: Khao Mai Hiya Deng

糯種の稲で, カム暦6月上旬に種を播き, 9月下旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて270kgくらいである。1ha当たり60kgの種を播くので, 1ha当たりの収穫量は1,620kgあることになる。名称は, 稲の桿や籾殻が薄いのがタラーに似ているところに由来する。1995年に手で脱穀しやすい品種で, 種子の中身がよく詰まっているというので, ヴィエンカム郡サンカーン村(Khamu族)の親戚から持ってきた。草丈は約140cmである。

③ Khao Pii (晩稲種)

ア, Ngo Yaak (ゴヤーク; Yaak=タケノコ, ラオ語名称: Khao Nyao No; Nyao=長い, No=タケノコ)

糯種の稲で, カム暦6月上旬に種を播き, 11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。1ha当たり60kgの種を播くので, 収穫量は1,800kgあることになる。名称は, 籾の粒が長いのがタケノコに似ているところに由来する。昔からある品種である。草丈は約130cmである。

イ, Ngo Wai (ゴワイ; Wai=籐, ラオ語名称: Khao Wai; Wai=籐)

糯種の稲で, カム暦6月上旬に種を播き, 11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。1ha当たり60kgの種を播くので, 収穫量は1,800kgあることになる。名称は, 稲の背が高く幹が長いのが籐に似ているところに由来する。昔からある品種である。草丈は約150cmである。

ウ, Ngo Nam Ou (ゴナムウー; Nam Ou=ナムウー郡, ラオ語名称: Khao Nam Ou)

糯種の稲で, カム暦6月上旬に種を播き, 11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて240kgくらいである。1ha当たり60kgの種を播くので, 1ha当たりの収穫量は1,440kgあることになる。名称の由来は, 明らかでないが, ナムウー郡から持ってきたところに由来すると思われる。多収で, 手でしごいて脱穀できる品種だという理由で, 1975年にNam Ou郡にある親戚の村から持ってきた。草丈は約140cmである。

エ, Ngo Rang Kan Sar (ゴランカンサール; Rang=花・Kansar=ショウガの一種, ラオ語名称: Khao Dok Kha (Dok=花, Kha=ショウガの一種)

糯種の稲で, カム暦6月上旬に種を播き, 11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。1ha当たり60kgの種を播くので, 1ha当たりの収穫量は1,800kgあることになる。米粒が大きく多収だからという理由で, 1990年にヴィエンカム郡サンカーン村(カム族)の親戚から持ってきた。草丈は約140cmである。

オ, Ngo Chagar (ゴチャガール; Chagar=黄, ラオ語名称: Khao Leuang; Leuang=黄)

糯種の稲で, カム暦6月上旬に種を播き, 11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。1ha当たり60kgの種を播くので, 1ha当たりの収穫量は1,800kgあることになる。名称は, 籾が黄色いところに由来する。昔からある品種である。草丈は約140cmである。

カ、Ngo Hiang (ゴヒアン；Hiang=黒，ラオ語名称：Khao kam；Kam=黒)

糯種の稲で、カム暦6月上旬に種を播き、11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。1ha当たり60kgの種を播くので、収穫量は1,800kgあることになる。全ての家族でこの黒米かNgo Hiang Khurか、どちらかを毎年少量栽培している。名称は、種子が黒いところに由来する。昔からある品種で、全ての品種の中で一番草丈が高く、登熟が一番遅い。草丈は約160cmである。

キ、Ngo Hiang Khur (ゴヒアン クール；Hiang=黒・Khur=毛，ラオ語名称：Khao Kam；Kam=黒)

糯種の稲で、カム暦6月上旬に種を播き、11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。1ha当たり60kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は1,800kgあることになる。全ての家族でこの黒米かNgo Hiangか、どちらかを毎年少量栽培している。名称は、黒米であり、籾の表面に毛があるところに由来する。Ngo Hiangよりも黒い。毛があるので収穫の際に痒くなる。昔からある品種である。草丈は約150cmである。

ク、Ngo Phee (ゴペー；Phee=広がる，ラオ語名称：Khao Phee；Phee=広がる)

糯種の稲で、カム暦6月上旬に種を播き、11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。1ha当たり60kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は1,800kgあることになる。名称は、分蘖がとて多いため、播いた種子が少量でも株が大きく広がるところに由来する。米は赤米である。昔からある品種である。草丈は約100cmである。

ケ、Ngo Meun Lane (ゴムーンラン；Meun Lane=1000万，ラオ語名称：Khao Meun Lane；Eun Lane=1000万)

糯種の稲で、カム暦6月上旬に種を播き、11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。1ha当たり60kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は1,800kgあることになる。名称は、分蘖がとて多いところに由来する。昔からある品種である。草丈は約100cmである。

コ、Ngo Chao Kham (ゴチャオ カム；Chao=ウルチ・Kham=金，ラオ語名称：Khao Chao Kham)

粳種の稲で、カム暦6月上旬に種を播き、11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて300kgくらいである。1ha当たり60kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は1,800kgあることになる。名称は、籾の色が金色に似ているところに由来する。昔からある品種である。草丈は約150cmである。

サ、Ngo Chao (ゴチャオ；Chao=ウルチ，ラオ語名称：Khao Chao)

粳種の稲で、カム暦6月上旬に種を播き、11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて180kgくらいである。1ha当たり60kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は1,080kgあることになる。名称は、粳種の米であるところに由来する。昔からある品種

である。カオブン(麵)を作るための粳の米である。草丈は約100cmである。

(10) Houa Pang県 Thong郡 Houayd Teun村・Yao族

N20° 16' 38.3" E103° 22' 13.7" H1136m

2008年3月2日聞き

戸数39軒、人口340人(女162人)の村である。元々は、フアパン県シェンコー郡ムンエツト村に住んでいたが、土地が広くて阿片が作れるのではないかとということでこちらの方に移ってきた。まず、1990年3月に父親たち6人が、平地があり、川があり、日当たりも良かったので、現在地から5kmくらい離れたナムヌーン川沿いの地に入った。その年は、以前に他の人がやった焼畑跡地を焼畑にして稲を作り、収穫をしてムンエツト村に戻ってきた。良いところだからナムヌーンに移ろうということになり、1991年8月に5家族が移り、さらに翌年1月に17、8家族が移ってきた。そこに5年暮らしていたが、1996年に政府が道が開通したので道の近くに住めというので、現在の村に移住してきた。全戸が焼畑だけを行っており、水田は一切作っていない。焼畑の耕作面積は、村全体で22ha、1戸当たり0.5haを耕作している。焼畑地が少なく、毎年米不足である。また、この土地はトビアン(大豆)もチア(茄子)もガメ(玉蜀黍)もできない。周りの森は1983年に保護林に指定されたが、移ってきたときはそんなに厳しい取り締まりはなかった。しかし、2003年に外国機関からの援助が始まり、保護政策が強化され、同じ場所を繰り返し作っている。青年たちが大きくなってきたが、土地不足であるので、現在ルアンナムターの辺りに土地を探している。昨日ヴィエントンの市場に出てきていたのも、その情報を探すためであった。

《Khao Hai》 焼畑の稲

① Khao Do (早稲種)

3年前までは、Biwaon Salangという品種があったが、野鳥に食べられてなくなってしまった。

② Khao Khang (中稲種)

無し

③ Khao Pii (晩稲種)

ア、Biwaon Tc Yang (稲・粳・黄色)

粳種の稲で、5月上旬に種を播き、11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて250kgくらいである。1ha当たり60kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は1,500kgあることになる。フアパン県シェンコー郡ムンエツト村に住んでいたときから持っている品種である。脱粒性が高い品種である。背丈は130cmくらいである。

イ、Biwaon Tc Si (稲・粳・赤い)

粳種の稲で、5月上旬に種を播き、11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて250kgくらいである。1ha当たり60kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は1,500kgあることになる。1992年に2km先のウアンパート村というモン族からもらった品種である。現在、この村で最も多く用いられている。また、最も脱粒しにくい品種である。

背丈は130cmくらいである。

ウ, Biwaon Ku (稲・黒い)

糯種の稲で、5月上旬に種を播き、11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて400kgくらいである。1ha当たり60kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は2,400kgあることになる。フアパン県シェンコー郡ムンエット村に住んでいたときから持っている品種である。いつもは粳の米を食べているが、一月に1回～2回糯種の米を食べる。背丈は120cm～140cmくらいである。

エ, Biwaon Byut Pe (稲・粳・白い)

糯種の稲で、5月上旬に種を播き、11月上旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて350kg～360kgくらいである。1ha当たり60kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は2,100kg～2,160kgあることになる。脱粒性が高いので脱穀しやすく、多収量の品種であるので、1993年にモンソン郡ホエイホン村のモン族からもらってきた品種である。いつもは粳の米を食べているが、一月に1回～2回糯種の米を食べる。背丈は120cm～140cmくらいである。

(11) Houa Pan県 Xam Tai郡 Tham Khuay村・Hmong族

N20° 12' 24.0" E104° 32' 08.3" H1003m

2008年2月23日聞き

戸数40軒、200人(女95人)の村である。全て焼畑を行っており水田はない。焼畑は、3年続けて耕作する。2年目は1年目に比べて20%～30%の減収になる。3年目は1年目に比べて40%～50%の減収になる。従って、3年耕作したら他の場所に移らなければならない。収穫方法は全ての品種をキヨ(稲刈り鎌)で刈り、棒で叩いて脱穀する。しかし、昨年(2007年)から足踏み脱穀機を導入した。

《Khao Hai》 焼畑の稲—A家が所有していた粳—

① Khao Do (早稲種)

ア, Khao Nang Mao (稲・女・酔う)

糯種の稲で、村より高いところは6月下旬、村より低いところは7月上旬に種を播き、10月中旬に収穫できる。収量は10kgの種子から粳300kgくらいである。背丈は140cm～150cmくらいである。

② Khao Khang (中稲種)

無し

③ Khao Pii (晩稲種)

ア, Kha Pha Tet (稲・テツという魚)

糯種の稲で、村より高いところは6月下旬、村より低いところは7月上旬に種を播き、11月中旬に収穫する。収量は10kgの種子から粳300kgくらいである。背丈は140cm～150cmくらいである。

イ, Khao Khao (稲・白い)

糯種の稲で、村より高いところは6月下旬、村より低いところは7月上旬に種を播き、11月中旬に収穫する。収量は10kgの種子から粃300kgくらいである。多収であるの他の他の品種より少し多めに植える。背丈は140cm~150cmくらいである。

ウ, Khao Kam Peng (稲・黒い・?)

糯種の稲で、村より高いところは6月下旬、村より低いところは7月上旬に種を播き、11月中旬に収穫する。収量は10kgの種子から粃300kgくらいである。畑のどこに播いても良い。精米したときの米の色が黒いところから名付けられた名称である。ほとんどが酒を造るのに用いられる。背丈は140cm~150cmくらいである。

エ, Khao Chao Deng (稲・粃・赤い)

粃種の稲で、村より高いところは6月下旬、村より低いところは7月上旬に種を播き、11月中旬に収穫する。収量は10kgの種子から粃300kgくらいである。多収であるの他の他の品種より少し多めに植える。粃の色が赤いところから名付けられた名称である。背丈は140cm~150cmくらいである。

《Khao Hai》 焼畑の稲—B家が所有していた粃—

① Khao Do (早稲種)

無し

② Khao Khang (中稲種)

無し

③ Khao Pii (晩稲種)

ア, Khao None (稲・小さな蛆の名前)

糯種の稲で、村より高いところは6月下旬、村より低いところは7月上旬に種を播き、11月中旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて250kgくらいである。粃が白くて長いNoneという小さな蛆の姿に煮ているところから名付けられた名称である。背丈は他の品種よりも低い。

(12) Luang Prabang県 Kham郡 Ombring村・Mhong族

N20° 24' 24.6" E102° 59' 24.3" H940m

2008年3月4日聞き書

戸数38軒、人口267人(女136人)の村である。現在は、行政的には隣のカム族のプーシー村と2000年に合併されてオンブリン村となっている。以前は谷の方に900mくらい下ったところにいたが、水も不足していた上に、毎年3月になると病気が流行って子どもが死んだので、1993年に現在地に移ってきた。現在地を選んだ理由は、利用林であるけれども森が保護されていたからである。前の村では、周りの森を全部伐って畑にしてしまったので子どもが死んだ。だから、ここに来て周りの森を保護して涼しくしたので、それが良かった。

焼畑は、一年間に全体で45haくらいずつ伐っている。伐る広さは家族の人数によって異なるが、15人家族の家では2ha、4人~5人の家族では1haくらい伐る。水田は作ったこ

とがない。

普段は、粳の稲を食べていて、糯の稲は粳がなくなったら仕方なく食べる。しかし、晩生の粳だけでは収量が少ないので、早生を作らなければならないが、早生の粳は収量が低いので、早生の糯を作る。

稲の収穫方法は、昔からキヨ（稲刈り鎌）とヴォー（穂摘み具）を用いた刈取りと、フルという手で抜く方法が取られていた。しかし、1990年に村人全員で試して、キヨで刈るようになった。1988年に品種が入れ替わってきたので、収穫方法も変わってきたのであろうという。手で抜く方法は稲が完熟するのを待たなければならないし、収穫したらすぐに倉に入れなければならないから面倒である。ヴォーも同じである。

種籾の収穫は、畑の中の実りの良さそうなエリアを選んで、完熟するのを待って、手で抜くかキヨで刈り取る。ただ、キヨで刈り取ると種子が混じってしまうので、手で抜く方がよい。

《Ngo Hret》 焼畑の稲（陸稲）

① Bley Chao（早稲種）

ア、Bley Chao Low Lia（ブレイチャオロウリア；Chao=早生・Low=大きい・Lia=赤い、ラオ語名称：Khao Do Peuak Deng）

糯種の稲で、4月下旬に種を播き、8月下旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて400kgくらいである。1ha当たり50kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は2,000kgあることになる。食べる米が十分でなく早生が欲しくて、美味しいからという理由で、2005年にこの村から16km離れたヴィエンカム郡のNam Lao村（カム族）から持ってきた。脱粒性が高い品種であるため、Huru（手で抜く）という方法で収穫する。草丈は約120cmくらいである。

イ、Bley Chao Ko Chua（ブレイチャオコウチュア；Chao=早生・Ko=糞・Chua=鼠、ラオ語名称：Khao Do Kii Nuua）

糯種の稲で、4月下旬に種を播き、8月下旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて400kgくらいである。1ha当たり50kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は2,000kgあることになる。昔からある品種である。草丈は約120cmくらいである。

ウ、Bley Chao Dra（ブレイチャオドュラ；Chao=早生・Dra=中生、ラオ語名称：Khao Cham Leuang）

早稲から中生の糯種の稲で、4月下旬に種を播き、8月下旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて400kg～500kgくらいである。1ha当たり50kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は2,000kg～2500kgあることになる。早稲から中生の品種が欲しかったということと、多収であるという理由で、2006年にこの村から16km離れたヴィエンカム郡のNam Lao村（カム族）から持ってきた。草丈は約130cmくらいである。

② Bley Dra（中稲種）

ア、Bley Sn Cho（ブレイスンチョ、ラオ語名称：Khao Kii Khang；Kii=糞・Khang=赤い染料にする虫の一種）

糯種の稲で、4月下旬に種を播き、8月下旬の早稲の収穫終了に引き続いて収穫する。収量は10kgの種を播いて400kgくらいである。1ha当たり50kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は2,000kgくらいあることになる。名称は、粉の包みが赤い染料に似ているところに由来する。晩生の稲の収穫時期と労働時期をずらす必要があって中生の稲が欲しかったという理由で、2004年にこの村から16km離れたカム郡のNam Lao村（カム族）から持ってきた。草丈は約130cmくらいである。

③ Bley Shon（晩稲種）

ア、Bley Sha（プレイチャー；Sha=黒・又はBley Lia（プレイリア；Lia=赤）・Bley Du（ブレイドゥ；Du=黒）、ラオ語名称：Khao Kham

糯種の稲で、4月下旬に種を播き、10月下旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて400kgくらいである。1ha当たり50kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は2,000kgくらいあることになる。昔からある品種である。草丈は約150cmくらいである。

イ、Bley Dar（プレイダー；Dar=黄色、ラオ語名称：Khao Pheung；Pheung=蜂

糯種の稲で、4月下旬に種を播き、10月下旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて400kgくらいである。1ha当たり50kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は2,000kgくらいあることになる。名称は、粉の色が蜂の色に似ているところに由来する。昔からある品種である。草丈は約130cmくらいである。

以前にあったBley Dar（ラオ語名称Khao Leuang）は、稲束を放り投げても粉が落ちないし、叩くと茎が折れるほど脱粒性が低く、脱穀に手間が掛かり、硬くて美味しくなかったので作らなくなった。

ウ、Bley Dar Low（プレイダーロー；Dar=黄色・Low=大きい、ラオ語名称：Khao Leuang Nyai；Leuang=黄色・Nyai=大きい

糯種の稲で、4月下旬に種を播き、10月下旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて400kg～500kgくらいである。1ha当たり50kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は2,000kg～2,500kgくらいあることになる。見たところ穂が大きく、粉の粒も多く、食べても美味しいという理由で、1988年にルアンナムターのモン族の村から持ってきた。草丈は約130cmくらいである。

エ、Bley Song Dar（プレイソルダー；Song=小さい・Dar=黄色、ラオ語名称：Khao Leuang Noi；Leuang=黄色・Noi=大きい

糯種の稲で、4月下旬に種を播き、10月下旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて400kg～500kgくらいである。1ha当たり50kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は2,000kg～2,500kgくらいあることになる。穂が長く、粉の粒も大きく、美味しいという理由で、2007年にVieng Kham郡のハイラオ村（モン族）から持ってきた。草丈は約130cmくらいである。

オ、Bley Tuawu（プレイツァウ；Tuawu=ほとんど死んでしまう、ラオ語名称：Khao：Khao Kii Nuu；Kii=糞・Nuu=鼠

糯種の稲で、4月下旬に種を播き、10月下旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて400kg～500kg以上である。1ha当たり50kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は2,000kg～2,500kg以上あることになる。名称は、発芽後の2週間～3週間は成育が悪いというところに由来する。発芽後の4週間～5週間には良く育つ。乾燥に強い品種である。草丈は約130cmくらいである。

カ、Bley Chua Dar Low (ブレイチュアダロー；Chua=粳・Dar=黄色・Low=大きい、ラオ語名称：Khao Leuang Nyai；Leuang=黄色・Nyai=大きい)

粳種の稲で、4月下旬に種を播き、10月下旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて400kg～500kg以上である。1ha当たり50kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は2,000kg～2,500kg以上あることになる。収量が多く、食べても美味しいという理由で、1988年にルアンナムターのモン族の村から持ってきた。草丈は約130cmくらいである。

キ、Bley Chua Lia Ti (ブレイチュアリアチ；Chua=粳・Lia=赤・Ti=羽、ラオ語名称：Khao Chao Pik Deng；Chao=粳・Pik=羽・Deng=赤い)

粳種の稲で、4月下旬に種を播き、10月下旬に収穫する。収量は10kgの種を播いて400kg～500kg以上である。1ha当たり50kgの種を播くので、1ha当たりの収穫量は2,000kg～2,500kg以上あることになる。名称は、粳の護穎が赤い色をしているというところに由来する。粳が長くて多収であるということで、昔からある品種である。草丈は約130cmくらいである。

この品種は、村の全ての家族が最も多く作る品種である。

9 混播される作物

(1) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phat Tai村・Tai Deng族

N19° 58' 15" E104° 40' 36.1" H307m

2008年2月17日聞き書

① 稲と種を一緒に混ぜて播く作物

マクテーン (胡瓜)、マクトーン (冬瓜)

② 種は混ぜないが稲の畑の中に播く作物

トゥア (インゲン：畑の周縁に播く)、マクブアツプ (糸瓜：伐り株の所に播く)、マクグア (胡麻)、マクア (茄子：作小屋の近くに播く)、キンクウ (レモングラス：小屋の近くに播く)

(2) Houa Pang県 Thong郡 Leng村・Tai Deng族

N20° 24' 58.4" E103° 22' 00.9" H791m

2008年2月26日聞き書

① 稲と種を一緒に混ぜて播く作物

マクテーン (胡瓜)、マクガー (胡麻)

② 種は混ぜないが稲の畑の中に播く作物

マクブアツ (長い糸瓜), マクタナイ (短い糸瓜), マクワ (茄子), マクプア (タロイモ), マクオン (芋), ただし, マクウツ (南瓜) とマクトーン (冬瓜) は稲の畑とは別の玉蜀黍の畑の中に播く

(3) Houa Pang県 Thong郡 Tamlar Neua村・Tai Phuang族

N19° 55' 36.0" E103° 26' 42.9" H1257m

2008年2月29日聞き書

① 稲と種を一緒に混ぜて播く作物

マクテーン (胡瓜), マクガ (黒胡麻), マクトーン (冬瓜)

② 種は混ぜないが稲の畑の中に播く作物

キーン (生姜), シンカイ (レモングラス), サリーミー (玉蜀黍: 畑の下側の縁沿いに植える), マクウー (南瓜), マクポー (丸い瓢箪), マクプア (タロイモ), マクブプア (糸瓜), マクトーン (冬瓜), マクドゥアイ (鳩麦)

(4) Houa Pang県 Xam Tai郡 Pung Siang村 Khamu族

N19° 46' 41.95" E104° 32' 03.9" H642m

2008年2月20日聞き書

① 稲と種を一緒に混ぜて播く作物

キャラー (胡瓜), サバイ (いんげん豆), ピールクルック (冬瓜) ウワイチントライ (砂糖黍)

② 種は混ぜないが稲の畑の中に播く作物

畑の柵沿いや, ユアンハレツ (足・焼畑) には, サリー (玉蜀黍) やピール (南瓜), ベ (鳩麦)

カボンハレツの柵沿いにはラガ (胡麻)

竹の切株を燃やした灰の多いところには, プリック (唐辛子) やラムダーン (茄子)

切株や倒木, 立ち枯れの木などの所には, ナラー (糸瓜)

(5) Houa Pang県 Thong郡 Phueng Done村・Khamu族

N20° 06' 13.7" E103° 23' 18.8" H653m

2008年2月25日聞き書

① 稲と種を一緒に混ぜて播く作物

キャラー (胡瓜), ラガヒヤ (黒胡麻) ピールクルック (冬瓜) ウワイチントライ (砂糖黍)

② 種は混ぜないが稲の畑の中に播く作物

ナラー (糸瓜), ピール (南瓜), リック (唐辛子), ラムダーン (茄子), サローラ (タロイモ), サバーイ (インゲン), その他香辛料の野菜類

(6) Luang Prabang県 Kham郡 Samtom村・Khamu族

N20° 26' 27.8" E102° 56' 51.9" H830m

2008年3月5日聞き書

① イネの種子と混ぜて播くもの

マクテーン（胡瓜：畑全体に播く。イネに巻きつかず、地を這うから。収穫時に水分補給に食べる）、マクトーン（冬瓜：長く保存できるから）

② 稲と種は混ぜないが稲の畑の中に播く作物

玉蜀黍、茄子、唐辛子。これらは小屋の近くに播く。

(7) Houa Pang県 Thong郡 Houayd Teun村・Yao族

N20° 16' 38.3" E103° 22' 13.7" H1136m

2008年3月2日聞き書

① 稲と種を一緒に混ぜて播く作物

マクテーン（胡瓜：農作業中のどが渴いたとき水代わりに食べる）、マクテーンライ（縞模様に入った丸い胡瓜）、マンパアオ（生で食べる白い芋）、マクモウ（西瓜）

② 稲と種は混ぜないが稲の畑の中に播く作物

フォンボー（南瓜）、ソープ（冬瓜）、オイリヤム（玉蜀黍：畑の下側の縁沿いに植える）、ピョターツ（苦瓜：倒木のあるところに植える）、サーツ（胡麻：柵沿いに植える）、ザエー（稗：米と混ぜて食べると甘くて美味しい）、ラツゾイー（糸瓜：立ち残り木のところに植える）、コーダムグアン（水入れ用瓢箪）、コーキャン（食用瓢箪）

(8) Luang Prabang県 Kham郡 Ombring村・Hmong族

N20° 24' 24.6" E102° 59' 24.3" H940m

2008年3月4日聞き書

① イネの種子と混ぜて播くもの

マクテーン（胡瓜）、マクトーン（冬瓜：長く保存できるから）

10 成育促進儀礼

(1) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phat Tai村・Tai Deng族

N19° 58' 15" E104° 40' 36.1" H307m

2008年2月17日聞き書

儀礼名 ファイ・ハイ（お願い・焼畑）

種播きして約1ヶ月半経ったころ、稲の成長と豊かな稔りをお願いするため、ファイハイと称する儀礼を行う。家から畑にラオハイ1～2壺と、鶏1羽を持ってゆく。鶏の色、性は問わない。ティンハイで鶏を料理し、サンヘックのファンにお供えをして、ピー（霊）に食べさせる。この儀礼をするのはモーアーと呼ばれる専門の男で、家にいなければ村の中から頼んで行く。モーアーは、現在村の中に10人くらいいる。

(2) Houa Pang県 Xam Tai郡 Nam khuang村・Thai Deng族

N19° 50' 40.7" E104° 32' 35.5" H610m

2008年2月21日聞き書

① 儀礼名 ヒヤック・クワン・カオ（呼んでくる・魂・稲）

米倉が倒れたり火事になったりしたら、稲の魂がピーチャオリンやピープーピーパオ（畑を守っている土の霊であるとか先祖の霊）のところに逃げていってしまっていて帰ってこなくなる。特に、火事になったときは、翌年稲が全く穫れなくなるので、ヒヤックワンカオという儀礼を行う。豚1頭か鶏1頭を殺して料理して食卓に乗せ、その脇に黒い木綿糸でバシー（玉結び）をした稲の束1把を置いて、モアー（巫者）を頼んできて、ピーチャオリンやピープー、ピーパオに「この家が米倉をよく守らなかつたので、（倒壊・火事）になってしまいました。新しい米倉を造りますので、ピーチャオリン、ピープーピーパオの米倉から、稲の魂を戻してください。その代わりに、豚1頭、鶏1羽を食べさせます。」とお願いをしてもらう。

その後、黒糸でバシーした稲束は、カブーン（杵入れ籠）に入れてその家の長老の寝室の足下（入り口）に置いておく。新しい米倉が出来上がったら、「ここにいてください」と言って、新しい米倉の中に入れておく。

(3) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phao Neuan村・Tai Deng族

N20° 05' 39.4" E104° 43' 50.3" H595m

2008年2月22日聞き書

① 儀礼名 シュワイ・ブー・カオ（清潔にする・葉っぱ・稲）

種播きして約一ヶ月半経ったころ、稲の生長と豊かな稔りをお願いするため、シュワイブーカオと称する儀礼を行う。家から畑にラオハイ1壺を持ってゆく。サンヘックの前にお供えをして、モアー（儀礼をする専門の男）に頼んで、ピー・チャオ・リン（霊・主人・土）に虫や鼠など稲に害を及ぼすもの取り除いてもらうようお願いしてもらう。モアーは家にいなければ村の中から頼んで行く。

② 儀礼名 シン・ショー・クワン・カオ（唱える・お願い・魂・稲）

稲の魂は、畑に大木が倒れ込んだり、ティエンハイ（畑の米倉）が倒れたり、水に流されたり、火事になったりしたら怖がって、ピーチャオリン、ピープーピーパオの所や森や川に逃げていってしまう。稲の魂が逃げていなくなったしまったら稲ができなくなる。その時はモアー（呪術師）を頼んで、稲の魂を呼び戻すためにシンショークワンカオという儀礼を行う。

家で豚1頭、鶏1羽を殺して料理して、ラオハイ1壺、稲の穂1ファ（把）、トム（レモングラス）1束とともに、食卓にお供えする。そして、モアーがピーチャオリン、ピープーピーパオに対して、豚や鶏、ラオハイをお礼にあげるのので、逃げた稲の魂がどこにいるか調べて呼び戻してくださいということをお願いする。

稲の魂が戻ってきたら、トムで稲の穂1束を束ねて、米倉の棟木に吊り下げる。米倉が

完成していないときは、家の高いところに置いておく。そうすると来年も稲の収穫がある。

(4) Houa Pang県 Thong郡 Leng村・Tai Deng族

N20° 24' 58.4" E103° 22' 00.9" H791m

2008年2月26日聞き書

① 儀礼名 ワーツハイ

稲が病気になったら、ワーツハイという儀礼を行う。サンヘックの近くにチエンワーツという高さ70cmくらいの4本足の四角の竹の台を作り、屋根も付ける。その台の上にビンロースを供えて、山の霊に向かって「稲の病気をなくしてください。病気がなくなったら収穫のときに鶏を食べさせます。病気がなくならなかったら食べさせません」と願う。

② 儀礼名 セン・サップ・クワン・カオ（唱え言葉で呼ぶ・追いかける・魂・稲）

米倉が火事になったり倒壊したりしたら、稲の魂が川の方に逃げていってしまう。そのときは、モーセン（呪術師）を頼んできてセンサップクワンカオという儀礼を行う。鶏1羽、ラオハイ一壺、ラオラオ1本を準備して、モーセンに「新しい米倉に戻って来てください」と唱えて、稲の魂を呼び戻してもらう。稲の魂は、3日間この儀礼をやらないとVieng Thongくらいまで逃げていってしまう。10日間もやらないとさらに遠くに逃げていってしまう。

(5) Houa Pang県 Thong郡 Tamlar Neua村・Tai Phuang族

N19° 55' 36.0" E103° 26' 42.9" H1257m

2008年2月29日聞き書

儀礼名 バー・ハイ（祈願する・焼畑）

畑の稲が、たくさん鼠に食べられたときに、バーハイという儀礼を行う。蠟燭5本を2本ずつ2組と1本1組に分け、バナナの葉に花と一緒に包み、木の棒の両端に付ける。残りの1本はその真ん中に付けて地面に立てて、ピー（霊）とテバダー（神）に、「鼠が来たら鼠の歯を引き抜いて、稲を食べないようにしてください。野鳥が来たら、ニャン（稲を食べて膨らむ胃袋）を潰して、稲を食べられないようにしてください。お願いしたとおりに稲がたくさん穫れたら、収穫の後にラオハイと鶏を食べさせます。そうしてくれなかったら食べさせてあげません」と願う。

(6) Houa Pang県 Xam Tai郡 Pung Siang村・Khamu族

N19° 46' 41.95" E104° 32' 03.9" H642m

2008年2月20日聞き書

成育促進儀礼はない。

(7) Houa Pang県 Thong郡 Phueng Done村・Khamu族

N20° 06' 13.7" E103° 23' 18.8" H653m

2008年2月25日聞き書

儀礼名 マツ・ハレツ (条件付きのお願い・焼畑)

稲が病気になりそうになったら、マツハレツという儀礼を行う。畑の精霊やロイ・モック(霊・山)に「稲を元に戻して元気にしてください。そして、稲の成長が良くなりますように、収穫が多くなるようにしてください。稲の病気が治ったら豚や鶏、ラオハイとかを食べさせます。治してくれなかったら食べさせません」とお願いする。

稲の病気が治ったら、畑の中に台を作って、豚、鶏、ラオハイなどをお供えして、約束どおり霊に食べさせる。このとき、豚も鶏も白い色の物は、霊が受け取らないので供物にはできない。病気が治らないときは食べさせない。

(8) Luang Prabang県 Kham郡 Samtom村・Khamu族

N20° 26' 27.8" E102° 56' 51.9" H830m

2008年3月5日聞き書

儀礼名 マー・ハレツ (祈願・畑)

天候が悪くなく、稲がきれいに育たないとき、バーツ・ハレツ(注ぐ・畑)とかバツホ・サムラー(供える・種子)と呼ぶ播種儀礼のとき、ラングロン・シンチル・イヤル(花・鶏冠・鶏)等の花を植えたところに行って、カンマー(ビンロウス)、タバコを供えローソクに灯を灯し、「もし、稲がきれいになったら、鶏とか豚を食べさせますから」と唱えて祈願する。

(9) Houa Pang県 Thong郡 Houayd Teun村・Yao族

N20° 16' 38.3" E103° 22' 13.7" H1136m

2008年3月2日聞き書

① 儀礼名 ピアスン (入春求神)

種播きが終わったら縁起の良い日を選んで、ピアスンという儀礼を行う。家神のために豚を殺してお供えをする。豚がなければ鶏を殺して供える。野鳥や鼠が焼畑の稲を食べにこないようにしてくださいとお願いする。供える動物は何れも白い色のものは避ける。友人が家にやってきたときに、白い鶏を料理して食べさせると、その友人は自分から離れていくと言われており、白い色のものは嫌われている。

② 儀礼名 シップレンミエン

鄧、趙、盤の姓を持つ人々が、焼畑の稲が良くないときにシップレンミエンという儀礼をデイ・リュウ(焼畑・作小屋)のところで、シーミエンミエン(お供えをできる人)を頼んで行う。鶏(白い色以外の色)1羽、半熟の卵、酒5杯、水1杯を供え、デイリュウの囲炉裏で紙銭を燃やししながら、「虫や動物が稲に悪さをしないようにしてください。そうしてくれたらチャーヒヤンの祭のときにお返しのお礼をします」とお願いをする。

(10) Luang Prabang県 Kham郡 Ombring村・Hmong族

N20° 24' 24.6" E102° 59' 24.3" H940m

2008年3月4日聞き書

儀礼名 マー・ハレット (祈願・焼畑)

天候が良くて、稲がきれいに育たないときに、マーハレットという儀礼を行う。カンマー (ビンロウ)、蠟燭、煙草を持って畑に行き、バーツ ハレット (注ぐ・畑) という種播き始めの儀礼のときに鬱金や花を植えたところに供えて、「もし稲がきれいになったら、鶏とか豚を差し上げますから」と唱えて、お願いをする。

11 人間を愚弄する雑草

(1) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phat Tai村・Tai Deng族

N19° 58' 15" E104° 40' 36.1" H307m

2008年2月17日聞き書

除草は3回行う。1回目は、稲の背丈が15cm~20cmくらいの高さになったところに行く。第2回目は、稲の背丈が腰の高さくらいになったところに行く。第3回目は、穂孕みの時期に行く。

一番困る草は、ニャークューという草である。ニャークアップという草も困る草で、取っても取っても増えてくる。引き抜いて埋めたり、焼いたりする。特に人間を騙したりすることはない。

(2) Houa Pang県 Xam Tai郡 Tao村・Tai Deng族

N19° 53' 40.6" E104° 44' 28.4" H295m

2008年2月18日聞き書

一番困る草は、ニャークアップという草で、この草の除草をしないと稲は収穫できなくなる。この草は、人間が除草すると次のようなことを言って人間を騙す。

ゴイ コン グー ダイ キー マー
乗る 倒木 ~のように 出来る 乗る 馬

カオ コンハー グー フィーン ファイ ニャーンム ナオン
入る 燃え残りの木 当たる 焚き火 時期 寒い

(3) Houa Pang県 Xam Tai郡 Nam Khuang村・Tai Deng族

N19° 50' 40.7" E104° 32' 35.5" H610m

2008年2月21日聞き書

除草は3回行う。1回目は、稲の背丈が15cmぐらいに伸びた時期に行く。2回目は、稲の背丈が膝くらいの高さ(40cmくらい)に伸びた時期に行く。3回目は、穂孕みの時期に行く。

稲より草が高く伸びるようになったことを語る次のような話がある。

稲と草とは、最初は同じような速さで伸びていた。あるとき、稲が草に向かって「人間がお前を抜き取りに来るよ。今ここに来ているよ」と言った。草は、「どこに、どこに」と言って、背伸びをして人間の姿を探した。草はそのまま伸びて立ってしまった。だから、稲より草が伸びるのが速くなった。

焼畑で一番困る草は、ニャークアップという草である。この草は、除草する人間に対して、

次のような言葉を使って騙す。

タイム サイ コン パーンダイ キー マー
捨てる ～に 倒木 ～のように 乗る 馬

タイム サイ コーンハー パーンダイ フィーン デッド ニヤム ナオ
燃え残り木 ～に当たる 太陽 冬季 寒い

(4) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phao Neuan村・Tai Deng族

N20° 05' 39.4" E104° 43' 50.3" H595m

2008年2月22日聞き書

除草は3回行う。1回目は、ハーハイ（燃え残りを集めて焼く作業）を済ませて種播きする前に行う。第2回目は稲の背丈が20cmぐらいに伸びた時期に行う。3回目は、穂孕みの時期に行う。

焼畑で一番困る草は、ニャーカップという草である。この草は、除草する人間に対して、次のような言葉を使って騙す。

アオ クン ゴイ コーン パーン ダイ キー マー
持って 乗せる 掛ける 倒木 ～のように ～できる 乗る 馬

アオ カオ コーンハー パーン ダイ フィーン デッド
入れる 燃え残りの木 当たる 太陽

ニヤーンム ナオ
時期 寒い

(5) Houa Pang県 Thong郡 Leng村・Tai Deng族

N20° 24' 58.4" E103° 22' 00.9" H791m

2008年2月26日聞き書

除草は3回行う。1回目と2回目はワイニャハイ、3回目はルオンハイと呼ぶ。1回目は、稲の背丈が10cmぐらいに伸びた時期に行う。第2回目は稲の背丈が50cmぐらいに伸びた時期に行う。3回目は、穂孕みの時期に行う。

焼畑で一番困る草は、ニャーカッピーという草である。この草は、除草する人間に対して、次のような言葉を使って騙す。

アオ クン ゴイ コーン パーン ダイ キー マー
持って 乗せる 掛ける 倒木 ～のように できる 乗る 馬

アオ カオ サイ コーンハー パーン ダイ フィーン デット
入れる 燃え残りの木 当たる 太陽

ニヤーンム ナオ
時期 寒い

(6) Houa Pang県 Thong郡 Tamlar Neua村・Tai Phuang族

N19° 55' 36.0" E103° 26' 42.9" H1257m

2008年2月29日聞き書

除草作業のことをバイハイと言い、3回行う。1回目は、稲の背丈が10cmぐらいに伸びた時期にゴーン（除草小鋤）を使って行う。第2回目は稲の背丈が20cm～30cmぐらいに伸びた時期にゴーンを使って行う。3回目は、穂孕みの時期にリヤムム（稲刈り鎌）を使って、大きく伸びた草の上の部分刈り取って除草する。

焼畑で一番なくならない草は、ニャーフルーンという草である。この草がはびこると、本当に稲が成長しなくなり、稲の背丈が低くなる。この草は、除草する人間に対して、次のような言葉を言って騙す。

<u>テイム</u> 捨てる	<u>サイ</u> ～の上に	<u>ヒー</u> 石	<u>パン</u> ～のように	<u>ダイ</u> できる	<u>ナン</u> 座る	<u>モーン</u> 枕	
<u>テイム</u>	<u>サイ</u>	<u>ホーン</u> 伐り株	<u>パン</u>	<u>ダイ</u>	<u>ノン</u> 寝る	<u>ツアー</u> 敷布団	
<u>テイム</u>	<u>サイ</u>	<u>ナム</u> 水	<u>タオ</u> 行く	<u>ツアー</u> 全部	<u>ライ</u> たくさん	<u>ムアン</u> 町	
<u>テイム</u>	<u>サイ</u>	<u>ファイ</u> 火	<u>パン</u>	<u>ダイ</u>	<u>クーウツ</u> 生まれる	<u>ライ</u> たくさん	<u>サー</u> 一生
<u>ファツツアイ</u> 叩き付ける	<u>ゴーン</u> 除草小鋤	<u>パン</u>	<u>ダイ</u>	<u>ナン</u> 座る	<u>ムアン</u> 町		

(7) Houa Pang県 Xam Tai郡 Pung Siang村・Khamu族

N19° 46' 41.95" E104° 32' 03.9" H642m

2008年2月20日聞き

除草は2回行う。1回目は、草が多い場合は稲の背丈が20cmぐらいの高さになったところに行く。草が少ない場合は稲の背丈が40cmぐらいの高さになったところに行く。2回目は草が多い場合は稲の背丈が膝の高さぐらいになったところに行く。草が少ない場合は穂孕みの時期に行く。

焼畑の雑草で一番困る草は、キウウエイ（ラオ語名称ニャークュー）で背が高く伸びるので稲に良くない。タゴーン（ラオ語名称ニャークップ）も節から根が出て地面いっぱい広がっていく草で、除草しないと稲が枯れて死んでしまう。この草は、次のような言葉を言って人間を騙す。

<u>プラ</u> 置く	<u>ボン</u> 場所	<u>ルック</u> 平地	<u>メン</u> ～は	<u>ハン</u> 死ぬ
<u>ラバック</u> 掛け置く	<u>タローン</u> 倒れた木	<u>メン</u>	<u>ルツ</u> 気分がよい	

(8) Houa Pang県 Thong郡 Phueng Done村・Khamu族

N20° 06' 13.7" E103° 23' 18.8" H653m

2008年2月25日聞き

除草は3回行う。1回目は、稲の背丈が20cmぐらいに伸びた時期に行く。第2回目は稲の

背丈が20cm～30cmぐらいに伸びた時期に行う。3回目は、穂孕みの時期に行う。

焼畑で一番困る草は、チッカラヨンという草である。この草がはびこると、本当に稲が成長しなくなったり、枯れて死んだりする。この草は、除草する人間に対して、次のような言葉を使って脅し、騙す。

ウンブラー	イ	ダ	タッローン	ラン	ヨー	イ	ルツ
置く	私	場所	倒木	～のようになる	きれい	私	成長する
ブラー	イ	ダ	ルック	ムット	イ	ハーン	
置く			低い場所	全部	私	死ぬ	

(9) Luang Prabang県 Kham郡 Samtom村・Khamu族

N20° 26' 27.8" E102° 56' 51.9" H830m

2008年3月5日聞き書き

除草作業は、ヨウヘン・ハレツ（草を取る・焼畑）と呼ぶ。早稲の場合は2回行い、第1回目は稲の背丈が15cm～20cmぐらいに伸びた時期に、大きいウエック（除草鋏）で土を起こすようにして草を取る。第2回目は、稲の背丈が腰の高さぐらいに伸びて、穂が出ようとするところに、小さいウエック（除草小鋏）で土を削り取るようにして草を取る。中稲と晩稲は3回行い、第1回目は稲の背丈が15cm～20cmぐらいに伸びた時期に、大きいウエック（除草鋏）で土を起こすようにして草を取る。第2回目は稲の背丈が胸の高さぐらいに伸びて、まだ穂が出ないところに、小さいウエック（除草小鋏）で土を削り取るようにして草を取る。第3回目は、穂が出たときに草を手で抜き取る。

人間を騙す草は、チッタゴーン（ラオ語名称ニャーカッピー）と呼ぶ草である。焼畑いっぱい生えて稲に良くない草で、次のように言って人間を脅し騙す。

ブラツ	カンドゥール	タンクルー	デッチ	プレー	
置く	頭	伐り株	～になる	実	
ブラツ	テーロン	ハンレー	デッチ	ラーン	
	倒木	置く		花	
ワーン	ダ	ピッテイー	デッチ	ハーン	フー
置く	～に	土		死ぬ	腐る

(10) Houa Pang県 Thong郡 Houayd Teun村・Yao族

N20° 16' 38.3" E103° 22' 13.7" H1136m

2008年3月2日聞き書き

除草作業のことをチュンミヤンと言い、3回行う。1回目は、稲の背丈が15cm～20cmぐらいに伸びた時期に、除草小鋏で草を切って土を稲株に寄せる。第2回目は稲の出穂期に、草を根から引き抜いて除草する。3回目は、収穫の直前にキヨで刈り取る。

焼畑で一番なくならない草がある。この草は、引き抜いてカトー（伐り株）の上に置いてもなかなか死なない。人間が「なぜお前は死なないのか」と聞くと、「椅子の上に座っているからだよ」と答える。別のところに置こうと思って倒木の上に置いてもなかなか死なない。

そこで、人間が「なぜお前は死なないのか」と聞くと、「おれは馬の上に乗っているからだ」と答える。

昔々は、地上には草は何もなかった。草は、天の世界にあった。稲は、地面に日陰になるものが何もないものだから、熱くて熱くて堪らなくなり、「草よ天から下りてきて、太陽の日射しを防いでください」とお願いをした。だから稲の中に草が出てくるようになった。

(1) Luang Prabang県 Kham郡 Ombring村・Mhong族

N20° 24' 24.6" E102° 59' 24.3" H940m

2008年3月4日聞き書

除草作業は3回行う。1回目は、稲の背丈が10cmぐらいに伸びた時期に、ラオマー（除草小鋏）で草の根を掘り、抜き取る。第2回目は稲の背丈が50cmぐらいに伸びた時期に、ラオマー（除草小鋏）で草の根を掘り、抜き取る。稲の出穂期に、草を根から引き抜いて除草する。3回目は、稲の出穂期にキョで刈り取る。

しかし、播種前までに小さな雑草が生えてくるが、除草する時間がないので、10年前から除草剤を使用している。除草剤を使うと稲の収量が10%増加する。現在は村の全家族が使用している。

人を騙したりする草はない。

12 稲の多重な収穫儀礼と収穫技術

(1) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phat Tai村・Tai Deng族

N19° 58' 15" E104° 40' 36.1" H307m

2008年2月17日聞き書

① 儀礼名 ヘック・ハイ（始める・焼畑）

お米が足りないときに、カオハーンを作って食べる。その時にヘックハイという儀礼を行う。まず、爪先と踵とを互いに離さないようにくっつけて9歩で歩いてサンカオヘックの中に入る。そこで、「今日はとても縁起の良い日で、カオハーンを作ります。たくさん収穫があるようにしてください」と祈って、中に植えてある稲の株を白い木綿糸でまとめる。サンカオヘックを出るときも入るときと同じように9歩で出る。これは、ピー（霊）と一緒に摘みにこないように9歩で歩くのだという。

これ以降、普通の畑の稲の穂をヘッタンカオ（穂摘み具）で摘み取り、茹でて、囲炉裏の上に吊して乾燥させて、精米して水に浸した後、蒸して食べる。

② 儀礼名 ブーサー・ハイ（お供えする・焼畑）

収穫を始める2日から3日前に、収穫がたくさんあるようにと祈願するブーサーハイという儀礼を行う。この儀礼もモアーが行う。家から畑にラオハイ1～2壺と、鶏1羽、バナナ、砂糖黍、カオトン（糯米を蒸したお菓子）などを持ってゆく。鶏の色、性は問わない。ティンハイで鶏を料理し、サンヘックのファンにお供えをして、ピー（霊）に食べさせる。お金のある人は豚1頭を屠る。ピー（霊）に食べさせた後、招待した村人と共にラ

オハイを飲み、料理を食べる。

ブーサーハイは、ヘックハイを済ませてからでないといけない。

③ 儀礼名 ア・アオ・カオ・サイ・ニア（目に見えないものに語りかける・～に入れる・稲・入れる・米倉）

普通の畑の収穫は、ヘックハイやブーサーハイの儀礼を済ませてあるので、特に儀礼はせずにヘッタンカオを用いて穂摘みする。10年くらい前に他の村から導入した新しい品種とともにキヨ（稲刈り鎌）が入ってきたが、現在でもヘッタンカオを用いて穂摘みすることの方が多い。穂摘みした稲穂は、1ワア（把）を4把まとめてヌンフア（1頭）にして、台の上に積んでおく。畑の収穫が終わったら最後に、ヘックハイのときに白い木綿糸でまとめておいたサンカオヘックの10株の稲の穂を摘み取る。この穂は家に持ち帰って米倉か鼠が食べないような場所に懸けて保存しておき、翌年のサンヘックや普通の畑に播く種に混ぜて播く。

これらの収穫作業が終わり、家の米倉に運び込むときに、アアオカオサイニアと称する儀礼を行う。これは、家の米倉の中央に前年の粉を少し盛り上げて、「今年収穫した稲を運んできました。これから食べてもずっと減ることがないようにしてください」と、稲の魂をお願いをして、前年の粉の上に今年の粉を積み上げて行く。前年の粉が残ってなくても、前年のアアオカオサイニアのときのお願いが通じているので、そのまま運び込んでかまわない。

畑から家の米倉に運んでくるときに、稲を投げたり叩いたり、重たいから運ぶのが厭だなど、稲に対して悪口や悪行をすると、だんだん稲が獲れなくなって、その家は貧乏になって行く。これは本当の話である。

(2) Houa Pang県 Xam Tai郡 Nam Khuang村・Tai Deng族

N19° 50' 40.7" E104° 32' 35.5" H610m

2008年2月21日聞き

① 儀礼名 ブーサー・カオ・マイ・ハイ・ピーポー・ピーマー（お供えする・稲・新しい・焼畑・先祖の霊）

ブーサーハイの儀礼をする前に、去年収穫した米が足りなくなったとき、ブーサーカオマイハイピーポーピーマーと呼ぶ儀礼を行う。米が足りなくなったらカオハーン（焼米）を作って食べる。

まず、早稲種の稲の穂を摘んで、茹でて、サー（囲炉裏の上の火棚）の上で火力乾燥させる。太陽の日乾しでも良いが、サーで乾燥させた方が香りがよい。乾燥したら、精米をして蒸して食べる。食べる前に、鶏を料理してカオハーンのご飯とともに、ピーポーピーマーに食べさせて、その後に家族も食べる。早生種を作っていない人は晩稲で作る。ブーサーハイの儀礼をする前であっても、この儀式をすることで新しい米を食べることが出来るようになる。

② 儀礼名 ヘック・ブーサー・ハイ（行う・お供えする・畑）

晩稲の収穫作業を始める3日前に、ヘックブーサーハイという儀礼を行う。

先ず、家でクワン・ブーサー・ハイ（物・お供えする・畑）と呼ぶ、鶏1羽（性別、色はこだわらない）を殺して、羽根を箸で内蔵を取り除いた1把のままのもの、ラオハイ（醸造酒）1壺、ビンロースの材料を準備する。

これを畑に持っていき、ティアン・ハイ（作小屋・焼畑）に置いておく。

次に、サンヘックの中に植えてある稲のうち3株の穂を一つにまとめておく。その後、ティアンハイの周りの稲をヘップ（穂摘み具）で、9把を穂刈りする。そのうちの3把は、ハームという担ぎ方（1本の棒の中央に1把を掛けて二人の人間で担ぐ形）にして、3ハームに分ける。残り6把は、ハーブという担ぎ方（1本の両端に1把ずつ掛けて一人の人間で担ぐ形）にして、3ハーブに分ける。この3ハームと3ハーブの穂を、穂摘みをした切株の上に木の葉やバナナの葉を敷いた上に置く。その前に、料理した鶏、ご飯、ラオハイ、ビンロースの材料をお供えする。そして、ピー・チャオ・リン（精霊・主人・土）とピー・ファン（精霊・家：ピープー、ピーパオとも呼ぶ）に対して、「今まで畑を守ってくださいました。おかげさまで稲がちゃんと実りました。これから収穫を致します。お礼に、鶏、ご飯、ラオハイ、ビンロースをお供えしますので、どうぞ召し上がってください。召し上がったら3ハームと3ハーブの穂を担いで、自分の米倉にお帰りください。我々が収穫するとき、もっともっとたくさん収穫させてください」とお礼とお願いをする。この儀礼をしたら、みんなで料理を食べる。その日は収穫作業はせずに、翌日から収穫作業を行う。

畑全体の稲穂を摘み終わったら、サンヘックの前で「今全部の収穫が終わりました。このカオ・ヘック（稲・サンヘック）も収穫させてください。村の米倉まで運んでいきましょう。米が減らないようにしてください。一緒に帰りましょう」と言って、サンヘックの中のカオヘックを穂摘みして、村の米倉に運び込む。穂摘みしたカオヘックは、村の米倉の棟木に吊り下げておき、米倉の宝物にする。翌年の種籾に混ぜるといふようなことはしない。

去年のカオヘックが吊り下げであるので、去年の稲の上に今年の新しい稲を運び込むといふようなことはしない。

(3) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phao Neuan村・Tai Deng族

N20° 05' 39.4" E104° 43' 50.3" H595m

2008年2月22日聞き

① 儀礼名 カオ・ムー・スー・ピー・ファン（稲・新しい・供える・霊・家）

ブーサーハイの儀礼をする前に、去年収穫した米が足りなくなったとき、カオムー・スー・ピー・ファンと呼ぶ儀礼を行う。米が足りなくなったらカオハーン（焼米）を作って食べる。

先ず、早稲種の稲の穂を摘んで、蒸して、天日で干して、サー（囲炉裏の上の火棚）の上で火力乾燥させる。乾燥したら、精米をして蒸して食べる。家族が食べる前に、鶏を料

理してカオハーンのご飯とともに、ピーポーピーメー（家の先祖の霊）にお供えして食べさせて、その後に家族も食べる。種播きをしたときにピー チャオ リン（精霊・主人・土）とピー・ファン（精霊・家：ピープー、ピーパオとも呼ぶ）に対して、収穫がありますようしてくださいとお願いしたので、祖先の霊に先ず食べさせないと、怒って子どもたち病気にさせる。だから、この儀礼をやらないと新米を食べることはできない。ブーサーハイの儀礼をする前であっても、この儀式をすることで新しい米を食べることが出来るようになる。

② 儀礼名 ブーサー・ハイ（お供え・焼畑）

早稲が完全に実ったときにブーサーハイという儀礼をサンヘックの前で行う。

先ず、家でクワン・ブーサー（物・お供え）と呼ぶ、鶏1羽を殺して、羽根を篋内蔵を取り除いた1羽のままのもの、ラオハイ（醸造酒）1壺、紙銭、織物生地布を次のものを準備する。鶏ではなく豚をお供えする場合は、犬も必ずセットで準備する。これを畑に持って行く。

次に、畑全体の中で一番先に実っている早稲の稲の穂を、ヘップ（穂摘み具）で9把を穂摘みする。そのうちの3把は、ファットという担ぎ方（1本の棒の中央に1把を掛けて二人の人間で担ぐ形）にして、3ファットに分ける。残り6把は、ファンという担ぎ方（1本の両端に1把ずつ掛けて一人の人間で担ぐ形）にして、3ファンに分ける。この3ファットと3ファンの穂を、サンヘックの前に置く。そして、モアー（呪術師）を頼んで、料理したクワンブーサーをお供えする。そして、ピーチャオリン（精霊・主人・土）とピー・ファン（精霊・家：ピープー、ピーパオとも呼ぶ）に対して、「今まで畑を守ってくださいました。おかげさまで稲がこんなに実りました。これから収穫を致します。お礼に、鶏（あるいは豚と犬）、ラオハイを差し上げますので、どうぞ召し上がってください。召し上がったら3ハームと3ハーブの穂を担いで、紙銭、織物生地布も持って自分の米倉にお帰りください。我々が収穫するとき、もっともっとたくさん収穫させてください」とお礼とお願いをする。この儀礼をしたら、みんなで料理を食べる。

この儀礼が済んだら、早稲の稲、中稲の稲、晩稲の稲と実った順番に収穫作業を行う。中稲の稲や晩稲の稲を摘み始めるときは、儀礼は何も行わない。

畑全体の稲穂を摘み終わったら、サンヘックの稲の穂を摘んで1ファ（把）に束ねて、「今全部の収穫が終わりました。このカオヘック（稲・サンヘック）も収穫させてください。村の米倉まで運んでいきましょう。米が減らないようにしてください。一緒に帰りましょう」と言って村の米倉に運び込む。穂摘みしたカオヘックは、村の米倉の棟木に吊り下げておき、米倉の宝物にする。こうしておけば、いつまでも初めの量が減らずに、高いところまであるという。

(4) Houa Pang県 Thong郡 Leng村・Tai Deng族

N20° 24′ 58.4″ E103° 22′ 00.9″ H791m

2008年2月26日聞き

① 儀礼名 カオ・ヘック (稲・始める)

早稲の稲がまだ完全に黄色になりきっていないときに、穂を扱いて粃を穫り、蒸し器で蒸して、天日に干して乾燥させ、太陽がないときは囲炉裏の上の火棚で乾燥させ、精米して先祖に食べさせるカオヘックという儀礼をした。精米した新米を蒸し器で蒸したご飯と、白色以外の色の鶏を料理したものを、食台に乗せて先祖に供えて食べさせ、その後家族も新米のご飯を食べる。この儀礼を済ませないと稲刈りはできないし、新米を食べてはならない。この儀礼が終わったら早稲の稲だけは収穫してよいし、食べてよい。

(5) Houa Pang県 Thong郡 Tamlar Neua村・Tai Phuang族

N19° 55' 36.0" E103° 26' 42.9" H1257m

2008年2月29日聞き書

① カオハーン (焼米)

食べるお米がなくなったとき、穂がたれてきているがまだ熟してはいないという粃を、カオハーンというお米にして食べる。早稲を植えたら必ず早稲の稲で作る。穂を手で扱いて、速く乾燥させるために、そのまま壺に入れて火の上に掛けて焙る。早く食べる場合は一晩で乾燥させるが、余裕がある場合は、その後で天日に2日間干して乾燥させ、精米して蒸してご飯にして食べる。太陽が出ていない場合は、囲炉裏の上のサー(火棚)に乗せて火力で乾燥させる。

焼畑の米が穫れるまで、15日間くらいカオハーンを食べる。1回一壺で、5kgから6kgのカオハーンを作ることができ、3人家族で3日分くらいある。それがなくなったらその都度作る。家族の人数によって作る回数も量も異なる。

② 儀礼名 ブーサー (お供えする)

最初にカオハーンを作ったときに、ニャー・ファン(父方のおばあさん・家)という霊に新米を食べさせるブーサーという儀礼を行う。お寺の仏像に供える。カオハーンは、この儀礼をしなくても食べてもかまわないが、昔から、ブーサーをすると収穫した米が食べても食べても減らないという。

③ 儀礼名 ヘック・クワン・コン・カオ (始める・魂・積む・稲)

早稲でブーサーを行ったので、中稲や晩稲の稲は儀礼は何もしないで、リヤン(稲刈り鎌)で刈り始め、コン・カオ(積む・稲)に積んでおく。ヘックカオの稲は、畑の稲を本格的に刈り始めるとき、一番最初に刈り取って、一番最初に積むコンカオの中に入れる。

稲刈りが全て終わったら、脱穀作業を始める。脱穀作業の1日目の脱穀を始める前に、モー(呪術師)を頼んでヘッククワンコンカオという稲の魂を迎える儀礼を行う。

色や性に関係なく湯がいた丸のまま鶏を1羽、蒸した糯米のご飯をティップカオ(飯入れ円筒形籠)一つ、バナナの葉に包んだ塩、ラオカオ(焼酎)1本を、最初に積んだコンカオの頭頂にお供えして、稲の魂を迎える言葉を唱える。その後、脱穀作業を始める。

(6) Houa Pang県 Xam Tai郡 Pung Siang村・Khamu族

N19° 46′ 41.95″ E104° 32′ 03.9″ H642m

2008年2月20日聞き書

① 儀礼名 レッグゴツメツ

昔は、米が足りないとき、早稲種の稲をゴップウツプ（米・茹で）を作って、飯米の補給をした。ヘップ（穂摘み具）で穂を摘み籾を落として、茹でて、天日に干して乾燥させて、踏み臼で搗いて精米する。それを水に浸して柔らかくなったら、蒸してご飯にして食べる。

食べる前にレッグゴツメツと言う儀礼を行う。鶏を殺して調理して、頭と足の部分をゴップウツプとともに食台の上に乗せて、先祖に供えて食べさせる。その後、家の男主人が子供たちを集めて、鶏の肉を少しとゴップウツプを少し子どもの頭に載せて、山や何処かに離れていっている子どもの魂に帰ってきて食べてもらって、子どもの体に落ちていくようにお願いをする。

(7) Houa Pang県 Thong郡 Phueng Done村・Khamu族

N20° 06′ 13.7″ E103° 23′ 18.8″ H653m

2008年2月25日聞き書

① 儀礼名 テン・アン・ロイ・ガン・ブツ（作る・～に・霊・家・食べる）

早稲の稲が実りつつあるが十分に熟しておらず、収穫するにはまだ早いというころに、良い日を選んで1日でマツ・プラウツプ（ご飯・焼米）を作って、祖先に新米を食べさせるテン・アン・ロイ・ガン・ブツという儀礼を行う。畑の早稲の稲の穂を抜き穫ってきて、箕でさびて実の入っていない籾を飛ばして、蒸し器で蒸して、パンブラーツ（囲炉裏）の上のバンドルーツ（囲炉裏の上の火棚）で、1日間薫製して乾燥させる。それを精米して蒸してご飯にする。エツマー（円筒形のご飯入れ籠）の底にパーンハレツパヌールのところに植えたランサンピーの葉を敷いてご飯を入れ、その上にもランサンピーの葉を被せて、食卓の上に乗せて先祖に供える。「いよいよ収穫の時期になりました。今年も収穫が多くなりますようにしてください。新米を食べさせます」と言って、祖先の霊に新米を食べさせる。その後、家族で食べる。このテン アン ロイ ガン ブツの儀礼をするまでは新米を収穫して食べてはならない。

② 儀礼名 リップゴ

中稲や晩稲の刈り始めのときは、早稲でテンアンロイガンブツという儀礼を済ませているので特別な儀礼はしない。刈り取った稲は、畑の中に何か所かコン・ゴ（積む・稲）にしておく。畑の晩稲を全て刈り終わったらリップゴという儀礼を行う。一つのコンゴを選び四隅にタレーを立てる。タドッカドーという蔓を取ってきて、それを紐にして四隅のタレーを結び、コンゴを取り囲む。これは、畑の外から霊がやってきて稲を取らないようにするためである。

次に、そのコンゴの前に小さなトゥツプ（小屋）を作る。その中にプラネットやきれいな

な布、着物を入れる。

さらに、トゥップハレツ（作小屋・焼畑）とは別に、チャオ・ゴ（小屋・稲）という脱穀した粃を収納するための米倉を建てる。そのチャオゴの入り口や壁を、ラングロンやチャルゲツ、チャルワンの花で飾り、タレーを取り付ける。また、カラスーンチョ（節々に削り掛けを施した1本の竹）をチャオ・ゴの四隅に立てる。

次に、チャオゴの中に竹のマットを敷き、家の女主人がきれいに着飾ってマ・ゴ（母・稲）となり、パーンハレツパヌールのところからチャルゲツ、チャルワンの花を取ってきて、少しのご飯とともにコンゴの頂点に供えながら、「収穫がたくさんありますように」とお願いをする。

それが終わったら、男主人は白以外の色の生きた鶏の口を割いて、マゴがお供えをしたコンゴの頂点に生血を塗り付ける。チャオゴの中に敷いた竹のマットの四隅にも生血を塗る。また、霊や他家の人が入ってこないように、畑の道の出入り口にタレーを立てて、それに鶏の羽根を挿して、これにも鶏の生血を塗る。それが終わったら、男主人は鶏を料理をする。

それが済んだら、マゴがコンゴから稲1束を取ってきて、チャオゴの中に敷いた竹のマットの中央に置いて、プラノン（稲叩き棒）で粃を叩き落とし、その藁でプラネットを包んで竹マットの中心に置く。残りの藁をコンゴの四隅のタレーのところに掛ける。さらに、2束、3束、4束を取ってきては脱穀して終わる。粃を盗みにやってきた霊たちも、タレーに掛けられた藁を見て「ああ、人間はもう脱穀作業を終わったのだ」と思って帰っていく。

そして、最初に稲を脱穀したコンゴとトゥップの前に、料理した鶏の頭、足、内臓とご飯を少しずつ供える。その後、マゴと男主人が2人で食べる。それが終わったら、畑の道の出入り口に立てたタレーを倒して、他家の加勢人を畑の中に招き入れて、鶏の料理やご飯を一緒に食べる。お供えした鶏の頭、足、内臓は、チャオゴの中に敷いた竹のマットの中央にお供えする。

食べ終わったら全員で脱穀作業に取りかかる。最後に粃を運び込んだら、マゴがチャオゴの入り口に取り付けてあるタレーに、パチェツ（肩掛けの布）とパーンハレツパヌールのところのランサンピーの葉掛けて家に帰る。

その後、3日目にパチェツ（肩掛けの布）やランサンピーの葉にご飯を供えに行く。さらに、一週間後と10日後にも同じことを行う。10日目にはパチェツを持って家に帰ってくる。

パーンハレツパヌールのときに植えたチキヤルは、米倉の内壁に掛けておき、翌年のパーンハレツパヌールのときに引き続いて植える。また、パーンハレツパヌールのときに播いた稲は、いつでも一緒に混ぜて収穫をする。

(8) Luang Prabang県 Kham郡 Samtom村・Khamu族

N20° 26′ 27.8″ E102° 56′ 51.9″ H830m

2008年3月5日聞き書

① 儀礼名 マツ・マ・プラウップ（食べる・ご飯・未熟米の新しい米）

早稲が実る前にマツマプラウップという儀礼を行う。稲の穂から粃を手で扱き穫ってきて、蒸し器で蒸して、天日に干して乾燥させる。太陽の日射しがないときは、囲炉裏の上の火棚に乗せて火力で乾燥させる。冷ました後、踏み臼で搗いて精米し、再び蒸してご飯にする。

その後、野鳥、魚、栗鼠、虫、土竜、鼠などの野生動物を調理して、プラウップと一緒にローイ・ガーン（霊・家）やヨンマー（先祖）がいる家の中の寝床の頭の方にお供えする。野生動物を用いるのは、お金がかからないからである。お供えした後、家族や親類、近所の人を呼んで、皆でプラウップ食べる。

米の足りない家は、マツマプラウップを早めて行う。また、家の男主人は、自分の家のマツマ プラウップを行わないうちは、他の家のプラウップを食べてはならない。マツマ プラウップが終わったら、中稲も晩稲もプラウップにして食べて良い。

② 儀礼名 カイハレッツ

晩稲を初めて畑のトゥップ（畑の米倉）に入れる（実質的な晩稲の収穫はじめ）ときに、カイハレッツという儀礼を行う。

畑に行く前、まだ暗い朝の5時ころに、家の米倉の入り口を開いて、「これから収穫に行きます。今日は、〇〇個のヤン（粃を担ぐ大型の背負い籠）ほどたくさん収穫がありますように。そんなにたくさん収穫があったら、豚を殺して食べさせます」と唱える。朝7時ころ生きたままの鶏か豚を持って畑に行く。

先ず、チョーイ（ラオ語名称マイソツ）やプラハーン（ラオ語名称マイサン）という竹を伐り、上の節に向けて下側から、下の節に向けて上側から削り掛けを施し柱とし、家の女主人がマゴツ（母・稲）となって、バーツハレッツのときに生血を注いで播いた晩稲の穂を7本取って、タレオに結びつけて竹の柱の頭に取り付ける。さらに、バーツハレッツのときに播いたドクマイの花を竹の柱の頭と中間部分に取り付けて、トゥップの四隅の柱に取り付けて立てる。

次に、トゥップ（畑の米倉）の中の真ん中にタレーを作って置く。そして、豚か鶏を殺してその生血をタレーに塗って、稲の魂を迎える。さらに、稲の魂のために、調理した豚か鶏の肉をタレーの前にお供えする。また、ローイ・モック（霊・山）、ローイ・ブリツ（霊・森）のために、調理した豚か鶏の肉をバーツハレッツのときにドクマイを播いたところにお供えする。

その日は、マゴツがベン（扱いた粃を入れる腹に付ける小籠）3つくらいの粃を扱いて、トゥップの中に運び込んで家に帰る。家に帰ってきて、先ず、ローイ・ガーン（霊・家）にカドンブーイ（ラオ語名称ラオハイ：粃の発酵酒）を供える。蠟燭に火を灯して「これから収穫をしますので、たくさん稲が穫れるようにしてください。ローイ・モックにもローイ・ブリツにもお供えしました」と唱える。その後、皆でカドンブーイを飲む。

この日を含めて以後3日間は、夜の夫婦の交わりは厳しく禁止される。その禁を破ると、

稲の魂が逃げてしまって、稲がたくさん穫れなくなる。1970年まではその期間が7日間であったが、1980年になって3日間になった。

4日目に畑に行くと、家の女主人がマゴツになるために、トウuppの下で今年の中稲の新米を食べる。その後、家族や加勢人の他家の人々を招いて皆で食べる。このとき、妊娠した女性は一人の姿なのに頭が二つあるので、畑に入ると稲の魂が怖がってトウuppにこないという。

収穫の最後に、ゴツ・ハンドローツ（米・黒い）を収穫してトウuppに入れる。ゴツハンドローツを先に収穫すると、稲がたくさん穫れなくなるので最後に収穫する。ゴツハンドローツを収穫したら、他の家の稲の収穫の手伝いに行ってはならない。ゴツハンドローツを収穫した手で他の家の稲を触ると、相手の家の稲の収穫量が減ってしまうからである。

収穫作業は、一つの畑につき20人～30人で作業する。お互いの家の収穫を手伝う。時間がなくお金のある場合は一日一人10,000kipで雇うこともある。

(9) Houa Pang県 Thong郡 Houayd Teun村・Yao族

N20° 16' 38.3" E103° 22' 13.7" H113m

2008年3月2日聞き書

儀礼名 パイ・ブイ（小さくなる、縮小する・米）

お米が足りなくなったときは、籾にはなったがまだ収穫できない若い籾をジップ（穂摘み具）摘んできて籾を落として、そのまま精米したら中の米粒がぐちゃぐちゃになるので、籾の中の米粒を固めるために、3日～4日間天日に干す。また、太陽が出ていなかったら囲炉裏の上の火棚に乗せたり、鍋で炒ったりして乾燥させる。乾燥させたら、蒸し器で蒸して、臼で搗いて糠を飛ばして精米し、再び蒸してご飯にする。

最初に、家神に鶏の料理とパイ・ブイを供えて食べさせる。その後、家族が食べる。先祖に食べさせる前に、人間がパイ・ブイを食べると唇が曲がったり、病気になる。

特に儀礼はしないで収穫を始める。今は、キヨ（稲刈り鎌）で刈り取り、まとめて束にし他ものを手で握り、マイホ（叩き板）や4本足のついたペン・ボツ・ビヤオン（竹編みマット・叩き付け・籾）に叩き付けて脱穀し、それでも落ちない籾は、木の棒で叩き落とす。しかし、10数年前までは畑の稲は全部ジップで穂摘みをしていた。ジップで摘んだらそのまま家に持って帰り、囲炉裏の上に乗せておき、食べる分ずつ足で脱穀していた。ただ、現在でもパイ・ブイと呼ぶ焼米を作るときだけはジップ（穂摘み具）を使う。

(10) Luang Prabang県 Kham郡 Ombring村・Mhong族

N20° 24' 24.6" E102° 59' 24.3" H940m

2008年3月4日聞き書

儀礼名 ライ・ダ（供える・霊）

カオハン（焼米）は作らない。稲の収穫始めに際して特に儀礼は行わない。

しかし、ライダと言って、稲刈り始めのときでも収穫後でも時期はいつでも良いが、鶏を

殺し料理して、新米のご飯とをスーカー（家神）に供えて食べさせる。その家の男主人は、スーカーを祀る役なので、このライダが終わらないと新米を食べてはならない。その他の家族は、ライダをする前であっても新米を食べて構わない。

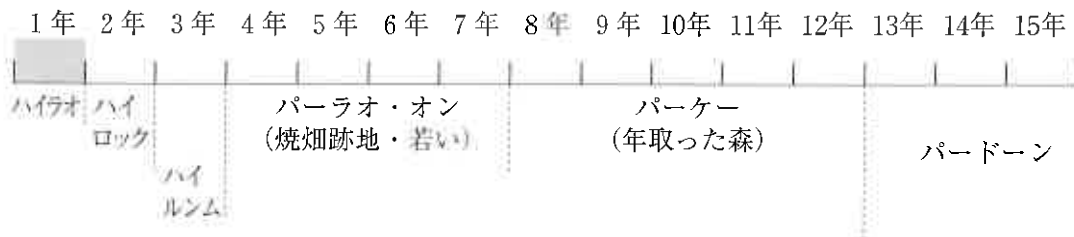
13 焼畑その後—再生過程の森への眼差し

(1) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phat Tai村・Tai Deng族

N19° 58' 15" E104° 40' 36.1" H307m

2008年2月17日聞き

① 休閑地の呼称と利用



ア、ハイ・ラオ（焼畑・伐る）

1年目の呼称で、伐ったばかりの畑の意味である。

イ、ハイ・ロック（焼畑・簡単に掃除する）

2年目の呼称で、ほとんどの年まで稲を栽培する。

ウ、ハイ・ルンム

3年目の呼称で、土地がよい場合にたまにこの年まで稲を栽培する。

エ、パーラオ・オン（焼畑跡地・若い）

4年目～7年目の跡地で、再生過程の若い森の意味である。ハイ・ロックまで耕作したらこの期間跡地を休ませる。

オ、パーケー（年取った森）

8年目～12年目の跡地で、年を取った森という意味で、再びハイに伐ることが出来るように再生した森の意味である。しかし、ハイ・ルンムまで耕作したら、この期間も跡地を休ませる。

カ、パードーン

山の木の太さが大きくなった森を意味する。13年越えても木の幹が大きい森はパードーンと呼ばない。この森はあまり焼畑にはしない。モン族は、木の幹が大きいほど好んで焼畑にする。彼らは、5年間連続して耕作し続けるので、6年目には萱が出てきて木の森に再生しなくなる。

② 若い竹と年取った竹の諺

ヤム	ヌーン	キン	カップ	カオ
時	若い	食べる	一緒	ご飯

ギム タオ ペン ソア ホン ノーン
 年取った ~になる 布団 敷く 寝る

(2) Houa Pang県 Xam Tai郡 Tao村・Tai Deng族

N19° 53' 40.6" E104° 44' 28.4" H295m

2008年2月18日聞き書

① 休閑地の呼称と利用



ア、ハイ・ラオ（焼畑・伐る）

1年目の呼称で、伐ったばかりの畑の意味である。

イ、ハイ・ロック（焼畑・簡単に掃除する）

2年目の呼称で、ほとんどこの年まで稲を栽培する。

ウ、ハイ・ルンム

3年目の呼称である。

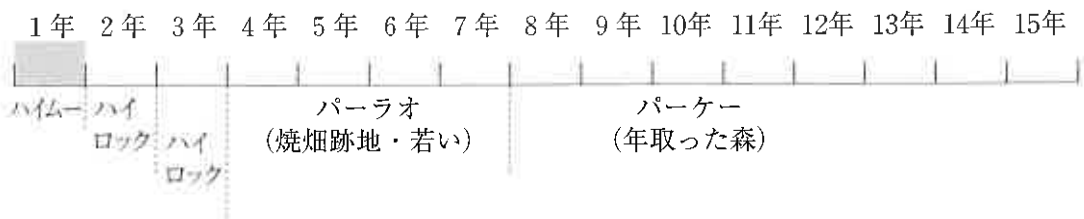
1975年から保護林が設定されたが、1980年ころまでは15年間くらい休閑させていた。しかし、焼畑地が少なくなり、年取った森（パーケー）を焼畑にすることが出来なくなり、休閑期間が短くなり森が再生していない若い森を伐るようになった。現在では、村の近くの場所を2年耕作して3年休ませて、6年目には再び焼畑にしているので、稲の収穫量が少なくなっている。

(3) Houa Pang県 Xam Tai郡 Nam Khuang村・Tai Deng族

N19° 50' 40.7" E104° 32' 35.5" H610m

2008年2月21日聞き書

① 休閑地の呼称と利用



ア、ハイ・ムー（焼畑・新しい）

1年目の呼称で、伐ったばかりの畑の意味である。

イ、ハイ・ロック（焼畑・簡単に掃除する）

2年目・3年目の呼称で、ほとんどこの年まで稲を栽培する。

ウ、パーラオ（焼畑跡地・若い）

4年目～7年目の跡地で、再生過程の若い森の意味である。ハイ・ロックまで耕作し

たらこの期間跡地を休ませる。

エ、パーケー（年取った森）

8年目～12年目の跡地で、年を取った森という意味で、再びハイに伐ることが出来るように再生した森の意味である。

② 若い竹と年取った竹の諺

ニヤンム	オン	ベン	コン	カップ	カオ
時	若い	～になる	もの	一緒	ご飯

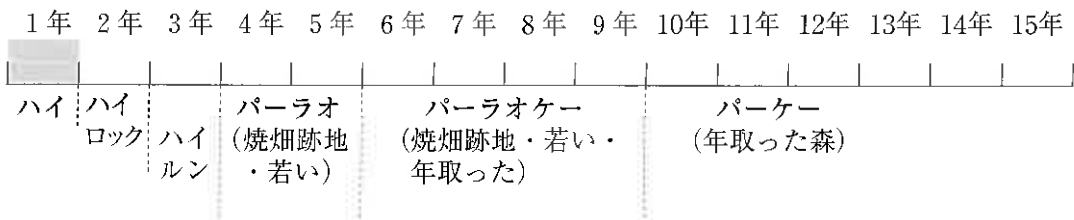
ニヤンム	タオ	マレオ	ベン	ツア	トン	ノン
時	年取った	～してきたとき	～になる	布団	敷く	寝る

(4) Houa Pang県 Xam Tai郡 Phao Neuan村・Tai Deng族

N20° 05' 39.4" E104° 43' 50.3" H595m

2008年2月22日聞き

① 休閑地の呼称と利用



ア、ハイ（焼畑）

1年目の呼称で、焼畑の意味である。

イ、ハイ・ロック（焼畑・簡単に掃除する）

2年目の呼称で、除草作業をしてから種播きをする。

ウ、ハイルン

3年目の呼称で、ほとんどこの年まで稲を栽培する。

エ、パーラオ（焼畑跡地・若い）

4年目～5年目の跡地で、再生過程の若い森の意味である。

オ、パーラオケー（焼畑跡地・若い・年取った）

6年目～9年目の跡地で、パーラオとパーケーの中間的な期間である。

カ、パーケー

10年目以降の跡地で、年を取った森という意味で、再びハイに伐ることが出来るように再生した森の意味である。

② 若い竹と年取った竹の諺

ニヤム	ノイ	ベン	ニヤ	カップ	カオ
時	小さい	～になる	餌	一緒	ご飯

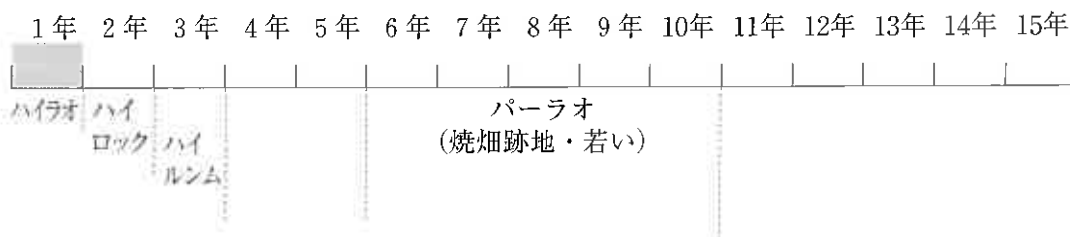
タオ	マテー	ベン	タッド	ホン	ノン
年取った	～してきたとき		板材	敷く	寝る

(5) Houa Pang県 Thong郡 Leng村・Tai Deng族

N20° 24' 58.4" E103° 22' 00.9" H791m

2008年2月26日聞き

休閑地の呼称と利用



ア、ハイラオ (焼畑・若い)

1年目の呼称で、焼畑の意味である。

イ、ハイ・ロック (焼畑・簡単に掃除する)

2年目の呼称で、除草作業をしてから種播きをする。

ウ、ハイルンム

3年目の呼称で、ほとんどこの年まで稲を栽培する。

エ、パーラオ (焼畑跡地・若い)

森の深さに関係なく、一度でも焼畑にした森のことを言う。また、6年目～10年目の跡地で、再生過程の森のこともパーラオと呼ぶ。

オ、パーケー

一度も焼畑に伐り拓いたことのない森の意味である。

(6) Luang Prabang県 Kham郡 Ombring村・Mhong族

N20° 24' 24.6" E102° 59' 24.3" H940m

2008年3月4日聞き

休閑地の呼称と利用



ア、テイ・チャー

1年目の呼称で、焼畑の意味である。1年間しか作らない。

イ、クー・テイ (跡地・焼畑)

2年目以降の焼畑跡地の呼称で、6年間おいて木の直径が10センチくらいの大きさになったところに再び焼畑に伐る。

1995年から再利用畑と言って、政府から1家族に5ヶ所の土地を与えられ、それを毎年回している。土地の良いところは2年目まで作る。今のところそれでも木が大きくなって森が再生するので大丈夫である。

(7) Luang Prabang県 Kham郡 Samtom村・Khamu族

N20° 26′ 27.8″ E102° 56′ 51.9″ H830m

2008年3月5日聞き書

休閑地の呼称と利用

1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年
ハレット ブリッ	ハレット トウ	ハレット テー	ケレーカニョン (若い森)			ハレーン (普通の森)								

ア、ハレット・ブリッ

1年目の呼称で、森の焼畑の意味である。基本的にはこの1年間しか作らない。

イ、ハレット・トウ

2年目の焼畑跡地の呼称で、この期間も稲を作ることができるが、ハレット・ブリッに比べて25%減収になる。

ウ、ハレット・テー

3年目の焼畑跡地の呼称で、この期間も稲を作ることができる。

エ、ケレーカニョン

3年目から6年目の焼畑跡地の呼称で、若い森の意味で再生期間の森である。

オ、ハレーン

7年目以降の焼畑跡地で、再び焼畑にできる再生した森の意味である。

14 稲作神話の諸相

(1) Houa Pang県 Thong郡 Tamlar Neua村・Tai Phuang族

N19° 55′ 36.0″ E103° 26′ 42.9″ H1257m

2008年2月29日聞き書

巨大米と逃避し魚から復活する稲種と稲作の起源

昔の話ですが、稲の粒は直径が9握り拳の大きさであった。日に干すことも精米する必要もない稲であった。それで、刀で切って蒸したり、炊いたりして食べていた。

あるとき、夫を亡くした一人のメーマイ（寡婦）のカラキニーさんが、自分の米倉を造り終わらないうちに、直径が9握り拳の大きさの朶が川の上流から流れてきた。カラキニーさんは、小さく叩き割ろうとして叩いたところ、小さくなっていろんなところに飛んで逃げていった。それで、10万年の間人間は米がなくなり、食べることができなくなった。

それから10万年後、サミーさんという女性が魚獲りに川に行った。クワンカオ（小さな粒になって飛んで逃げたの稲の魂）は、パーコーという雄の魚の口の中にあった。サミーさんは、パーナイという雌の魚を捕まえた。すると、パーコーが出てきてサミーさんに向かって「パーナイは自分の恋人であるから返して欲しい。返してくれたら代わり」にクワンカオを上

げましょう」と言ったので、サミーさんは、パーナイとクワンカオを交換して、それを持ち帰って種として、森を拓いて畑にして稲作を始めた。このときから稲作が始まった。その種の名称は分からない。

(2) Houa Pang県 Thong郡 Naa Kut村・Tai Phuang族

N19° 57' 53.2" E103° 27' 56.7" H1369m

2008年3月1日聞き書

飛来する米と逃避し蛙によって復活する稲種と稲作の起源

昔は、稲作りをしなくとも、米倉の掃除をきれいにしておく、米は森からひとりでに流れてきて、米倉がいっぱいになるものであった。

あるとき、一人のメーマイ（寡婦）が米倉の掃除を済ませないうちに、上流からマクトーン（冬瓜）の大きさの米が流れてきた。メーマイは怒ってその米を叩いた。米は小さく砕けて四方八方に逃げてしまった。

そこで、人間が食べる米がないので、蛙の王様が米の魂を守る女性の神様であるナンコーソックに、「人間に稲をください」と頼んだができないと断られた。さらに、蛙の王様が「穂の長さは私の一尋の長さでいいですから人間に稲をください」と頼んだところ、ナンコーソックは稲をくれた。人間は、それをもとにして稲作を始めた。だから、稲の穂は今でも蛙の一尋の長さなのである。

(3) Houa Pang県 Xam Tai郡 Pung Siang村・Khamu族

N19° 46' 41.95" E104° 32' 03.9" H642m

2008年2月20日聞き書

野鳥の死体から生まれた種籾と収穫作業の起源と妊婦の忌避

昔、両親のいない男の子がいた。たまたま、野鳥の猟に森に行ったとき、トンプルルーという野鳥を射殺した。家に持って帰ってきて解体したところ胃袋にいっぱい籾が入っていた。男の子は、その籾を大切に保管した。

翌年、森を伐り拓いて焼いて自分の小さな畑を作った。その畑にあった白蟻の巣の周りに、トンプルルーの胃袋から出てきた籾を種籾として播いた。

秋になり良い稲が実ったので、自分で収穫作業をした。畑の面積は狭いのに、いくら穂を扱って収穫しても、扱いた後の穂にまた籾が実って、米倉二つ収穫してもまだ終わらなかった。

それで、妊娠している二人の女性が収穫の手伝いにやってきた。彼女たちは、チャカチャムという酸っぱい葉っぱに塩を付けて食べながら収穫作業をしていた。それでも、いくら穂を扱って収穫しても終わらなかった。籾は、白蟻の巣から出てきて、扱いた後の穂に飛んできてくっついていたのであった。それを見て、二人の女性はチャカチャムの葉っぱで白蟻の巣の穴を塞いだ。そのときから籾は穂に飛んでこなくなった。

だから、妊婦は、稲作儀礼には参加させない。収穫作業も人の後からしか扱かせない。また、籾を家の米倉に運ぶときは、稲の魂が寄ってくるときなので、妊婦は参加させない。

(4) Houa Pang県 Thong郡 Phueng Done村・Khamu族

N20° 06′ 13.7″ E103° 23′ 18.8″ H653m

2008年2月25日聞書

① 稲穂から飛来する朶と収穫作業の起源

昔は、畑に作った稲が実る時期になったら、米倉をきれいに掃除しておく、収穫作業はしなくても稲はひとりで畑の稲の穂から飛んでくるものであった。

ある年、一人のメーマン（妊婦）が米倉の入り口に座って、ラーカチャンというすっぱみのある木の葉を食べていたところに稲が飛んできた。メーマンは、その朶が目に入りそうになったので、ラーカチャンの葉で叩いた。稲は怒って畑の稲穂に逃げ帰ってしまった。それ以降、人間は稲の収穫作業をしなければならなくなった。

② 野鳥の死体から生まれた種朶

昔、貧乏な男の子のコンロック（両親のいない子ども）がいた。ある日、山に猟に行ったところ、たまたまトウンプルーという野鳥を撃ち取った。家に持って帰って解体したら、胃袋の中に稲の種を見つけた。

コンロックは、その年に焼畑を狭い面積拓いて、畑の中の白蟻の巣の周りにその種を播いた。その稲は成長が良くきれいに実って、米倉に朶がどどんひとりで飛んできて、米倉がいっぱいになった。ところが、妊娠している女性が米倉に来て、ラーカチャンという葉を食べていた手で稲を叩いたので、飛んでこなくなった。

それからコンロックはだんだん豊かになっていった。村人もその種をもらって栽培するようになった。この稲の種は、コンロックの奥さんがもらいに来て種にしたので、Hngo Mok（稲・妹）と名付けられた。

(5) Luang Prabang県 Kham郡 Samtom村・Khamu族

N20° 26′ 27.8″ E102° 56′ 51.9″ H830m

2008年3月5日聞書

洪水兄妹始祖神話と野鳥の死体から生まれた稲種

昔々、世界中が洪水になり海だらけになった。そのとき、全ての人間が死んでしまった。しかし、神が、兄妹にだけには「高い山に入ってください」と言ったので、そのとおりにして世界中で兄妹だけが生き残った。

二人は、米もなかったので、芋とかを食べて生きていた。家を造って一緒に生活していた。大人になって結婚する年になったが、兄妹だから結婚できないでいた。すると、ある日、尻尾の長い黒い鳥が家のところに飛んできて、「兄妹であっても抱き合っても何をしても良いのよ」と鳴いていた。しかし、一緒に住んでいても子どもはできなかった。

あるとき、ノックカウという見たこともない鳥が、いつまでもいつまでも、何日間も鳴いていた。兄は、やかましいと思ってモ（弩）で撃ち取った。それを解体してみたら、見たこともない種が出てきた。それは、一種類一粒ずつ百種類も千種類もあった。

そこで、どんな種類か知りたくて、天日に干してから播いてみた。最初の年は、本当にき

れいな稲が育って10kgの収穫があった。その稲はまだ食べずに、次の年も畑に播いたところ、10束以上の稲が穫れた。食べるために、踏み臼で搗いて精米して、最初は水と一緒にに入れて食べたら美味しかったので、たくさん食べた。また、別に蒸して食べるともっと美味しかったので蒸して食べた。その後、稲作りをするようになった。

やがて、妹は子どもを孕んだ。しかし、生まれたのは瓢箪であった。子どもだとは思わず瓢箪だと思って、気にせず家にそのままにしておいた。ある日、畑の仕事から家に帰ってみると、妹はまだ畑に行っているのに、ご飯の準備や家畜の餌もすべて準備がされていた。兄は、不思議だと思って屋根の上の方に隠れて覗いていた。そうすると、妹が生んだ瓢箪の穴から子どもが何人も出てきた。瓢箪の中では小さいのに、出てくると大きくなって、ご飯や家畜の餌などの準備をしていてくれた。兄は、それを見て瓢箪を潰した。そのとき出てきた子どもたちが、人類の元になった。

(6) Houa Pang県 Thong郡 Houayd Teun村・Yao族

N20° 16' 38.3" E103° 22' 13.7" H1136m

2008年3月2日聞き書

飛来する巨大米と逃亡する稲と鼠（野鳥）が盗み復活する稲種と稲作の起源

昔々、籾粒は親指ほどの大きさであった。人間が稲作りをしなくても、米倉を作って準備をして稲を呼びに行くと、稲はひとりで米倉に入ってくるものであった。

ある夫婦がいた。男主人が稲を呼びにゆき、奥さんは米倉を掃除することになった。ところが、奥さんは米倉を掃除せずに不倫をしていた。男主人が稲を呼んでから米倉の掃除を始めた。だから、稲がやってきたのに間に合わなかった。しかし、稲が入ってくるので奥さんは叩いた。叩かれた米は怒って逃げた。遠い遠い海の向こうに逃げた。だから、どんな動物も取りに行けなかった。

ところが、ナオ・ビョウ（鼠・稲）という小さい鼠だけはそこに取りに行けるといので、頼んで取りに行ってもらった。ナオビョウは、小さな木の葉に乗って取りに行ったが、稲は帰らないと言った。そこで、ナオビョウは籾の隅っこを少しだけ齧って帰ってきた。人間はその米を種にして稲作を始めた。だから、今のようにこんなに小さい籾になった。ナオビョウは、自分が持って帰ってきたので米を食べているけれど、全部を食べずに人間が食べる分は残しておく。

※ナオビョウの代わりにノックマイチャアという野鳥が、海の向こうまで飛んで取りに行ったという話もある。

(参考)

兄妹始祖神話

昔々、世界が洪水になって、両親が亡くなってしまった。兄と妹も別れ別れになってしまった。兄は杖を持って妹を捜していた。亀の背中に杖が当たって割れてしまった。兄が亀に「この辺に人がいるか」と尋ねたところ「いない」と言ったので、次のところに探しに行った。

一方、妹は洪水に流されて木の上において下りられないでいた。そこで、虹に頼んで下ろしてもらった。虹に「何をお返ししてくれるのか」と言われたので、持っていた鶏を虹にくれてやった。そうしながら、二人は探し合って再会を果たした。

兄と妹は、それぞれ別々に火を焚いていたところ、その煙が虹のように天に架かって結ばれた。蔓を植えても虹のように天に架かって結ばれた。そうして二人は結婚した。

それで、妹の性器をバイマップクという木の葉で隠して見ないようにした。やがて、子供が生まれたが、マクトーン（冬瓜）の姿で生まれてきた。人間の子どもではなかったので割ってみた。

種は下の方に捨てたのでラオルン（低地ラオ）、になった。種はいっぱい入っていたので今でもラオルンは数が多い。皮と肉はラオトン（中間ラオ）になった。蒂のところはラオスン（高地ラオ）のヤオ族になった。だから、ヤオ族は今でも数が少ない。

犬祖神話

昔、先祖が中国人に全て殺された。しかし、そのとき一人の赤ちゃんだけが助かり残った。この赤ちゃんは、雌の犬がお乳を与えて育ててくれた。だから、犬はヤオ族の母であるので、食べてはならない。食べると歯が全て抜け落ちてしまう。

(7) Luang Prabang県 Kham郡 Ombring村・Mhong族

N20° 24' 24.6" E102° 59' 24.3" H940m

2008年3月4日聞き書

竹の子の稈から復活する稲種

村長のサイフートー（ラオ名ブンミー）さんは、1981年に森の中で焼畑地を伐採していたときに、背丈50cmくらいの竹の子の節の間だから13粒の稲の種を見つけた。

それを種にして播いてみたところ、普通の種類の赤い糯の稲であった。その米は、3年間は鼠や野鳥に食べられなかった。その後、村長が村人に分け与えて10年間作ったが、収量があまりなかったので作るのを止めた。

この稲は、霊が食べるために竹の子の中に隠していたものであるという。

15 鶏頭の花と稲の関係を説く伝承

(1) Houa Pang県 Xam Tai郡 Pung Siang村・Khamu族

N19° 46' 41.95" E104° 32' 03.9" H642m

2008年2月20日聞き書

ラングロン（鶏頭の花）は、きれいに咲いて稲の魂が喜んで集まってくるので、稲の収穫が増えるという。だから、儀礼的な種播きをするマツトハレットの時に、稲の種とともにマツトハレットの中に播く。

(2) Luang Prabang県 Kham郡 Samtom村・Khamu族

N20° 26' 27.8" E102° 56' 51.9" H830m

2008年3月5日聞き書

カム暦6月上旬に中稲と晩稲を播くときに、バーツ・ハレツ（注ぐ・焼畑）あるいはパツホ・サムラー（供える・稲の種子）という種播き始めの儀礼を行う。儀礼を行う場所は、トゥップ（作小屋）の上側で行う。

まず、霊が畑にやってきて稲に悪さをしないように稲を守ってくれるチャラツコーイ（鬱金）を植える。

さらに、その周りにラングロン シンチル イヤル（花・鶏冠・鶏）と呼ぶ鶏頭の花をはじめとして、ランバンジャン、ランサンピー、チンキヤルカマン、ランルンという花の種を播く。これらの花は、稲の魂へのお供え物で、その種は毎年の種播き始めの儀礼で植えたものを引き継いできているものである。ガルイ（カム暦の12月満月：新しい年を迎える日）には、この花と稲の種とを畑から持ってきて、長い棒の先に取り付けて家の中央に立てて、その周りに芋類や南瓜など畑で取れたものを置いて、先祖にお供えをする。

IV 若干の考察

1 竹の焼畑—木の森より竹の森を優先する焼畑—

(1) 焼畑における竹と水分

これまで筆者がラオス北部で収集した事例をとおして、この地域のさまざまな民族が、焼畑の適地として竹の森あるいは竹と木との混交した森を対象にしていることが明確になってきている。^{*1}

今回の事例でも、事例Ⅲ-1-(1)のフアバン県サムタイ郡パットタイ村のタイデン族は、「竹と木が混じっている森がハイ（焼畑）に適している」と言い、その理由として「竹の作る日陰や竹の根の水分のおかげで、後から木が再生してくるので、木だけの森よりも再生が速い」ということをあげ、竹の根の持つ保水力と森の再生のスピードの関係を高く評価している。

こうした評価は、事例Ⅲ-1-(2), (4), (5), (6)などのタイ族系の民族、Ⅲ-1-(7), (8)などのカム族でも同様に認められる。

ただ、少数ではあるがⅢ-1-(1)のタイデン族のように「竹だけの森は、根が多いので燃やした後その部分が空洞になって、稲の根が伸びずに枯れやすい」と言って、竹だけの森を忌避する例もみられる。

さらに、焼畑民は単に竹であればよいというのではなく、竹にも適する順位を付けているのである。たとえば、事例Ⅲ-2-(5)のタイデン族は、一番適している竹としてマイホックという竹をあげて、その理由として「伐り株の直径が10センチくらいあり、焼いても死なないので水分をいつまでも保っているから稲に良い」とする。二番目はマイヒヤという竹をあげ、「伐り株が小さく燃えやすく、肥料になる灰の量が多い。しかし、マイホックの混じった森に比較して稲の収穫量が少ない」とする。さらに、三番目としてマイチャーという竹をあげ、「竹の直径が小さく、地下茎で伸びて広がっている竹で燃えやすい。しかし、マイヒヤよりも水分が少ない」という理由をあげる。ここでも、竹の選択基準は保水力であり、良く燃え

て肥料となる灰が多く出るかどうかということである。特に保水力に関しては、Ⅲ-2-(2)のタイデン族は、マイライという竹が混じると「20日から25日雨が降らなくても稲は枯れることがなく大丈夫である」と言い、「マイハーンだけの森は10日から15日ばかりも日照りが続くと、稲が枯れる」というように、それぞれの竹の属性を細かく認識して選択しているのである。

つまり、焼畑による陸稲栽培にとっては、その成長と収穫にとって竹をとおしてもたらされる土に含まれる水（雨も含めて）が極めて重要視されていることが分かる。

そうした一方で、Ⅲ-1-(11)のモン族のように「マイソツという竹の森は、土が乾燥しているので、稲を植えてもあまり実らない」というように、特定の種類の竹に対しては否定的な評価を下している例も認められないわけではないが、極めて例外的であると言っておく。

(2) 焼畑における竹と燃焼力

このような水分の多さの他に「よく燃える」という属性も大きな評価基準となっている。例えば、事例Ⅲ-2-(4)のタイデン族は、焼畑に一番適しているマイホック、マイヒヤ、マイクワン、マイコンなどの竹をあげ、「燃やしたときに火が多く出てよく燃えて、肥料が多く出るから焼畑によい」という。また、事例Ⅲ-2-(5)のタイデン族も、二番目に適するマイヒヤは「伐り株が小さく燃えやすく、肥料になる灰の量が多い」、三番目にあげるマイチャーは「竹の直径が小さく、地下茎で伸びて広がっている竹で燃えやすい」というように、「よく燃える」ということと、それによって肥料となるべき灰が多く出ることが評価の基準とされていることが分かる。

また、2004年12月に聞き書きしたラオ族が住むボンサリー県クア郡バクバーン村では、「この辺りでは、森の竹と木との混ざり具合の比率は、マイヒヤが1/3、木とその他の竹が2/3程度が好まれる。竹を下に敷くと木もよく燃える」と言い、焼畑における竹の燃焼力の強さを評価しているのである。^{*2}

(3) 焼畑における竹と作物

さらに、Ⅲ-1-(5)のタイデン族が、「竹の（燃えた）ところに茄子や唐辛子を植えることができる」というように、竹の焼畑と作物の関連性を認め、評価の基準にしていることも分かる。例えば、2005年1月に聞き書きしたルアンパバーン県・ナムバーク郡ホイジン村に住むカム族は、「プリー・プライ・ブリア・ゴ（森・竹の名・よい・稲）、プリー・タネック・ブリア・ゴ（森・竹の名・よい・唐辛子）、プリー・ラハーン・ブリア・ヤ（森・竹の名・よい・煙草）」と語る。また、2005年10月に聞き書きしたカム族が住むルアンナムター県・ゴイ郡ハッカーム村や同郡ドーン村でも「ブルアン・ブリッ・タネック・ルッ・ヤー（伐採する・森・竹の名・良くできる・煙草）、ブルアン・ブリッ・タラー・ブリア・ピッ（伐採する・森・竹の名・良くできる・唐辛子）」というように、煙草の栽培にはタネックという竹が、唐辛子の栽培にはタラーという竹が適していると語っている。こうした作物と竹の関連を語るのはカム族の特徴であり、竹細工に関して特別に精巧な技術を有するカム族の竹に対する

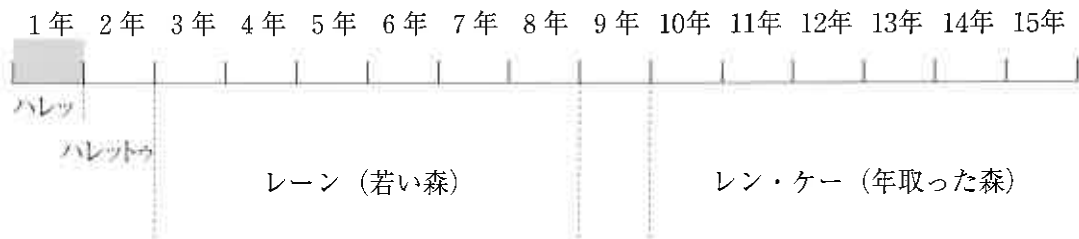
細やかな眼差しがみて取れる。

(4) 焼畑跡地の再生と竹

焼畑民が焼畑適地として竹の存在を高く評価する基準には、さらに別な観点が含まれる。それは、焼畑跡地の再生と深く関わる問題である。それは、焼畑に利用した土地が再び焼畑地として利用可能になる期間としてどれくらいかかるかをみてみることによって理解されてくる。

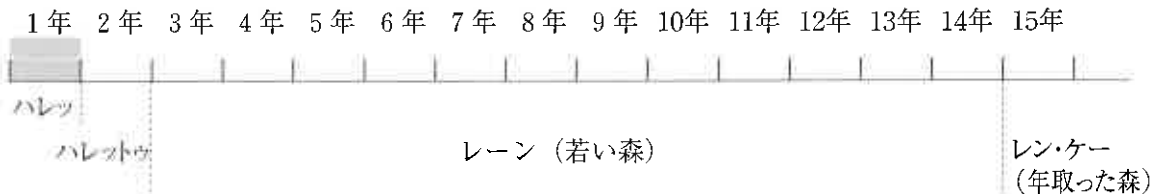
例えば、2005年1月に聞き書きしたカム族が住むウドムサイ県ガ郡ホイリアン村では、「竹混じりの森」と「木だけの森」との違いについて次のように認識している。

まず、竹混じりの森については次のように説明する。



「ハレツ」とは作物を栽培している焼畑地のことである。「ハレツトウ」は2年目の跡地の呼称である。さらに、「レーン (若い森)」は3年目以降の跡地である。「レン・ケー (年取った森)」は、再びハレツに伐り拓くことが可能になった再生の森である。これをみると、竹混じりの森では8～9年を経過すると焼畑が可能な森に再生することが分かる。

一方、木だけの森については次のように説明する。



これをみると、木だけの森は「レーン」の期間が3～14年かかっており、15年目に至って焼畑が可能な森に再生することが分かる。つまり、竹の混じった森が木だけの森よりも再生の速さが速いことを認識しているといつてよい。

さらに、カム族の住むルアンパバーン県ゴイ郡ドーン村では、レーン (若い森) は4～8年目の跡地のことを指し、焼畑跡地が再生している途中の若い森ということを意味している。9年目ぐらいで竹と木がほぼ同じくらいの大きさになる。この9年目以降の森はレンケー (年取った森) と呼び、再びハイに伐ることが出来るように再生した森の意味である。マイチン (木) が大きくなると竹はだんだん小さくなるハリンという状態になるが、竹は根が生きているので森を伐ると再び竹が出てくると言い、竹の再生そのものが木の再生をも助けることにつながっていることも、重要なこととして指摘できるということである。

こうした認識は、カム族以外の民族でも認められる。2004年12月に聞き書きしたラオ族が住むポンサリー県クア郡パクバーン村では「木だけの森は水が少ないので、15年から20年しないとパケー (年取った森) に戻らないので、再び焼畑にできない。竹と木が混じった森は、

竹に水があるので10年でパーケーになり、再び焼畑に伐ることができる」と言っており、決して、焼畑跡地に竹が優先することが負の生態ではないということを、この地域の焼畑民の認識として確認できる。

さらに、ボンサリー県マイソンファン村（ラオケー族）の「ヒヤポー・シア（蜂の巣は7日）、ヤポー・シヌ（畑の巣は7年）」という諺は、蜂の巣は7日経つと蜂蜜が採れ、ヤポー（3年目の跡地）は、7年経過すると、つまり10年経ったら再び畑に出来るということを語っており、焼畑のために必要な休閑期間を象徴的に示している。この森も竹混じりの森であることはいうまでもない。

こうした竹に対する認識は、1年目はアワヤマ（粟の焼畑）、1年すれば竹の子畑、3年すればもとの竹の森、10年すればまたアワヤマという、鹿児島郡十島村悪石島の竹の焼畑の伝承や、大隅東海岸や九州山地の竹の焼畑の伝承と深くつながる。^{*3}

そこには、森を食べながら森を育てる持続可能な竹の焼畑の姿が見えてくる。

(5) 焼畑における木

こうした焼畑地として竹の森を優先するのに比して、Ⅲ-1-(1)のタイデン族は「木だけの森は、燃やして種播きをした後、乾燥して水分がなくなるので稲に良くない」、「木だけの森だとパーケー（年取った森）に再生するのが遅くなる」というように、木だけの森に対しては保水力、再生のスピードにおいても焼畑地として負の評価をしている。こうした認識はこの例に限らない。

また、2004年12月に聞き書きしたラオ族が住むボンサリー県クア郡パクバーン村では「この辺りでは、森の竹と木との混ざり具合の比率は、マイヒヤという竹が1/2、木とその他の竹が2/3程度混じっている森が好まれる」としており、大きな比重を占めるのは木ではなく、マイヒヤという竹であることを示している。さらに、この村でも「木だけの森は高い場所にあり雨が降らないと稲が枯れる」と言い、土地の乾燥していることを負の要素としてあげる。また、竹と木の混じった森は再び焼畑ができるまでに再生するのに10年、木だけの森だと15から20年かかると言い、再生の時間的差異を強調する。このことは、逆説的に焼畑の森として竹の優位性を示しており、持続可能な農耕としての竹の焼畑有効性を示しているといえる。

2 竹の焼畑と竹細工

焼畑の跡地に再生する竹は、竹細工の材料として利用される。ラオス北部の焼畑の村を歩くと、動物除けの畑の柵から家屋、生活道具などあらゆる場面で竹の利用がみられる。

例えば、Ⅲ-3-(2)のタイデン族は、竹の種類ごとに利用の目的を分類しており、それはそれぞれの竹の性質を元に行っていることが分かる。

竹細工の材料として一番有用な竹は、マイクワンという竹で、この竹の特徴は、節が長く折れにくく強く虫に食われにくいことである。この性格を生かして、サーット（竹マット）、ドーン（脱穀調整用円形浅底箕）、クーン（脱穀調整用円形浅底篩）、トークマツ（竹紐）、ティツ

プカオ（ご飯入れ籠）などに利用している。

二番目に多く用いられるのはマイホックという竹で、この竹の特徴は、直径が大きいので割って開いたとき広くなる。この性格を生かして、ターット（床板）、サーット（竹マット）、トークマツ（竹紐）に用いる。

三番目に多く用いられるのはマイヒヤという竹で、この竹の特徴は、節が長く、肉が薄く割れにくい。この性格を生かして、ファーフアン（家の編み壁）、コーンファン（垂木）、ドーン（脱穀調整用円形浅底箕）、クーン（脱穀調整用円形浅底篩）を作るのに用いる。

四番目がマイハーンという竹で、この竹は、山の頂上の土が枯れているところに生えている。その特徴は、節は短いが強くて（粘りがあって）折れない。この性格を生かして、屋根葺き茅を編むトークマツ（竹紐）にのみ利用する。

これらの竹のうち、四番目のマイハーンを除いたマイクワン、マイホック、マイヒヤの三種の竹は、水分のあるところに成育しており、燃やしたときに火が多く出てよく燃えて、肥料が多く出るから焼畑に適していて稲が強く育つと言い、マイチン（木）と混じると焼畑には一番適していると位置づけられるのである。

つまり、竹細工の材料となる竹は、そのまま竹の焼畑を形成する竹なのであり、両者は密接に関連しているのである。この地域の焼畑民は、竹の子の食まで含めてまさに竹の文化に生きる人々と言ってよい。

3 竹の焼畑の竹の食

(1) 竹畑跡地と竹の子採集地

竹の焼畑の跡地の再生過程の森は、竹の子畑として焼畑民の熱い眼差しが注がれ、竹の子採集地として認識されている。事例Ⅲ-13-(1)の「ヤム・ヌーン・キン・カップ・カオ（時・若い・食べる・一緒・ご飯）、ヤム・タオ・ペン・ツア・ホン・ノーン（時・年取った・～になる・布団・敷く・寝る）」や、事例Ⅲ-13-(3)の「ニャンム・オン・ペン・コン・カップ・カオ（時・若い・～になる・もの・一緒・ご飯）、ニャンム・タオ・マレオ・ペン・ツア・トン・ノン（時・年取った・～してきたとき・～になる・布団・敷く・寝る）、事例Ⅲ-13-(4)の「ニヤーム・ノイ・ベン・ニャー・カップ・カオ（時・小さい・～になる・添え物・一緒・ご飯）、タオ・マーテー・ベン・タッド・ホン・ノーン（年取った・～してきたとき・板材・敷く・寝る）」など、タイデン族が語るこれらの諺はそのことを明瞭に物語る。

こうした伝承は、タイデン族に限ったものではなく、カム族の間でも広く認められる。例えば、ルアンナムアー県ナムター郡チャルンスツ村の「ニャン・ヌン・プツ・ポー・マー（時・若い・食べる・～と共に・御飯）、ニャン・タオ・シツ・ポー・ヨー（時・年取った・寝る・～と共に・人）」や、ウドムサイ県フン郡ナムコンム村の「ニャンム・カニョム・プ・セ・マ（時・若い年・食べる・～と共に・御飯）、ニャンム・ケー・プ・セ・シー（時・年取った・食べる・～と共に・煙草：竹の歯ブラシにして歯を磨く）、ウドムサイ県サイ郡パクメン村の「ニヤム・カニョーン・イ・プ（時・若い年・我々・食べる）、ニャンム・ケー・テン・サオ

ンカン（時・年取った・作る・家の建材）、ルアンパバーン県ナムパーク郡ホイジン村（カム族）の「ニャン・カニョン・プ（時・若い年・食べる）、ニャン・ケ・タン・サー・ダンム・シー（時・年取った・編む・マット・敷く寝る）」など全く共通する認識である。その意味で、竹の子の食の在り方もまた竹の焼畑文化の一環として捉えなければならないことを物語っている。

(2) 竹の子と採集時期

次に、竹の子の加工調理の技術について触れてみよう。まず、どのような竹の子がいつの時期に食べられるかを見てみよう。2004年1月に聞き書きしたカム族の住むルアンパバーン県ゴイ郡ハッサプーイ村では、竹の子の美味しい順番と食べる（採集する）時期について、①タバングャクチャン（ラオ語名ノーコンム）…1月～6月、②ノーワン……3月～6月、③タバンボイ（ラオ語名ノーラン）……3月～5/6月、④ノークッド…5月～7月、⑤ノーソッド…6月～9月、⑥タバントラー（ラオ語名ノーヒヤ）……6月～9月と答える。これをみると、10, 11, 12月の3ヶ月を除いたどの月にも採集し食べていることが分かる。

(3) 竹の子の美味しい順番と加工・調理方法

次に、竹の子の美味しい順番と加工・調理方法をみてみよう。例えば、事例Ⅲ-4-(3)のカム族は、1番目にタバンプライ（ラオ語名ノーライ）をあげ、7月～10月にかけて採集して、タバントム（茹でて、辛子味噌を付けて食べる）、ゴン（スライスしてスープにして食べる）という加工・調理方法で食べるという。

二番目にはタバントネック（ラオ語名ノーホック）をあげ、タバントム（茹でて、辛子味噌を付けて食べる）、ゴン（スライスしてスープにして食べる）、タバンチャックA（皮を剥いてスライスして、壺に入れて発酵させる、5日経ったら食べられ、20日間くらい保存できる）、タバンチャックB（皮を剥いて大きく割いて、壺に入れて発酵させる。5日経ったら食べられ、一年間くらい保存できる）、タバンサローンA（皮を剥いて割いて天日に干して乾燥させる）、タバンサローンB（皮を剥いて割いてパンブラーツ〔囲炉裏〕の火で乾燥させる）、タバンサローンC（皮を剥いて割いてパンドルーツ〔囲炉裏の上の火棚〕で、薫製して乾燥させる）、タバンカムニャック（皮を剥いて竹筒に詰めて、その筒を地面に立てた杭に逆さに挿し込んで、その上に重しの石を乗せて、発酵と乾燥をさせる。1年間くらい保存ができる、さらに、一度筒から取り出してパンドルーツで薫製させると、2年間くらいは保存できる）という。

三番目はタバントラー（ラオ語名ノーヒヤ）をタバントムに、四番にはタバンチョイ（ラオ語名ノーソツ）をタバントムに調理して食べるという。五番目にはタバンヤクチョン（ラオ語名ノーコンム）をあげるが、現在の村では遠くにしかないので採りに行かないという。

こうしてみると煮沸、発酵、乾燥、薫製という多様な調理法で食べていることが分かる。

さらに、事例Ⅲ-4-(1)のタイデン族の調理方法は複雑になる。一番美味しいというノーライという竹の子の加工・調理は、ノーソンという無塩の発酵をさせる方法と、ノーケンという塩を加えて発酵させる二つ方法をとる。酸っぱくなったノーソンを天日で乾燥させた

ノーソンヘンという方法もある。彼らが三番目に美味しいというノーコンムという竹の子は、皮を付けたまま火の中で焼いたパオという焼き竹の子や、囲炉裏の熱い灰の中に突っ込んで蒸し焼きにしたモックという蒸し焼き竹の子にして、皮を剥いて割いて辛子味噌を付けて食べるという。

つまり、焼畑民にとって再生過程の焼畑跡地は、彼らの食文化の重要な位置を占める食料としての竹の子の採集地であることが分かる。こうした再生過程の焼畑跡地は、これまでの焼畑研究においては、単なる休閑地であり二次林であるとして、焼畑文化の研究の中に位置づけられてこなかった。これは竹の子の採集だけに限らず、先にも触れたように建材や竹細工の材料の採集地であり、そこに食料を求めてくる鳥獣の狩猟の場ともなるのである。むしろ、採集狩猟文化と呼ばれる有り様は、焼畑文化の中に併存するといったほうが妥当なのである。

4 稲種と稲作と稲作儀礼の起源神話

今回の調査で稲種や稲作儀礼とその由来を説く神話が確認されたのは、昨年度までに引き続いて大きな成果であった。稲作に関わる神話の中で稲種の起源を説く神話は、いくつかの類型を持つ。先ず、今回の聞き書きによって採集した稲種の起源を語る神話からみていくことにしたい。

(1) 豊かな野性の森から飛来し、逃亡する稲米－稲作以前の稲米－

事例Ⅲ-14-(1)のタイプアン族は、①稲米は直径が9握り拳の巨大な大きさであったこと、②稲米が川上から流れ下ってくるものであること、③稲米は寡婦の悪行によって飛び逃げ去ったこと、④以後10万年間人間は米を食べることができなくなったことを説いている。

ここで大事なことは、稲米は栽培するものではないということを明確には語っていないが、川上から流れて人間のもとにやってくるものであると説き、そのことを強く示唆していることである。つまり、この時点では、タイプアン族は「稲作以前」の状態にあったと認識されていることである。このことは、事例Ⅲ-14-(2)のタイプアン族が「昔は、稲作りをしなくとも、米倉の掃除をきれいにしておく、米は森からひとりでに流れてきて、米倉がいっぱいになるものであった」と語っていることによって、明確になる。また、前者は流れくる源については何も語っていないが、後者はそこが「森」であるということも明確に語っている。

こうしたことは、「昔、タイルーは米作りはしていなかった。山の中に7握りの大きな稲の穂があって、収穫の時期になると、ラオカオ（米倉）をきれいに掃除して鐘をポーンと叩くと、粉が飛んできて独りでにいっぱいになるものであった。ところが、あるとき、主人を亡くしたおばさんが、ラオカオを作り直していた。しかし、1人での作業であるため手間取り、完成しないうちに手に持っていた棒が鐘に触れてしまった。他の家のラオカオは粉を迎える準備が終わっていたのでいっぱいになった。しかし、おばさんのラオカオは準備が終わっていないため、飛んできた粉は外に溜まっていた。おばさんは、悔しさの余り怒って棒でその粉を叩いたところ、村の全部の粉が川や山に飛んでいってしまった。それ以後、

タイラーは粃がなくなってしまった」という。ルアンパバーン県ナムパーク郡コックナン村のタイラー族の事例によって、さらに明確な形を示す。

また、ルアンナムター県ナーレー郡ドンティップ村のタイラー族も「昔、稲を作らなくても、どこかの森の蔓みたいなものに粃が稔っていて、米倉をきれいに掃除をして口笛を吹きさえすれば、稲は独りで飛んできて米倉をいっぱいにくれてくれた。ある日、年を取ったメマイ（主人も子供もなくなった女性）が、米倉の準備をしていたが疲れてしまって、大きな溜息を吐いたところ、それが口笛のように鳴ったので、稲が飛んできた。その粃粒の大きさは瓢箪の大きさと、皮をむいて小さく刻んで食べていた。ところが、メマイが怒って「私はまだ準備ができていないので来るな」と言っ、マイボンという竹で作った箒で叩いた。叩かれた稲は小さく砕けて、森とか川とかあちこちに飛んで逃げってしまった。叩かれない稲はそのまま飛んで逃げ帰ってしまった。それで米がなくなり、代わりに芋とかを食べることになってしまった」と語る。さらに、ルアンナムター県ナーレー郡サムソン村のタイラー族も「昔は、タイラーは稲は作らなくても、パー・ヒマパーン（森・豊かな野生）というところから、カボチャのような大きな稲が飛んでくるものであった」と語り、いずれも稲の栽培はしていなくて、豊かな野性の森から飛来するものであったことを語る。

しかも、こうした「稲作以前」には稲は巨大であり、豊かな野性の森から飛来したり、森から流れ下ってくるもので、寡婦の悪行によって、現在のように稲米は砕けて小さくなり、飛び逃げ去ったという「稲作以前の稲米」、「奇蹟の稲」を語るのは、タイプアンやタイラー族などタイ族系の民族に強い神話であるといつてよい。

(2) 復活する稲種と稲作開始の神話

寡婦の悪行によって砕けて小さくなって飛び逃げ去った稲米は、再び人間の世界に復活し、そこから稲作が始まると説く。事例Ⅲ-14-(1)のタイプアン族は、飛び逃げ去った稲米のその後について、①10万年後、一人の女性が川に魚掬いに行き、②雌の魚を捕まえる、③飛び逃げ去った稲米の魂を保護していた雄の魚が出てきて、④恋人の雌と稲の魂を交換することを申し出る、④女性は雌の魚を戻し、飛び逃げ去った稲米の魂を手に入れ村に持ち帰り、⑤焼畑で稲作を始めると語る。これによれば、稲米の逃げた先が水辺・川であり、その稲米の魂は雄の魚によって保護されていたことが分かる。さらに、復活した稲米の魂（稲種）を手にしたのが女性であったことも重要である。

この特徴は、先に例示したルアンパバーン県ナムパーク郡コックナン村のタイラー族の事例の後段では「現在のように小さな粒に割れて、村の全部の粃が川や森に飛んでいってしまった。森に逃げた粃はカイパー（野鶏）の雌鶏が保管した。また、川に逃げた粃はパシュウという種類のナンタロタラーンという名前の雌の魚が、ナン・クワ・ソツ（～さん・お手伝い・ソツ）と命名して保管した。それ以後10万年間、タイラーは粃がなくなってしまった。ところが、10万年後、あるお金持ちの女性が、ヒーン（三角網）を持って川に魚取りに行ったところ、パーカンという種類の雄の魚を捕まえた。彼はパシュウという種類の魚のナンタロタラーンの恋人であったので、パシュウは「恋人を捕られたら困るのでパーカンを助けて

ください。その代わりに、稲を差し上げますのでパークンを返してください」とお願いをした。女性がパークンを返すと稲をくれた。その時からタイルーは再び稲を手に入れ、稲作りを始めることができた。この時の稲はカオ・シュウ（稲・パシュウ）という名前の稲である。だから、ホンカオヘツ（成育促進の儀式）にはガイ・メイ・ウーン・カオ（鶏・雌・抱く・稲）とパークン、パシュウの2匹の魚を供える」と語られる。

これは、逃げ去った稲米が川の魚によって復活され、それを手に入れたのが女性であること、その復活した稲米の魂を稲種として稲作を始めたという稲種の起源と、稲作の起源を語るということでは事例Ⅲ-14-(1)のタイブアン族と大筋で一致を見せる。

しかし、タイルー族の場合は、逃げ去った稲米を保護したのが、「カイパー（野鶏）の雌鶏」であり、「パシュウという雌の魚」であり、復活した稲米の魂（稲種）を手に入れたのは「お金持ちの女性」というように、総て女性との繋がりで語られる。逃げ先が森であり、保護したものにカイパー（野鶏）が加わっていること、さらに、稲米の魂（稲種）を保護し、人間与えた魚が雌であることは大きな違いである。

しかも、ルアンパバーン県ナムパーク郡コックナン村のタイルー族の場合は、播種儀礼においても魚（竹製の模型）を供え、鶏を供犠し、成育促進儀礼においてもガイメイウーンカオとパークン、パシュウの2匹の生きた魚を供え、収穫儀礼では鶏を供犠し、その血や肉、羽を供えるなど、鶏と魚が稲作儀礼と深く繋がっていることから、彼らの語る神話のほうがプロトタイプであると思われる。

こうした、鶏と魚の雌が逃げた稲の魂を抱いて保護し、人間の女性の手で復活し、稲作が開始されるという稲種と稲作開始の神話は、タイ族系の民族が管掌する神話として理解することが妥当であると考えられる。

(3) 野鳥の死体から生まれる稲種と稲作の起源

一方、狩猟によって撃ち獲った野鳥の胃袋から稲種が生み出されるという、死体化生神話に類すると思われる稲種の起源神話も豊かにみられる。

① 兄妹始祖神話の中で語られる野鳥の死体から生まれる稲種と稲作の起源

例えば、事例Ⅲ-14-(5)のカム族（ルアンパバーン県カム郡サントン村）の場合は、①世界中が洪水になり総ての人間が死ぬ、②しかし、兄妹だけは神の教えにより生き残る、③尾長の黒い鳥の教えに従い結婚する、④兄がノックカウという野鳥をモ（弩）で撃ち獲る、⑤それを解体すると見たこともない種が百種類も千種類も出てきた、⑥播いてみると最初の年は、本当にきれいな稲が育って10kgの収穫があった、⑦その稲はまだ食べずに、次の年も畑に播いたところ、10束以上の稲が穫れた、⑧踏み臼で搗いて精米して、最初は水と一緒に入れて食べたなら美味しかったので、たくさん食べた。また、別に蒸して食べるのもっと美味しかったので蒸して食べた。その後、稲作りをするようになったと語る。

さらに、この神話には後段があり、①妹が人間ではなく瓢箪を生む、②瓢箪から子供が出てくる、③その子供が人類の起源となると語る。つまり、前、後段全体を通して洪水神話、兄妹始祖神話となっており、その中の一部として稲種と稲作の起源神話が語られてい

ることになっているのである。

この神話のプロトタイプと思われる神話は、ウドムサイ県ブン郡ブーラット（旧ナムコンム）村のカム族が持っている。その神話は、「オムクッコン」と題する神話で、①ある男がオム（土竜）を捕りに出掛ける、②捕ったオムが、これから地球を熱水で洪水にするところだが、解放すれば助かる方法を教えるという、③オムを解き放して助かる方法を教えてもらう、④男は教えられたとおり、丸太をくり抜き中に入る、⑤中には二人しか入れないので、母、妻を排除して妹を入れる、⑥洪水の中を漂泊する、⑦洪水が収まり丸太の中から外に出る、⑧家を建て二人で暮らす、⑨お互いに結婚相手を探すが、二人以外に人間はいない、⑩ノッタコックという野鳥の教えに従い結婚する、⑪妹は妊娠して3年目に、南瓜か瓢箪の大きさの実を産む、⑫産んだ実はそのままに放置しておく、⑬ある日、男は狩りに出てクットーンという野鳥を捕る、⑭その鳥の胃袋から、ゴッ・ワーン、ゴッ・モン、ゴッ・ジインム、ゴッ・エッ（ゴッ・ヒヤン：黒米と同じ稲）、ゴッ・ルアンの5種類の稲種が出てくる、⑮その種を焼畑の白蟻の塚で栽培する、⑯実った稲はいくら収穫しても減らない、⑰シンチャランコイという野鳥の教えに従うと収穫作業が終わる、⑱妹が産んだ実の中から話し声が聞こえる、⑲妹が焼いた鉄の棒を実に挿す、⑳中から人が次々に出てくる、㉑一番先に出てきたのがラメット族で一番色が黒い、二番目がカム族で二番目に黒い、出てきた順番に白くなっていき、最後に出てきたのがモン族で一番色が白い、㉒出てきた順に倒木に一列に座るが、重みで折れて仰天して声を発する、それが現在の各民族の言語になったと語る。先に触れたルアンパバーン県カム郡サントン村のカム族が語る内容と比較して、オムという動物との語りの端緒が語られ、妹を選択する基準が示され、野鳥の示唆が多く示され、野鳥の胃袋から現在の稲種に繋がる5種類の稲種が具体的に示され、民族の起源も、言語の起源も現在と繋がる具体性をもって語られていることが特徴である。

これに対して、シェンクアン県カム郡ハップサイポーン村のカムブン族は、①ある一組の夫婦がいた、②2人でオムを捕りに行く、③捕ったオムが、これから地球を熱水で洪水にするところだが、解放すれば助かる方法を教えるという、④オムを解き放すとおぼれないように穴を掘ってくれる、⑤夫婦で穴の中にはいる、⑥洪水が起き、地球全体が海になる、⑦他の人は皆死んで、2人だけは助かり、妻は妊娠していた⑧外に出て浜辺を散歩しているとき1粒の稲種を見つける、⑨その稲種を栽培して暮らす、⑩妻は最初に男の子を、次に女の子を産んだ、⑪兄妹が成長すると、両親が死ぬ、⑫適齢期になるが結婚相手がいない、⑬ノックスオンホックという野鳥の教えに従い結婚する、⑭妹は妊娠して3年目に瓢箪を生む、⑮生んだ瓢箪はそのままに家の中に放置しておく、⑯ある日、仕事から家に帰ると料理ができています、⑰次の日は瓢箪の中から人の話し声が聞こえる、⑱プラナイ（竹細工用の金串）を焼いて瓢箪に挿す、⑳中から人が次々に出てくる、㉑一番先に出てきたのがカムブン族で、瓢箪の口が焼けていたので一番色が黒い、二番目がラボン族で、三番目に出てきたのがラオ族であったと語る。

この神話は、洪水、稲種の起源、稲作の起源を体現するのが、兄妹の両親であるという点で、先の2例とは大きく異なっている。特に、稲種の起源に野鳥の関わりがない点、つまりハイヌベレ型神話、死体化生神話と呼ばれる稲種の起源神話が欠落しているのが特徴である。しかし、兄妹が野鳥の教えに従い結婚し、産み落とした瓢箪から各民族が生まれ出るといふ兄妹始祖神話として語られるのは共通になっている。稲種の起源、稲作の起源を語ることも民族の起源を語るという点に比重が置かれているといつてよからう。

こうしてみると、洪水漂泊神話、兄妹婚姻神話、いずれにしても、狩猟によって撃ち獲った野鳥の胃袋から稲種が生み出されるという、ハイヌベレ型神話、死体化生神話と呼ばれる稲種の起源神話、人類の起源、言語の起源を一連のものとして語る、ウドムサイ県フン郡プーラット（旧ナムコンム）村のカム族が伝承する神話が、そのプロトタイプであり、これらの神話を語るのがカム族であるといつてよいであろう。

② 少年と野鳥の死体から生まれる稲種の神話

兄妹始祖神話で語られる野鳥の死体から生まれる稲種とは別に、貧しい少年が撃ち獲った野鳥の胃袋の中から生まれる稲種を語る神話がある。

例えば、事例Ⅲ-14-(3)のフアパン県サムタイ郡ブンシアン村のカム族では、①両親のいない男の子がいた、②森に猟に行きトンブンルーという野鳥を撃ち獲る、③トンブンルーの胃袋から粉が出てくる、④翌年、焼畑を拓き白蟻の巣の周りに栽培する、⑤豊かに実り収穫しても収穫しても稲が減らない、⑥妊婦二人が手伝いに来る、⑦稲は白蟻の巣の口穴から生まれ出て、扱いた穂にくっついていて、⑧妊婦たちは噛んでいたチャカチャムという酸っぱい葉で穴を塞ぐ、⑨稲が穂に飛んでこなくなる、⑩だから、妊婦は稲作儀礼に参加させない。⑪収穫作業も、人の後からしか扱かせない、⑫稲粉を家の粉倉に運ぶときは、稲の魂が寄らなくなるので参加させないと語る。

この神話は、稲種が撃ち獲った野鳥の胃袋から生まれ出たことは語っているが、その稲種が始祖的な稲種の起源であるかどうかについては明確さを欠いている。しかし、その稲種が白蟻の巣の中から飛来する稲であることは、先に例示したウドムサイ県フン郡プーラット（旧ナムコンム）村のカム族が、「オムコック」という神話の中でも、撃ち獲ったクットーンという野鳥の胃袋から出てきたゴツ・ワーン、ゴツ・モン、ゴツ・ジンム、ゴツ・エツ（ゴツ・ヒヤン：黒米と同じ稲）、ゴツ・ルアンの5種類の稲種を、焼畑の白蟻の塚で栽培すると実った稲はいくら収穫しても減らないと語るように、元来、この種の神話が稲種の起源の神話として語られていたことが推量できる。

さらに、この神話は、種々の稲作儀礼の過程の中で、妊婦の関与を拒否するタブーについて語っていることであろう。これは、カム族の間で語られる稲の収穫作業の起源に関する神話でも認められる。つまり、畑の粉倉をきれいにしておけば、もともと稲粉は畑の穂からひとりで飛んでくるものであったが、粉倉の準備が間に合わなかった妊婦の悪行によって、飛来していた稲粉が焼畑の稲穂に飛んで逃げて戻ってしまい、そのときから人間は手で扱かなければならなくなったというのである。この女性が寡婦である場合もあるが、

いずれにしても子供としての稲の魂を孕むことが不可能で、稲の母となることができないという意味においては、既に孕んでしまっている妊婦と同様の存在であろう。いずれにしても、稲種の神話が稲作儀礼を強く支配していることを物語る例である。

そして、この種の神話は、カム族の間に特徴的に認められる神話であることを、強く指摘できるのである。

(4) 盗み型の稲種の起源神話

今回の調査では、ある動物が異界に出掛けて、稲種を盗んでくるという盗み型の神話は、1例のみであった。しかし、前年までの聞き書きで、10例を越える事例を収集している。それらを含めて盗んでくる動物ごとにみてみたい。

① 鼠の稲種盗み型

先ず、今回の聞き書きで唯一収集できたフアバン県トン郡ホアイトン村のヤオ族の事例Ⅲ-14-(6)からみていきたい。①昔々、粃粒は親指ほどの大きさであった、②昔稲作りはしていなかった、③稲を呼びに行くとひとりで米倉にとんできていた、④男主人が稲を呼びに行く、⑤女主人は米倉を掃除せずに不倫をして、米倉の準備が間に合わない、⑥米倉に入ろうとする稲粃を女主人が叩く、⑦稲粃は、遠い遠い海の向こうに逃げてしまう、⑧ナオ・ビョウ（鼠・稲）頼んで取りに行ってもらう、⑨ナオ・ビョウは小さな木の葉に乗って取りに行く、⑩ 稲粃は帰らないと言う、⑪ナオ・ビョウは粃の隅っこを少しだけ囓って持ち帰る、⑫人間はその米を種にして稲作を始めた、⑬だから、今のようにこんなに小さい粃になった。⑭ナオ・ビョウは、自分が持ち帰ってきたので米を食べるが、人間が食べる分は残しておくと言ふ。

この神話は、稲作りはしていなかったこと、稲粃が巨大米（奇蹟の稲）がひとりで飛んできていたこと、女性の悪行（不倫）で飛び逃げ去ったことを語るのは、タイラー族やカム族と同じであるが、飛び逃げる先が遠い遠い海の向こうであると語るのが特徴である。

また、稲種を復活させる動物がナオ・ビョウという鼠であること、巨大米の一部を囓って持ち帰った稲粃を稲種として稲作を開始したという稲種、稲作の起源を語り、そのために現在の小さな稲粃になったこと、鼠が稲粃を食べる正当性を語るのが大きな特徴である。

この型の神話は、ヴェトナム・ライチョウ省ホントウ県ホントウマン村の黒ザオ族（ヤオ族の一支系）でも、「ナオ（鼠）の話」として、

昔、黒ザオ族はお米があったが、あるとき種粃はタンクツという男（老人）に盗られて、ホワイ（海の向こう）に行ってしまうと、次の年からお米が作れなくなってしまった。

そこで、人々はナオ（鼠）に「ホワイに行つて種粃を持って帰つてきてください」と頼んだ。ナオは、ホワイまで行って種粃を食べて持ち帰ってきた。

そのナオをモロミエー（猫）が食べて、黒ザオはそのモロミエーから種粃をもらい、再び稲を作れるようになった。だから、お米は祖先と ナオとモロミエーに先に食べさせてから、人間はその後に食べる。

と語られる。^{※4}

ここでは、人間（男の老人）によって海の彼方へ持ち去られ、それを鼠に頼んで取り返すとなっている。さらに、人間の手に帰るまでに猫が介在するのが特徴である。

ただ、ホアイトン村のヤオ族は、ナオ ビョウの代わりにノックマイチャアという野鳥が、海の向こうまで飛んで取りに行ったという話も持っており、こちらは、野鳥が稲種、稲作の起源に関わるという意味では、次に示すアカ族に近いように思われる。

② 野鳥の稲種盗み型

今回はの聞き書きでは収集できなかったが、アカ族が住むルアンナムター県シン郡ヤールー村では、「セ・シー（稲・母）」と呼ばれる稲種の起源神話として、

昔、アカ族の人は稲は持っていなかった。しかし、稲が欲しくて野鳥に「お前が稲を探して来たら、僕は育ててお前はそれを食べてよい」とお願いした。昔は、野鳥と人間はお互いに話ができて、友達付き合いができていた。その野鳥の名は、ハチャという。

ハチャはお願いされたので、どこかへ探しに出掛けた。そして、人の稲を盗んだ。その人は、「お前は俺の稲を盗んだろう」と責めた。ハチャは、「いや違います。私は何も取っていない。何もないですよ。僕の胃袋の中を確かめてください」と言って、吐いて見せた。何も出てこなかった。実は、背中の羽根毛の中に隠していた。そうやってアカ族のところに稲を持ってきた。

その稲は、シパー、パトゥ、ロクー、プレー、アチャーの5粒で、総て焼畑に植える梗の種類であった。その稲を受け取った人は、それを種籾にしてだんだん増やしていった。

だから、この5種類の稲は、セ・シー（稲・母）と呼ぶ。また、ハチャは今でもこうした稲をよく食べるが、アカはそれを許して殺したりはしない。

と語る。

この神話は、アカ族における稲種、稲作起源を語る神話である。アカ族は稲は作っていなかった。稲種はアカ族以外の人間の所にあり、それをハチャという野鳥に盗ませる。ハチャは、稲種を背中の羽根毛の中に隠して持ち主を騙して持ち帰る。その稲種は焼畑の梗の稲種で、それを種として稲作を始める。だから、ハチャが稲を食べることを許すことを語っている。特に、稲種を背中の羽根毛の中に隠して持ち主を騙すという所に盗みの特徴が明確に現れているのは、先のヤオ族の事例との大きな違いである。

以上、今回は、ヤオ族の鼠型、野鳥型とアカ族の野鳥型とを取りあげたが、カム族にも野鳥型、蛭型が、モン族にも犬型、ムスー族にも犬型などが確認されているが、これらの検討は後日に期したい。

(5) 竹の節から復活する稲種

ラオス北部の焼畑民の間でしばしば語られる伝承の中に、生の竹や枯れた竹の節から稲の種を発見したという実体験の話がある。

今回の聞き書きで収集できたのは、事例Ⅲ-14-(7)のルアンパバーン県カム郡オムブリン

村のモン族が語る話である。それをみると、①村長のサイフートーさんが、②竹の子の節から稲種13粒発見する、③それを稲種として播いてみる、④赤い糯の稲であった、⑤10年間栽培するが収量が少なかったので栽培を止める、⑥竹の節にあった稲粉は霊が食べるために隠しておいたものであると語る。

ここで大切なことは、この話が実話であることであり、赤い糯であり、やがて栽培しなくなったことである。これは神話の範疇に入らない。しかし、発見された稲粉が、粳米を食べるモン族の食べない糯稲であり、それは霊が食べる稲米であり、しかも赤い稲米であるという意味では、きわめて始原的なにおいが強く感じられる。

こうした実話として語られる竹の節から発見され、復活する稲種の伝承は、特にカム族の間に強く認められる。たとえば、カム族が住むウドムサイ県ブン郡プーラット村では、

昔、サーコイ村（前住んでいた村）にいたとき、友人が30歳の頃（30年くらい前）にプーランという竹を伐っていたとき、節の中に稲粉を見つけた。その稲は、ゴッ・パヌルン（稲・羽）という名前で、飛ぶことのできる稲という意味である。人間がきちんと儀礼をしなかったから稲が怒って飛んで逃げ隠れたのである。

と語る。これも、稲種の起源を語っているとは言い難いが、人間の悪行（儀礼をしないこと）によって飛び逃げ隠れるという意味においては、稲種の始原的な姿を語っている。

V 終わりに

これらの聞き書きの事例が示すラオス北部の焼畑は、竹と関わりなしには語るができない「竹の焼畑」というものである。その生業基盤が竹の生活道具、竹の食文化を規定している「竹の文化」とでも言い得る民俗文化を作りあげていることがみえてくる。それは、トカラ列島、三島村から大隅半島東海岸、九州山地にかけてみられる「竹の焼畑」を生業基盤とする「竹の文化」と見事な一致を見せる。ここでは触れなかったが、本誌の「物言う雑草—ツユクサと焼畑民の記憶—」で述べているように、焼畑に付随する雑草に至るまで極めて精緻な一致をみせる。そこからは、日本民俗学が時間的、空間的な差異による変異であると理解している日本列島の地域の民俗文化が、少数民族間の文化の差異であることが臆気ながら見えてきた。すでに、筆者は竹の生活道具の比較を通してその可能性を主張し続けてきたが、周辺のアジアの諸少数民族との民俗文化の比較を通して、南九州の地域文化の多文化の有り様が示し得る可能性が確かなものになってきた。^{*5}それは同時に、日本列島の多文化、「いくつもの日本」の描写に直結する道であるといえるのである。

今回、稲作神話をとりあげたが、これは、嘗て大林太良が『稲作の神話』で議論した、日本のオオゲツヒメ型神話の作物起源伝承が、雑穀栽培型焼畑耕作と結びついて縄文時代の終わりごろに西日本に入ってきたという問題と、穂落伝承の作物起源伝承が水稻稲作文化と結びつき、その儀礼的表象としての烏勸請の問題^{*6}の新たな展開を意図しているものである。と同時に、山下欣一が『奄美説話の研究』で議論した様々な起源説話^{*7}との対応についても意識したものである。

しかし、現段階ではその序の口に入ったばかりとしかいえないが、稲作神話と稲作儀礼の関係を舍めて、さらなる事例の積み重ねと微細な要素の比較が必要と考える。そしてその先には、大林が

日本の地域的な差異として理解していた諸伝承が、単に西日本と東日本の差異としてではなく、山下が南西諸島の問題として限定して議論したことが南西諸島の地域の文化にとどまらず、中国南部、ラオス北部を含めた東南アジア大陸部の少数民族の伝承との精緻なレベルでの対応が見えてくる強い予感がある。そこには、他民族文化の南九州、南西諸島の民俗文化が見えてくるはずである。南それを目指して、九州から南西諸島の「竹の焼畑」を生業基盤とした「竹の文化」をキーワードにして、ラオス北部の少数民族の民俗文化の聞き書きを重ねていきたい。

注

- ※1 川野和昭「ラオスの少数民族の暮らしと文化－南九州との比較から－」（『黎明館企画特別展 海上の道－鹿児島県の文化の源流をさぐる－』鹿児島県歴史資料センター 黎明館 平成10年）、「もう一つの焼畑－南九州と東南アジアの竹の焼畑－」（『東北学』第4号 東北芸術工科大学 2001年）、「焼畑の恵－焼畑のその後をめぐって－」及び「竹の焼畑と稲作儀礼と神話～竹林文化論への試み」（『アジア・熱帯モンスーン地域の地域生態史の総合的研究：1945－2005』2003年度報告書、『同2004年度報告書』、『同2005年度報告書』（大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所 2004年、2005年7月、2006年9月）
- ※2 以下のラオス北部の事例については、今回調査の事例を除き、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所研究プロジェクト「熱帯アジアモンスーン地域の地域生態史の総合的研究」（プロジェクトリーダー秋道智彌）における川野和昭の調査（2003年12月から2004年1月、2004年12月から2005年1月、2005年10月から2005年11月）による調査に加え、2006年12月から2007年1月にかけて、川野和昭が独自に行った現地調査）による成果である。
- ※3 川野和昭前掲書※1のうち「ラオスの少数民族の暮らしと文化－南九州との比較から－」（『黎明館企画特別展 海上の道－鹿児島県の文化の源流をさぐる－』鹿児島県歴史資料センター 黎明館 平成10年）及び「もう一つの焼畑－南九州と東南アジアの竹の焼畑－」（『東北学』第4号 東北芸術工科大学 2001年）、「焼畑の恵－焼畑のその後をめぐって－」（『食と大地』ドメス出版 2003年）
- ※4 財団法人日本科学協会の平成11年度笹川科学研究助成を受けた「ヴェトナム北部の山岳少数民族の稲魂継承儀礼と動物供儀－南九州及び南西諸島との比較研究－」における、川野和昭が2000年11月に実施した現地調査の成果に基づくものである。
- ※5 「吹き溜まる南の民具 運搬具①背負い籠」（『季刊東北学』第1号 東北芸術工科大学東北文化研究センター 2004年）、「カタグイテゴ」の作り方と分布と文化の地域性」（『黎明館調査研究報告』第12集 鹿児島県歴史資料センター 黎明館刊 平成11年）等
- ※6 大林太良『稲作の神話』（弘文堂 昭和48年）
- ※7 山下欣一『奄美説話の研究』（法政大学出版局 1979年）

